

資 料

資料1 調査団員・氏名

(1) 現地調査 I (平成 26 年 6 月 2 日～7 月 14 日)

氏名	担当	所属
橋 秀治	総括	JICA 人間開発部 基礎教育グループ基礎教育第二課 課長
松崎 瑞樹	計画管理	JICA 人間開発部 基礎教育グループ基礎教育第二課
小泉 一七	業務主任/施設計画	株式会社 毛利建築設計事務所
榎本 久美子	副業務主任	株式会社 毛利建築設計事務所
毛利 信弘	建築設計 1	株式会社 毛利建築設計事務所
堀越 誠一	建築設計 2	株式会社 毛利建築設計事務所
福島 健	施工計画/調達計画/積算	株式会社 毛利建築設計事務所
田口 順子	教育計画/機材計画	株式会社 毛利建築設計事務所
ベルトラン・セドリック	教育計画 2 (自主補強)	株式会社 毛利建築設計事務所
岡田 登	通訳	株式会社 毛利建築設計事務所

(2) 現地調査 II (平成 25 年 11 月 29 日～12 月 12 日)

氏名	担当	所属
西本 玲	総括	JICA マダガスカル事務所 所長
松崎 瑞樹	計画管理	JICA 人間開発部 基礎教育グループ基礎教育第二課
小泉 一七	業務主任/施設計画	株式会社 毛利建築設計事務所
福島 健	施工計画/調達計画/積算	株式会社 毛利建築設計事務所
井口 あゆみ	通訳	株式会社 毛利建築設計事務所

資料 2 調査行程

(1) 現地調査 I (平成 26 年 6 月 2 日～7 月 14 日)

			官団員		(a)	(a')	(c)	(b)	(d)	(e)	(f)	(g)
			総括	計画管理	小泉 一七 業務主任/施設計画	榎本 久美子 副業務主任	堀越 誠一 建築設計2	手利 信弘 建築設計1	福島 健 施工計画/調査計画/積算	山口 順子 教育計画/機材計画	岡田 登 通訳	中田 健 自主増強 教育計画
			13	13	13	13	26	24	29	43	43	32
1	2014/6/2	月			東京→	東京→				東京→	東京→	
2	2014/6/3	火			→ヨハネスブルグ→アンタナリボ	→ヨハネスブルグ→アンタナリボ				→ヨハネスブルグ→アンタナリボ	→ヨハネスブルグ→アンタナリボ	
3	2014/6/4	水			JICA事務所表敬、国民教育省表敬、協議	建築関連調査、再委託準備				(a)に同行	(a)に同行	
4	2014/6/5	木			国民教育省協議、ドナー初回	国民教育省協議				同上	同上	
5	2014/6/6	金			建築関連調査、再委託準備、ドナー初回	建築関連調査、再委託準備				教育関連調査、ドナー初回	(a)に同行	
6	2014/6/7	土			建築関連調査、再委託準備	同上				教育関連調査	同上	
7	2014/6/8	日	東京→		資料整理	資料整理				資料整理	資料整理	→アンタナリボ
8	2014/6/9	月	→ヨハネスブルグ→アンタナリボ		団内会議	団内会議	東京→	東京→		団内会議	団内会議	
9	2014/6/10	火	JICA事務所表敬、国民教育省表敬、(日本大使館表敬)、第2次案件視察		建築関連調査、再委託準備	→ヨハネスブルグ→アンタナリボ			→ヨハネスブルグ→アンタナリボ	(a)に同行	(a)に同行	(a)に同行
10	2014/6/11	水	国民教育省協議、アンタナリボ→タマブ		(a)に同行	建築関連調査			調査・施工計画関連調査	同上	同上	(c)に同行
11	2014/6/12	木	DREN、CISCOとの協議		アンタナリボ→ヨハネスブルグ	アンタナリボ→チュレール			同上	同上	同上	アンタナリボ→チュレール
12	2014/6/13	金	要請校視察		ヨハネスブルグ	第2次案件調査			同上	同上	同上	第2次案件調査
13	2014/6/14	土	要請校視察、タマブ→アンタナリボ		→東京	同上			同上	同上	同上	同上
14	2014/6/15	日	ミニッツ案作成			チュレール→アンタナリボ			資料整理	資料整理	資料整理	チュレール→アンタナリボ
15	2014/6/16	月	国民教育省ミニッツ協議			建築関連調査			調査・施工計画関連調査	(a)に同行	(a)に同行	(c)に同行
16	2014/6/17	火	国民教育省ミニッツ協議、署名			同上			同上	教育関連調査	同上	同上
17	2014/6/18	水	JICA報告、大使館報告、アンタナリボ→ヨハネスブルグ		JICA報告、大使館報告	同上	東京→	同上	同上	同上	同上	同上
18	2014/6/19	木	ヨハネスブルグ		アンタナリボ→タマブ、サ小調査準備	アンタナリボ→タマブ、サ小調査準備			→ヨハネスブルグ→アンタナリボ	同上	アンタナリボ→タマブ、サ小調査準備	アンタナリボ→タマブ、サ小調査準備
19	2014/6/20	金	→東京		サ小調査(2)	サ小調査(3)	アンタナリボ→タマブ	アンタナリボ→タマブ	アンタナリボ→タマブ、サ小調査準備	(a)または(c)に同行	(a)に同行	(b)または(c)に同行
20	2014/6/21	土			合同調査	合同調査	合同調査	合同調査	合同調査	合同調査	合同調査	合同調査
21	2014/6/22	日			資料整理	資料整理	資料整理	資料整理	資料整理	資料整理	資料整理	資料整理
22	2014/6/23	月			サ小調査(2)	サ小調査(3)	サ小調査(1)	(b)に同行	(b)に同行	(a)または(c)に同行	(a)に同行	(b)または(c)に同行
23	2014/6/24	火			サ小調査(2)	サ小調査(3)	サ小調査(1)	(b)に同行	(b)に同行	同上	同上	(b)または(c)に同行
24	2014/6/25	水			サ小調査(2)	サ小調査(3)	サ小調査(1)	(b)に同行	(b)に同行	同上	同上	(b)または(c)に同行
25	2014/6/26	木			独立記念日	独立記念日	独立記念日	独立記念日	独立記念日	独立記念日	独立記念日	独立記念日
26	2014/6/27	金			サ小調査(2)	サ小調査(3)	サ小調査(1)	(b)に同行	(b)に同行	(a)または(c)に同行	(a)に同行	(b)または(c)に同行
27	2014/6/28	土			サ小調査(2)	サ小調査(3)	サ小調査(1)	(b)に同行	(b)に同行	同上	同上	(b)または(c)に同行
28	2014/6/29	日			資料整理	資料整理	資料整理	資料整理	タマブ→アンタナリボ	資料整理	資料整理	資料整理
29	2014/6/30	月			サ小調査(2)	サ小調査(3)	サ小調査(1)	(b)に同行	調査・施工計画関連調査	(a)または(c)に同行	(a)に同行	(b)または(c)に同行
30	2014/7/1	火			サ小調査(2)	タマブ→アンタナリボ	サ小調査(1)	同上	同上	同上	(a)に同行	(b)または(c)に同行
31	2014/7/2	水			サ小調査(2)	アンタナリボ→ヨハネスブルグ	サ小調査(1)	同上	同上	同上	(a)に同行	(b)または(c)に同行
32	2014/7/3	木			タマブ→アンタナリボ	ヨハネスブルグ	タマブ→アンタナリボ	同上	同上	タマブ→アンタナリボ	タマブ→アンタナリボ	タマブ→アンタナリボ
33	2014/7/4	金			テクニカルノート協議	→東京	施設・建築関連調査	同上	同上	テクニカルノート協議	(a)に同行	(b)に同行
34	2014/7/5	土			団内会議		団内会議	アンタナリボ→ヨハネスブルグ	団内会議	団内会議	団内会議	団内会議
35	2014/7/6	日			資料整理		資料整理	ヨハネスブルグ	資料整理	資料整理	資料整理	資料整理
36	2014/7/7	月			テクニカルノート協議		施設・建築関連調査	→東京	テクニカルノート協議	(a)に同行	(a)に同行	(b)に同行
37	2014/7/8	火			テクニカルノート署名、JICA報告		同上	同上	テクニカルノート署名、JICA報告	(a)に同行	(a)に同行	(b)に同行
38	2014/7/9	水			アンタナリボ→ヨハネスブルグ		アンタナリボ→ヨハネスブルグ		教育関連調査	(a)に同行	(a)に同行	アンタナリボ→ヨハネスブルグ
39	2014/7/10	木			ヨハネスブルグ		ヨハネスブルグ		同上	同上	同上	ヨハネスブルグ
40	2014/7/11	金			→東京		→東京		同上	同上	同上	→東京
41	2014/7/12	土							アンタナリボ→ヨハネスブルグ	アンタナリボ→ヨハネスブルグ	アンタナリボ→ヨハネスブルグ	
42	2014/7/13	日							ヨハネスブルグ	ヨハネスブルグ	ヨハネスブルグ	
43	2014/7/14	月							→東京	→東京	→東京	

6月9日: White Monday, 6月26日: 独立記念日

(2) 現地調査 II (平成 25 年 11 月 29 日～12 月 12 日)

		官団員		(a)	(d)	(f)
		9	9	14	14	14
		総括 (JICA事務所 西本所長)	計画管理 (人間開発部/基礎教育G 松崎職員)	業務主任/施設計画 (毛利建築設計事務所 小 泉)	施工計画/調達計画/積算 (毛利建築設計事務所 福島)	通訳 (井口あゆみ)
1	2014/11/29	土	東京→			
2	2014/11/30	日	シンガポール→ヨハネスブルグ→アンタナナリボ			
3	2014/12/1	月	JICA 事務所訪問、国民教育省協議			(a)に同行
4	2014/12/2	火	国民教育省協議			積算・調達計画関連調査 同上
5	2014/12/3	水	ミニツ協議			同上
6	2014/12/4	木	ミニツ署名			同上
7	2014/12/5	金	日本大使館表敬・報告 アンタナナリボ→ヨハネスブルグ	施設関連調査	同上	同上
8	2014/12/6	土	ヨハネスブルグ→			施設関連調査 同上
9	2014/12/7	日	→東京			資料整理
10	2014/12/8	月				施設計画関連調査 積算・調達計画関連調査 (a)に同行
11	2014/12/9	火				同上
12	2014/12/10	水	アンタナナリボ→ヨハネスブルグ			同上
13	2014/12/11	木	ヨハネスブルグ→シンガポール			
14	2014/12/12	金	→東京			

12月11日: Anniversary of the Promulgation of 4th Republic Day (第4共和憲法制定記念日)

資料3 関係者（面会者）リスト

国民教育省 (Ministère de l'Éducation Nationale)

氏名	所属部署	役職
M. Rolland Justet RABESON	-	次官
Mme. RABOANARY Hanta	-	大臣プロジェクト顧問
Mme. RATSIMISTRA Felamboahangy	省所有不動産・インフラ局	局長
M. ANDRIANALIZENDRY Joel Sabas Désiré	教育計画局	局長
M. RAZAFIMANDIMBY Daniel Euloge	教育計画局	計画管理評価課課長
M. RABENANDRASANA Teophil	教育計画局	スクールマッピング課
Melle. RAZAFINDRAFARA Perline	教育計画局	主任秘書
Mme. ROSOANANDRASANA Eliane	教育計画局	メッセンジャー
M. RANDRIAFANANTANANTSOA Laurence	省所有不動産・インフラ局	建設課課長
M. NAIIVOSON Albert	省所有不動産・インフラ局	設計担当エンジニア
M. RIANTSOA Donatien René	省所有不動産・インフラ局	施工管理エンジニア
M. RAZANAKOTO Andriamaro Saina	省所有不動産・インフラ局	専門技術者
M. RAANAKOTO Andriamaro Saina	省所有不動産・インフラ局	専門技術者
M. TILAHITSARA Clément	省所有不動産・インフラ局	管理課課長
M. RAZANFINDERABE Jonasuah	省所有不動産・インフラ局	専門技術者
Mme. NORTON Imbola Nirina	調達監理ユニット	公共調達責任者
M. RASAMIARIMALALA José	調達監理ユニット	職員
M. LAHINIRIKO Denis Alexandre	カリキュラム・投入局	局長
M. RAZAFIMAHANTSOA Nomenjanahary	人材局	就学前・基礎教育課課長
M. RAZAFIMAHANTSOA Nomenjanahary	基礎教育・識字教育局	局長
Mme. RAMIAZANTSOA Aimée	基礎教育・識字教育局	教育課課長
Mme. RAMAROSON Anne Marie	基礎教育・識字教育局	VAT 担当者
M. RAZAFIMAHANTSOA Nomenjanahary	人材局	基礎教育課課長

財務・予算省 (Ministère des Finances et du Budget)

M. RANAIVOSON Andriambala Harifidy	予算案計画局	業務部長
------------------------------------	--------	------

国立教育養成校 (Institut National de Formation Pédagogique)

M. MAKHA François	初等教育部	部長
-------------------	-------	----

Mme. VOAHANGI ARIMALALA Charles Eléonore	初等教育部	補佐
Mme. RANAIVONANANA Anne	中等教育部	部長

国民教育省アツィナナナ県地方教育局(Direction Régionale de l' Education Nationale)

M. LEMA Etienne(現地調査 I)→ M. SAMBANY Frederic(現地調査 II)	-	地方教育局長
M. RATSIMANGRESY Jean George	-	総務財務課長

トアマシナ I 学区(CISCO TOAMASINA I)

M. SAMBANY Frederic	-	学区長(現地調査 I)→ 地方教育局長(現地調査 II)
M. RAMANANIO NINA Aimé	-	副学区長

トアマシナ II 学区(CISCO TOAMASINA II)

Mme. MARA Sylire Nastine	-	学区長
M. TARISOA Guy Hervé	-	副学区長

ブリッカビル学区(CISCO BRICKAVILLE)

M. KAMISY Léonard	-	学区長
M. LEFAHENIHA Alfred	-	教育担当
Mme. LEKANISTY Claudine Folo	中央地区教育事務所(ZAP)	地区教育事務所長

バトマンドリ学区(CISCO VATOMANDRY)

M. RAJAONARISON Lemandiny Emmanuel	-	学区長
M. RAJOMAHARIMANANA Samuel	-	教育担当
M. RAKOTOZAFY Julia Ferry	-	総務・財務担当
M. RALAIARISOA Geroges	-	会計担当

FID(Fonds d' Intervention pour le Développement)

M. RAPANOELINA Mamisoa	業務部	業務部長
M. RAOELIJONA Dieudonné	-	改修・改築プロジェクトア ドバイザー

国際労働機関 (ILO)

M. RAKOTOMAYO Benjamina	-	労働集約型建築計画コーディネーター
Mme. RAKOTOMARDIMBY Fanjanirina Sylvie	-	計画管理

国際連合児童基金 (UNICEF)

M. RAMANANTSOA Roger	-	教育専門家
M. RAZAFINDRIANA Tiana Vatasoa	-	建設エンジニア
Mme. RASOAMAHENINA Landivola	-	地方技術アシスタント

世界銀行 (Banque Mondiale)

Mem. Harisoa Danielle RASOLONJATOVO	-	教育専門家
M. RABAKOSON Hervé	万人のための教育技術支援グループ	学校建設責任者

Aide et Action (NGO)

Mme. Evelyne HANTAMALALA	-	コーディネーター
M. RAKOTONIRANY Thierry	-	インフラ責任者

Association Intercooperation Madagascar (NGO)

Mme. RAHARISOQVELOHANTA Line	-	事務局長
------------------------------	---	------

SIVE (NGO)

Mme. RAKOTOARIZAFY Normololo Hadey Nantainimo	-	地区責任者
Mme. RAHARNSOA Bernadette	-	計画管理評価
Mme. HANTAMALALA Evelyne	-	本部コーディネーター

在マダガスカル日本国大使館

角田 崇成	-	参事官
山田 重周	-	一等書記官
河北 有朋	-	二等書記官
小川 大輔	-	二等書記官

JICA マダガスカル事務所

西本 玲	-	所長
三輪 哲也	-	所員
松谷 曜子	-	企画調査員
M. ANDRIANANDRASANA Onimandimisoa	-	上級計画担当

**PROCES-VERBAL DES REUNIONS (PROJET)
SUR L'ETUDE D'AVANT-PROJET SOMMAIRE
DU 4EM PROJET DE CONSTRUCTION D'ECOLES PRIMAIRES
EN REPUBLIQUE DE MADAGASCAR**

A la requête du gouvernement de la République de Madagascar (ci-après désigné comme le « Madagascar »), le gouvernement du Japon a décidé d'exécuter une étude préparatoire pour le 4^e Projet de Construction d'Ecoles Primaires (ci-après désigné, comme le « Projet ») et a confié à l'Agence Internationale de la Coopération Internationale (ci-après désigné, comme la « JICA »), l'exécution de cette étude.

La JICA envoie une mission d'étude préparatoire (ci-après désigné, comme la « mission »), conduit par M. TACHIBANA Hideharu, Directeur de la 2^{ème} Division de l'Education de Base du Groupe de l'Education de Base du Département de Développement Humain, comme le chef de mission pour la période du 3 juin 2014 au 12 juillet 2014.

Après des discussions et des études sur terrain, les deux parties ont convenu des points qui sont mentionnés dans l'Appendice.

Fait à Antananarivo, le 17 juin 2014

橘 秀治

Hideharu TACHIBANA
Chef de mission
Mission d'étude Préparatoire
Agence Japonaise de la Coopération
Internationale (JICA)
Japon



Rolland Justet RABESON
Secrétaire Général
Ministère de l'Education Nationale et de
l'Alphabétisation
République de Madagascar



Andriambala Harifidy RANAIVOSON
Chef de Service du Secteur Social et Administratif
Direction de la Programmation et du Cadrage
Budgétaire
Ministre des Finances et du Budget
République de Madagascar

Appendice

1 Objectif du Projet

L'objectif du présent Projet est d'améliorer l'accessibilité des établissements publics primaires (EPP) et l'environnement scolaire à travers une construction de nouveaux établissements scolaires et une fourniture de mobiliers scolaires dans les 4 circonscriptions scolaires (CISCO) de la région d'Atsinanana (Toamasina I, Toamasina II, Brickaville, Vatomandry).

2 Organisme responsable/en charge de la mise en œuvre du Projet de la partie malgache

- 2.1 Le Ministère de l'Education Nationale (MEN) sera désigné comme l'organisme responsable de l'exécution du présent Projet.
- 2.2 La Direction du Patrimoine Foncier et de l'Infrastructure du Ministère de l'Education Nationale (DPFI/MEN) assurera la mise en œuvre du présent Projet.
- 2.3 La Direction Régionale de l'Education Nationale (DREN), la Circonscription Scolaire (CISCO) et la Zone d'Administration Pédagogique (ZAP) de la zone ciblée par le Projet aussi participeront à la mise en œuvre du Projet.
- 2.4 L'organigramme des structures concernées par ce Projet est présenté en Annexe I.

3 Zone ciblée par le Projet

- 3.1 La zone ciblée par le présent Projet est constituée par les 4 circonscriptions scolaires de la région d'Atsinanana (Toamasina I, Toamasina II, Brickaville, Vatomandry).
- 3.2 Les deux parties ont convenu de sélectionner les écoles ciblées par ce projet parmi les sites ciblés de l'Annexe 2 sur la base du résultat de l'étude sur terrain en tenant compte de l'ordre de priorité. Elles ont aussi convenu d'appliquer les critères en Annexe 4 pour la sélection de site.
- 3.3 La partie malgache remettra à la mission d'étude ou au bureau de la JICA à Madagascar, un document justificatif de la propriété de terrain des écoles, présentées en Annexe 2 (un certificat d'immatriculation et de la situation juridique du terrain d'écoles ou un document équivalent) avant le 10 juillet.

4 Composantes du Projet

Les deux parties ont convenu :

- 4.1 d'élaborer le plan du projet en se basant sur le cycle primaire de 5 ans ;
- 4.2 de décider les composantes de chaque site en donnant la priorité à la salle de classe, des mobiliers scolaires (table/banc, bureau et chaise d'enseignant, tableau noir et armoire) ainsi que les blocs de latrines, et ce en se basant sur le résultat de l'étude sur terrain ;

- 4.3 d'inclure un bureau de directeur et des mobiliers nécessaires de ce bureau dans le projet au cas où le bureau de directeur n'existe pas à des sites sélectionnés ;
 - 4.4 d'exclure le puits, demandé par la partie malgache, et ce pour donner la priorité à la salle de classe, mais d'envisager de prévoir un réservoir d'eau de pluie pour des sites sans installation d'eau ou avec installation d'eau, mais endommagée ;
 - 4.5 de construire des clôtures d'école, si nécessaire, à la charge de la partie malgache ;
 - 4.6 d'envisager la faisabilité d'une composante soft pour assister la mise en œuvre appropriée de la gestion d'exploitation et d'entretien d'école après l'étude sur terrain.
- 5 Système de l'aide financière non remboursable du Japon
- La partie malgache a été bien informée du système de l'aide non remboursable du Japon par la mission d'étude. Par ailleurs, les deux parties ont convenu que la mise en œuvre du Projet soit par le système de l'aide financière non remboursable au développement communautaire, soit par le système de l'aide financière non remboursable du projet général, sera décidé par la partie japonaise sur la base du résultat de cette étude, et que la partie malgache sera informée de cette décision avant la fin du juillet.
- 5.1 La partie malgache est bien informée du système de l'aide non remboursable au développement communautaire du Japon, mentionné en Annexes 5, 6, 7, 8.
 - 5.2 La partie malgache a été bien informée du système de l'aide non remboursable du projet général, mentionné en Annexe 9-1 et 9-2.
 - 5.3 La partie malgache prendra les dispositions nécessaires pour une bonne marche du projet, mentionnée en Annexe 10, lors que la mise en œuvre du projet de l'aide financière non remboursable sera décidée.
- 6 Processus d'exécution du projet
- Voici l'explication donnée par la mission japonaise concernant le processus d'exécution du projet.
- 6.1 Différentes étapes d'exécution du projet :
 - (i) Le projet de l'aide non remboursable est approuvé par le conseil des ministres,
 - (ii) Un Echange de Note (E/N) est signé par le gouvernement du Japon et le gouvernement de la République de Madagascar,
 - (iii) Un Accord de Don (C/D) est conclu par le gouvernement malgache et la JICA.
 - (iv) L'Accord de don définit les règles nécessaires de la mise en œuvre du projet comme condition du paiement, obligations du pays bénéficiaire, condition d'achat, etc.
 - 6.2 Un contrat de représentation sera conclu par le gouvernement malgache avec un

agent représentant d'approvisionnement après la signature sur l'E/N et G/A au cas où le présent Projet sera exécuté dans le cadre du système de l'aide non remboursable pour le développement communautaire.

7 Comité consultatif

7.1 Les deux parties ont convenu de créer un comité consultatif, formé par les représentants des autorités malgaches concernées et un représentant de la JICA pour assurer une bonne marche du Projet. Les membres du comité sont les suivants :

- (i) Représentant du MEN,
- (ii) Représentant du Ministère des Finances et du Budget,
- (iii) Représentant du Bureau de la JICA à Madagascar.

7.2 Le Comité consultatif sera tenu régulièrement pour permettre la consultation des deux parties sur des points divers (avancement du Projet, questions techniques, approvisionnement des matériaux, etc.), qui seront soulevés au cours de la mise en œuvre du Projet.

8 Exonération fiscale

8.1 La partie malgache a accepté de prendre des mesures nécessaires pour l'exonération fiscale d'une manière souple et sûre, demandée par la mission d'étude.

8.2 Les charges fiscales pour la mise en œuvre du Projet de coopération sont en principe 'Exonérées'. Cette exonération, requise et demandée par la partie japonaise, signifie éventuellement la prise en charge par la partie malgache (MEN) des charges fiscales. Les deux parties se sont mis d'accord que l'acquittement de charge fiscale par la partie malgache doit être fait à temps voulu pour assurer la qualité et le progrès des travaux.

8.3 Les deux parties ont convenu que l'exonération des charges fiscales serait procédée en principe suivant les procédures indiquées en Annexe 11, de la même manière que celles appliquées lors du 3em Projet, 'Projet de Construction de Salles de Classe d'Ecoles Primaires dans la Province d'Antsiranana et de Toliara en République de Madagascar', et que les deux parties décideraient le rôle de chaque organisation concernée, des procédures, etc. en cette matière pour la mise en œuvre du projet dans le cadre du système de l'aide financière non remboursable du projet général.

9 Considérations environnementales et sociales

Les deux parties se sont mis d'accord qu'il serait nécessaire d'appliquer la loi, les réglementations malgaches ainsi que les directives de la JICA en matière des considérations environnementales et sociales lors de la mise en œuvre du Projet.

10 Calendrier d'Etude (Provisoire)

- 10.1 La présente étude a démarré le 02 juin, la date d'arrivée du premier groupe d'étude et sera poursuivi jusqu'au 12 juillet 2014.
- 10.2 Le résultat de cette étude sera analysé au Japon pour réaliser la conception définitive jusqu'au mois du novembre 2014. Par la suite, une mission sera envoyée de nouveau en République de Madagascar à la fin de novembre pour présenter le Rapport Abrégé de la Conception de Base à la partie malgache.

11 D'autres points de discussion

11.1 Contribution de la partie malgache

La partie malgache exécutera à temps voulu, les contributions de la partie malgache, mentionnées en Annexe 10, en prévoyant un budget nécessaire pour ce faire. Le budget nécessaire pour cette contribution dont le contenu sera précisé par la mission (groupe des membres de consultant) avant le 7 juillet, sera discuté par les deux parties. Les deux parties ont convenu que la partie malgache entamerait les procédures nécessaires pour la budgétisation de ce frais dans un délai requis. En outre, elles ont pris note que l'estimation du frais pour cette contribution malgaches serait éventuellement modifiée après une analyse au Japon par le groupe de consultant.

11.2 Gestion d'exploitation et d'entretien

La partie malgache prévoira le budget nécessaire pour des tâches de la gestion d'exploitation et d'entretien d'établissements scolaires construits.

11.3 Affectation d'enseignants

La partie malgache affectera des enseignants et le personnel administratif, nécessaires par suite de l'augmentation du nombre de salle de classe. Elle fournira les informations à la mission d'étude japonaise sur le nombre d'élèves et d'enseignants d'écoles ciblées avant le 02 juillet 2014.

11.4 Partage d'informations par les organisations concernées par ce projet

La partie malgache organisera pertinemment le partage des informations du Projet avec toutes les structures concernées comme le MEN la DREN, les 4 CISCOS, à savoir, Toamasina I, Toamasina II, Brickaville et Vatomandry, pour assurer une bonne coordination pour la planification du Projet.

11.5 Mise à la disposition de la partie japonaise les informations requises

La partie malgache a accepté la demande de la mission d'étude de remettre au groupe de consultants des réponses par écrit pour les questionnaires annexés au Rapport de Commencement avant le 02 juillet 2014.

11.6 La partie malgache s'engage à prendre des mesures nécessaires pour assurer la sécurité des membres japonais qui participent au Projet.

11.7 Le groupe de consultant de cette étude établira après la signature du Procès-Verbal, une note technique concernant les points importants constatés au cours de l'étude sur terrain pour la présenter et discuter avec la partie malgache.

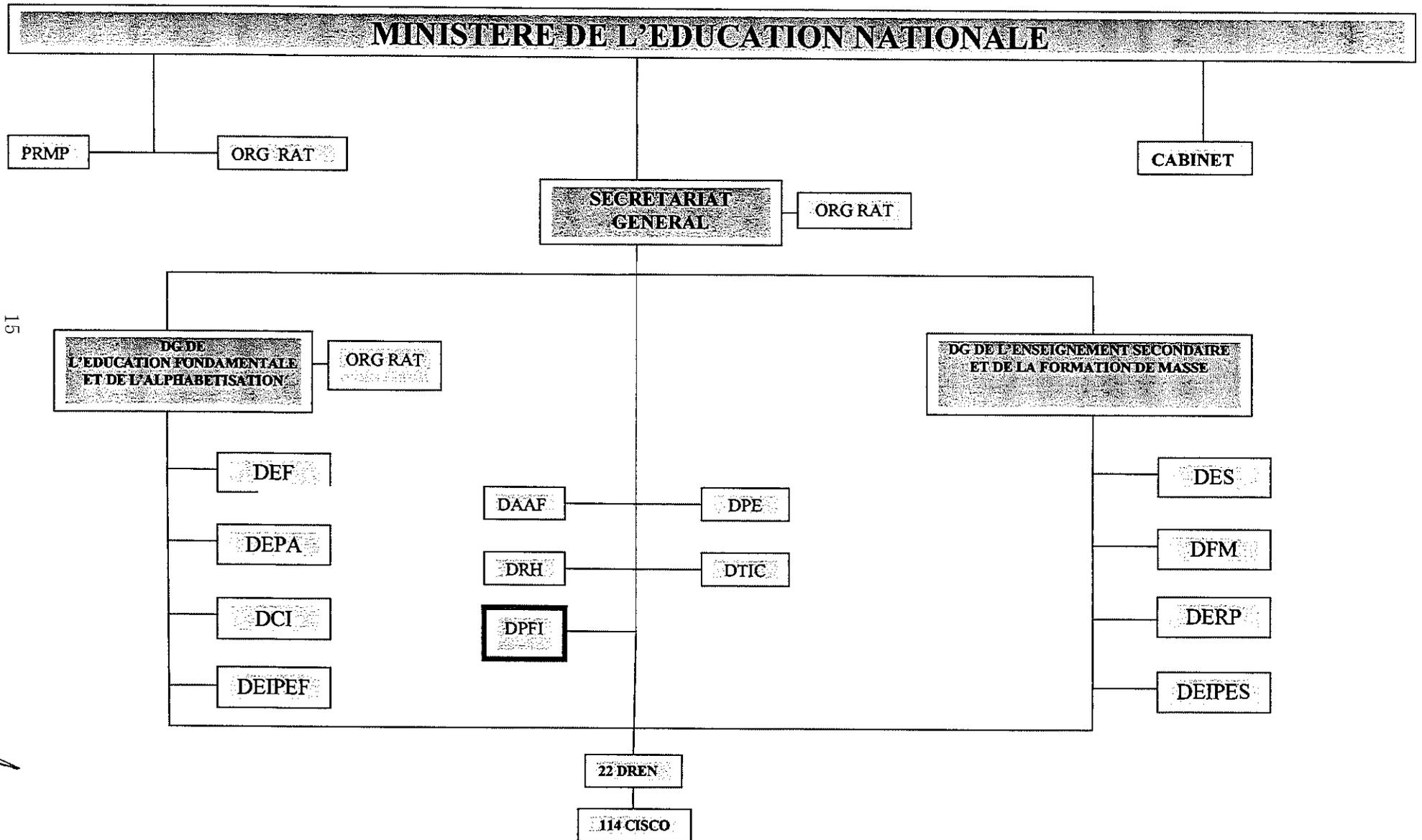


ANNEXES :

- Annexe 1 : Organigramme du MEN ;
- Annexe 2 : Liste des sites proposés par la partie malgache et son ordre de priorité ;
- Annexe 3 : Plan de situation de sites d'étude ;
- Annexe 4 : Critère de sélection des sites ciblés par ce projet ;
- Annexe 5 : Aperçu de l'Aide Financière Non Remboursable au Développement Communautaire du gouvernement du Japon ;
- Annexe 6 : Processus de la mise en œuvre de l'Aide Financière Non Remboursable au Développement Communautaire après l'Echange du Note et la Convention de Don ;
- Annexe 7 : Organigramme des procédures de l'Aide Financière Non Remboursable au Développement Communautaire ;
- Annexe 8 : Mouvement du fonds pour la mise en œuvre de l'Aide Financière Non Remboursable au Développement Communautaire ;
- Annexe 9-1 : Aperçu de l'Aide Financière Non Remboursable pour le Projet Général ;
- Annexe 9-2 : Schéma d'exécution et de procédure de l'Aide financière non remboursable au développement communautaire du Gouvernement du Japon ;
- Annexe 10 : Principales mesures à prendre par chaque gouvernement ;
- Annexe 11 : Procédures d'exonération des charges fiscales

7

ANNEX 1 Organigramme du MEN



15

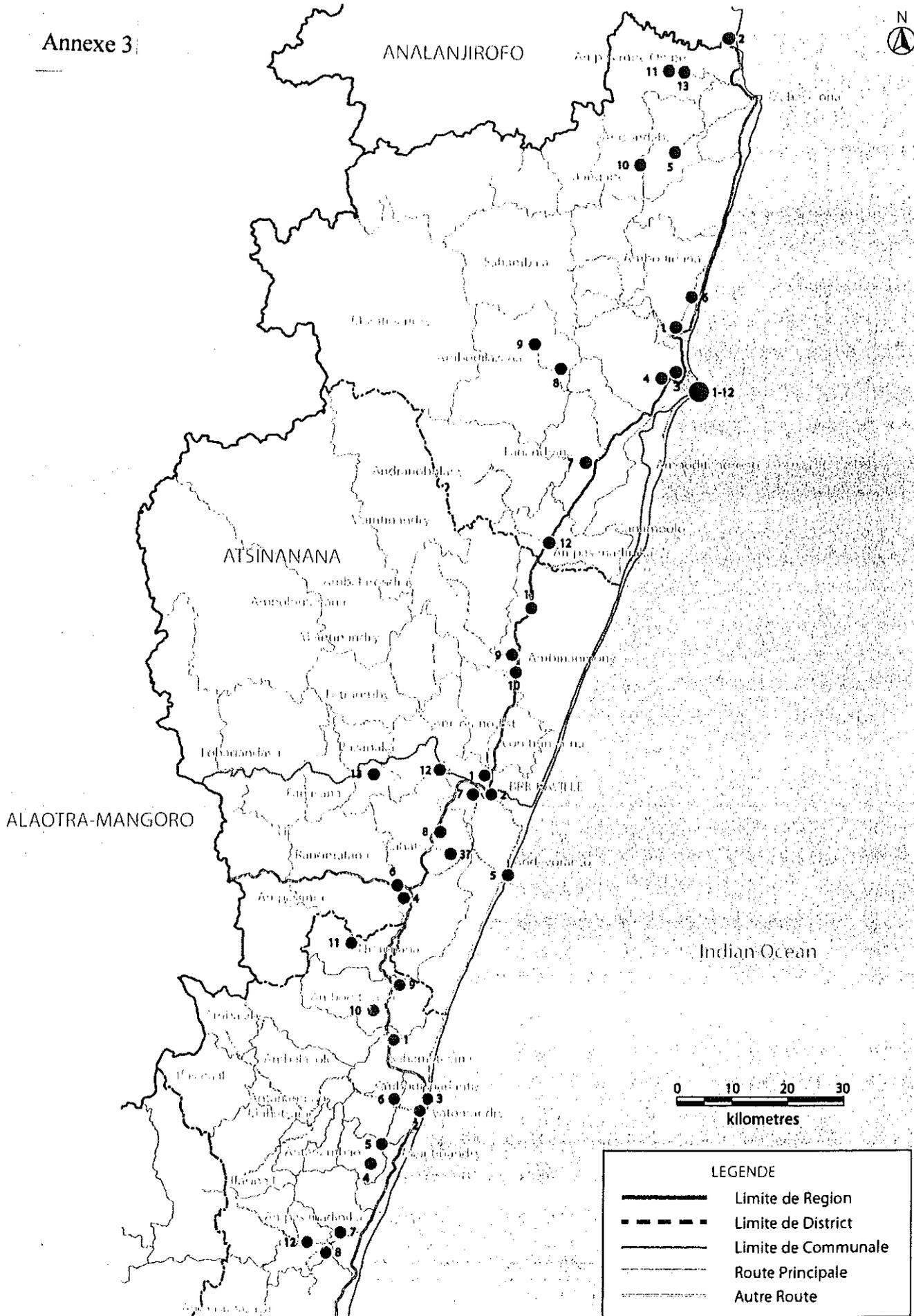
le fig

Annexe 2 Liste des sites par ordre de priorité par CISCO pour le 4ème projet japonais

	Ordre de priorité (par CISCO)	CISCO	Commune	Nom Etablissement	Ordre de Priorité/ 50 écoles
I	1	BRICKAVILLE	Brickaville	EPP Brickaville	1
	2	BRICKAVILLE	Brickaville	EPP Avilona	5
	3	BRICKAVILLE	Mahatsara	EPP Antsampanana	9
	4	BRICKAVILLE	Mahatsara	EPP Ampitabe	13
	5	BRICKAVILLE	Andovoranto	EPP Andovoranto	17
	6	BRICKAVILLE	Mahatsara	EPP Manambonitra	21
	7	BRICKAVILLE	Brickaville	EPP Menagisy	25
	8	BRICKAVILLE	Mahatsara	EPP Ambodiriana	29
	9	BRICKAVILLE	Ambinaninony	EPP Ambinaninony	33
	10	BRICKAVILLE	Ambinaninony	EPP Analila	37
	11	BRICKAVILLE	Ambinaninony	EPP Ambodisovoka	41
	12	BRICKAVILLE	Anivorano	EPP Antsieranambe	45
	13	BRICKAVILLE	Razanaka	EPP Ambodiaviavy	49
II	1	VATOMANDRY	Sahamatevina	EPP Anosimanasa	2
	2	VATOMANDRY	Vatomandry	EPP Vohitsara	6
	3	VATOMANDRY	Vatomandry	EPP Ambilakely	10
	4	VATOMANDRY	Tsarasambo	EPP Tsarasambo	14
	5	VATOMANDRY	Tsarasambo	EPP Ambodivontaka	18
	6	VATOMANDRY	Ambodivoananto	EPP Ambodivoananto	22
	7	VATOMANDRY	Ilaka - Est	EPP Ilaka-EST	26
	8	VATOMANDRY	Niarovana Caroline	EPP Mahatsara	30
	9	VATOMANDRY	Amboditavolo	EPP Lavakorana	34
	10	VATOMANDRY	Amboditavolo	EPP Amboditavolo	38
	11	VATOMANDRY	Niherenana	EPP Niherenana	42
	12	VATOMANDRY	Niarovana Caroline	EPP Bonaka	46
III	1	TOAMASINA II	Antetezambaro	EPP Analamalotra	3
	2	TOAMASINA II	Ampassimbe Onibe	EPP Ambalahasina	7
	3	TOAMASINA II	Salazamay	EPP Ambalamanasy	11
	4	TOAMASINA II	Salazamay	EPP Ambodisaina	15
	5	TOAMASINA II	Andondabe	EPP Andondabe	19
	6	TOAMASINA II	Antetezambaro	EPP Antetezambaro	23
	7	TOAMASINA II	Fanandrana	EPP Ambodikily	27
	8	TOAMASINA II	Ambodilazana	EPP Volobe	31
	9	TOAMASINA II	Ambodilazana	EPP Ambodilazana	35
	10	TOAMASINA II	Andondabe	EPP Ambodihazomamy	39
	11	TOAMASINA II	Ampasimbe Onibe	EPP Ampasimbe Onibe	43
	12	TOAMASINA II	Ampasimadinika	EPP Andranokobaka	47
	13	TOAMASINA II	Ampasimbe Onibe	EPP Hotsika	50
IV	1	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Zoto	4
	2	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Tsi /	8
	3	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Lovisoa	12
	4	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Espérance Mangarano II	16
	5	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Tocavelona Raphael	20
	6	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Dérict Analakininina	24
	7	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Valinson	28
	8	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Mangareza	32
	9	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP La Loire	36
	10	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Androranga	40
	11	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Ambohijafy	44
	12	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP La Poudrette	48

2e Colonne : Priorité par CISCO/ Dernière Colonne: Priorité de toutes les 50 écoles

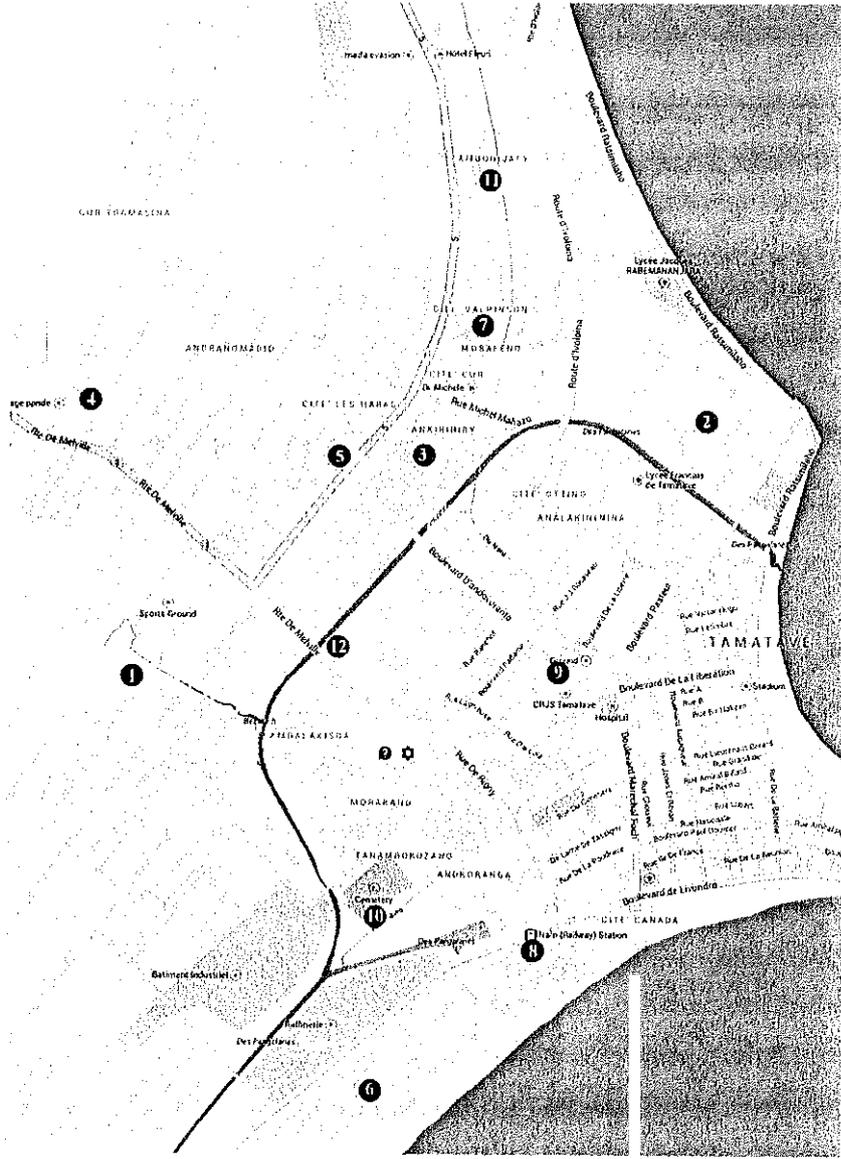
(La Priorité de 4 CISCOs: BRICKAVILLE→VATOMANDRY→TOAMASINA II→TOAMASINA I. EX.: L'ordre de Priorité N°1 de chaque CISCO: Brickaville N°1 →Vatomandry N°1→Toamasina II N°1→Toamasina I N°1 et ainsi de suite)



H

[Handwritten signature]

[Handwritten mark]



Handwritten mark

Handwritten signature

Handwritten mark

ANNEXE 4 Critère de sélection des sites ciblés par ce projet

1. Sites où les classes sont pléthores en raison du manque de salles de classe ou la construction de salles de classe est de nécessité imminente suite aux dommages qu'elles ont subis dus aux cyclones ou autres ;
2. Sites où le besoin actuel et futur en salles de classe peut être confirmé sur la base du nombre d'élèves scolarisés, du nombre d'enfants en âges scolarisables, du taux d'accroissement démographique, du taux de scolarisation et autres ;
3. Sites où l'affectation d'enseignants nécessaires et la dotation du budget pour le fonctionnement d'école peuvent être assurées après l'achèvement de la construction des infrastructures ;
4. Sites où le FAF est mis en place pour assurer le fonctionnement et la maintenance d'école, et la collectivité locale, la population de la communauté et les enseignants peuvent fournir leurs appuis à cet effet ;
5. Sites où le document qui prouve que le droit de propriété du terrain de construction d'école (Certificat d' Immatriculation et de Situation juridique) est disponible et qu'il n'y a pas d'occupants irréguliers ;
6. Sites auxquels l'accès par les véhicules ne pose pas de problème et l'amenée de matériels et matériaux de construction peut se faire sans difficulté pendant toute l'année ;
7. Sites où les conditions géotechniques et topographiques (falaise, cours d'eau, oued, etc.,) du terrain sont favorables, et ce en particulier les formes (pente raide, etc.,), la nature de sol et la superficie de terrain ne constituent pas un obstacle pour la conception des infrastructures et les travaux de construction ;
8. Sites où la démolition et l'enlèvement d'ouvrages existants peuvent s'exécuter sans difficulté pour permettre la construction des infrastructures ;
9. Sites où les salles de classe de remplacement pendant les travaux sont disponibles lorsqu'il s'agit de construction et remplacement de salles existantes ;
10. Sites où il n'y a pas d'impacts négatifs sur l'environnement.

ANNEXE 5

Aide Non-Remboursable au Développement Communautaire du Gouvernement du Japon (Provisoire)

Le Gouvernement du Japon (ci-après dénommé « le GDJ ») est en train de mettre en place des réformes organisationnelles pour améliorer la qualité des opérations APD, et comme partie de cette réorganisation, la nouvelle réglementation de la JICA est entrée en vigueur à partir du 1^{er} Octobre 2008. Sur la base de la loi et la décision du GDJ, la JICA est devenue l'Agence d'Exécution de l'Aide Non-Remboursable au Développement Communautaire (ci-après dénommée « l'ADC »).

L'Aide Non-Remboursable pourvoit le Gouvernement du Pays bénéficiaire (ci-après dénommé « le Bénéficiaire ») de fonds non-remboursables pour obtenir des installations, des équipements et services (services d'ingénierie et de transport de produits, etc.) pour le développement économique et social du pays suivant les principes en accord avec les lois et les règlements applicables du Japon. L'Aide Non-Remboursable ne fait pas de dons matériels en tant que tels.

1. Procédures de l'ADC

L'ADC s'exécute selon les procédures suivantes :

Demande	Requête formulée par le pays bénéficiaire
Etude	Etude préparatoire conduite par la JICA
Evaluation et Approbation	Evaluation par le Gouvernement du Japon et la JICA, et Approbation par le Cabinet Ministériel du Japon
Détermination de la Mise en œuvre	Les Notes (Ci-après dénommés « E/N ») échangées entre les Gouvernements du Japon et du Pays bénéficiaire
Accord de Don (ci-après dénommé « l'A/D »)	Accord conclu entre la JICA et le Pays bénéficiaire
Exécution	Exécution du Projet sur la base de l'A/D

Tout d'abord, une demande ou requête pour un Projet ADC est soumise par le Bénéficiaire et examinée par le Gouvernement du Japon (le Ministère des Affaires Etrangères) pour déterminer si le Projet est éligible pour l'ADC.

Deuxièmement, si la requête est jugée appropriée, le Gouvernement du Japon charge la JICA (Agence Japonaise de Coopération Internationale) de mener l'Etude Préparatoire, utilisant une firme japonaise de consulting.

Troisièmement, le Gouvernement du Japon et la JICA évaluent le Projet pour voir s'il convient à

l'ADC du Japon, sur la base du rapport de l'Etude Préparatoire conduite par la JICA, et les résultats sont alors soumis au Cabinet ministériel du Japon pour approbation.

Quatrièmement, le Projet, une fois approuvé par le Cabinet, devient officiel avec les Echanges de Notes (E/N) signées par les Gouvernements du Japon et du Bénéficiaire.

Simultanément, l'Aide est rendu disponible par la conclusion de l'Accord de Don (ci-après dénommé « A/D ») entre le Gouvernement du Pays bénéficiaire ou son autorité désignée et l'Agence Japonaise de Coopération Internationale (JICA). La JICA est désignée par le Gouvernement du Japon comme l'organisation responsable de l'exécution convenable de l'Aide.

L'Agent d'Approvisionnement (ci-après dénommé « l'Agent ») est désigné pour conduire les services d'approvisionnement des produits et services (y compris la gestion des fonds, la préparation des offres, les contrats et ainsi de suite) pour l'ADC au nom du Bénéficiaire. L'Agent est une entité impartiale et spécialisée et doit rendre les services suivant l'Accord d'Agent avec le Bénéficiaire. L'Agent est recommandé au Bénéficiaire par le Gouvernement du Japon et convenu par les deux Gouvernements dans le Procès- Verbal Signé (« PV/S »).

2. Etude Préparatoire

1) Contenu de l'Etude

Le but de l'Etude Préparatoire (« l'Etude »), conduite par la JICA sur un Projet demandé (« le Projet »), est de produire un document de base nécessaire pour l'évaluation du Projet par le Gouvernement du Japon et la JICA. Le contenu de l'Etude est le suivant :

- (1) Confirmation du contexte, des objectifs et des avantages du Projet ainsi que de la capacité institutionnelle des agences et communautés concernées du pays bénéficiaire, nécessaires à l'exécution du Projet.
- (2) Evaluation de l'opportunité du Projet à être exécuté suivant le système de l'Aide Non-Remboursable au Développement Communautaire d'un point de vue technique, sociale et économique ;
- (3) Confirmation des points convenus par les deux parties concernant le concept de base du Projet;
- (4) Préparation d'un concept sommaire du Projet;
- (5) Estimation des coûts du Projet; et

Le contenu de la requête originale par le Gouvernement du pays bénéficiaire n'est pas nécessairement approuvé dans sa forme initiale comme contenu du projet de l'Aide Non-Remboursable. Le concept de base du Projet est confirmé par rapport aux directives du système d'Aide Non-Remboursable du Japon.

La JICA demande au Gouvernement du pays bénéficiaire de prendre toutes les mesures nécessaires pour assurer son auto-dépendance dans l'exécution du Projet. De telles mesures doivent être garanties même si elles sortaient hors du cadre de la juridiction de l'organisation du pays bénéficiaire qui exécute en fait le Projet. Par conséquent, l'exécution du Projet est confirmée par toutes les organisations compétentes du pays bénéficiaire à travers les PV de Discussions.

2) Sélection des Consultants

Pour une bonne exécution de l'Etude, la JICA utilise les firmes de consultation reconnues. La JICA choisit les firmes sur la base des propositions soumises par celles intéressées. La firme choisie mènera une Etude Préparatoire et fera un rapport écrit, en se basant sur les termes de référence de la JICA. La firme de consultation utilisée pour l'Etude est désignée comme le Consultant japonais responsable (ci-après dénommé le « Consultant Japonais ») pour entreprendre la supervision des travaux de construction du Projet sous l'Agent afin de garder la consistance technique. Le Consultant japonais doit organiser une équipe compétente de supervision de la construction en utilisant les consultants locaux.

3) Résultat de l'Etude

Le rapport de l'Etude est révisé par la JICA. Après avoir confirmé l'opportunité et la faisabilité du Projet, la JICA demande au Gouvernement du Japon d'évaluer la réalisation du Projet.

3. Mise en œuvre de l'ADC après l'E/N et l'A/D

1) Exchange de Notes (E/N) et Accord de Don (A/D)

Une fois que le Projet est approuvé par le Cabinet des Ministres du Japon, l'E/N est signée entre le GDJ et le Gouvernement du pays bénéficiaire avec promesse d'assistance, suivi de la conclusion de l'A/D entre la JICA et le Gouvernement du pays bénéficiaire pour définir les différents articles nécessaires à l'exécution du Projet, tels que les conditions de paiement, les responsabilités du Gouvernement du pays bénéficiaire, et les conditions d'approvisionnement.

2) Détails de procédure

Les détails de procédure sur les produits et services d'approvisionnement sous l'ADC seront convenus entre le Bénéficiaire et la JICA au moment de la signature de l'A/D. Les points essentiels à convenir sont résumés comme suit :

- a) La JICA exécute le Don en payant le montant convenu dans l'E/N et prête une attention particulière pour assumer la responsabilité financière sur l'utilisation effective et convenable du Don pour le Projet.

- b) Les produits et services doivent être obtenus et fournis en accord avec les « Directives d'Approvisionnement de l'Aide au Développement du Japon (Type I-C) ».
- c) Le Gouvernement du pays bénéficiaire doit conclure un contrat de travail avec l'Agent.
- d) Le Gouvernement du pays bénéficiaire doit désigner l'Agent comme le représentant agissant au nom du Gouvernement du pays bénéficiaire pour tous les transferts de fonds à l'Agent.

3) Les Points Focaux des « Directives d'Approvisionnement de l'Aide Non-Remboursable du Japon (Type I-C) » de la JICA

a) Agent

L'Agent est une entité qui fournit des services d'approvisionnement de produits et services au nom du Bénéficiaire selon l'Accord d'Agent avec le Bénéficiaire. L'Agent est recommandé au Bénéficiaire par le Gouvernement du Japon et consenti entre les deux Gouvernements en PV/S.

b) Accord d'Agent

Le Bénéficiaire doit conclure un Accord d'Agent, dans les deux (2) mois suivant la date d'entrée en vigueur de l'A/D, en accord avec le PV/S. L'étendue des services de l'Agent doit être clairement spécifiée dans l'Accord d'Agent.

c) Approbation de l'Accord d'Agent

L'Accord d'Agent qui est préparé en deux documents identiques, doit être soumis à la JICA par le Bénéficiaire à travers l'Agent. La JICA vérifie si l'Accord d'Agent est conclu en conformité avec l'E/N, l'A/D, et les Directives d'Approvisionnement de l'Aide Non-Remboursable au Développement Communautaire du Japon, et approuve l'Accord. L'Accord d'Agent qui est conclu entre le Bénéficiaire et l'Agent doit être effectif après l'approbation sous forme écrite par la JICA.

d) Méthodes de paiements

L'Accord d'Agent doit stipuler que « pour tous les transferts de fond à l'Agent, le Bénéficiaire désignera l'Agent pour agir au nom du Bénéficiaire et émettra l'Autorisation de Déboursement Global « l'ADG ») pour faire le transfert de fonds (Avances) du Compte d'Approvisionnement au Compte du Bénéficiaire. »

L'Accord d'Agent doit clairement préciser que le paiement à l'Agent doit se faire en yen japonais à partir des Avances et que le paiement final à l'Agent doit être fait lorsque le Montant total Restant est inférieur à 3% de l'Aide et de ses intérêts courus sans les frais de l'Agent.

e) Produits et Services Eligibles pour l'Approvisionnement

Les Produits et services à procurer doivent être choisis parmi ceux définis dans l'A/D.

f) Firme de Consultants

En principe, la firme de consultants (personnes physiques ou personnes juridiques, y compris des universités, ONGs et d'autres avec expertise et expériences) qui seront recrutés pour l'exécution de la conception détaillée et la supervision des travaux pour le Projet/le Programme, pourront être des nationaux japonais recommandés par la JICA pour assurer la cohérence technique avec l'étude préparatoire et les autres études concernées et réalisées avant la signature de l'A/D.

g) Entreprises de Construction & de Fourniture

En principe, seules les Entreprises de travaux de construction de nationalité du pays bénéficiaire pourraient contracter en tant qu'entreprises de construction à condition que l'entreprise satisfasse les conditions spécifiées dans les dossiers d'appel d'offres.

h) Méthode d'Approvisionnement

Au moment de la mise en œuvre de l'approvisionnement, une attention particulière doit être accordée afin d'éviter une injustice entre les soumissionnaires éligibles pour l'approvisionnement des produits et services. A cette fin, une soumission compétitive devrait être employée en principe.

i) Dossiers d'Appel d'Offres

Les dossiers d'appel d'offres devraient contenir toutes les informations nécessaires pour permettre aux soumissionnaires de préparer des offres valides pour les services et produits à être procurés par l'ADC. Les droits et obligations du Bénéficiaire, de l'Agent et des Fournisseurs de produits et services doivent être stipulés dans les dossiers d'appel d'offres préparés par l'Agent. En plus de cela, les dossiers d'appel d'offres seront préparés en consultation avec le Bénéficiaire.

j) Examen de Pré-qualification des Soumissionnaires

L'Agent peut mener un examen de pré-qualification des soumissionnaires avant l'offre de sorte à ce que l'appel d'offres soit étendu seulement aux entreprises éligibles. L'examen de pré-qualification devra être fait seulement en considérant si tous les soumissionnaires potentiels ont la capacité de réaliser les contrats concernés sans faille. Dans ce cas, les points suivants devraient être pris en compte :

- (1) Expérience et Résultats passés obtenus dans des contrats similaires ;
- (2) Fondement des biens et propriété ou crédibilité financière; et
- (3) Existence de bureaux, etc. à spécifier dans les dossiers d'appel d'offres.

k) Evaluation des Offres

L'évaluation des offres devrait être faite sur la base des conditions spécifiées dans les dossiers d'appel d'offres. Ces offres, conformes en substance aux spécifications techniques, et répondant aux autres stipulations des dossiers de l'offre, seront jugées en principe sur la base des prix soumis, et le soumissionnaire qui offrira le moindre coût sera attributaire.

L'Agent doit préparer un rapport détaillé d'évaluation des offres clarifiant les raisons du choix de l'offre retenue et la disqualification des autres et le soumettre au Bénéficiaire pour obtenir sa confirmation avant de signer le contrat avec l'attributaire. L'Agent doit faire un rapport détaillé d'évaluation des offres, avant toute décision finale d'attribution, donnant les raisons d'acceptation ou de rejet des offres.

l) Approvisionnement supplémentaire

Si l'on découvre un approvisionnement supplémentaire après soumission compétitive et/ou sélective et/ou une négociation directe de contrat, et que le Bénéficiaire aimerait un approvisionnement supplémentaire, l'Agent est autorisé de faire un approvisionnement supplémentaire, en suivant les points mentionnés ci-dessous :

(1) Approvisionnement des mêmes produits et services

Lorsque les produits et services à obtenir en plus sont identiques à l'offre initiale et qu'une soumission compétitive est jugée désavantageuse, l'approvisionnement supplémentaire peut être exécuté par un contrat direct avec l'attributaire de l'offre initiale.

(2) Autres Approvisionnements

Lorsque les produits et services autres que ceux mentionnés ci-dessus en (1) doivent être obtenus, l'approvisionnement devrait être exécuté à travers une soumission compétitive. Dans ce cas, les produits et services pour l'approvisionnement supplémentaire doivent être choisis parmi ceux en accord avec l'E/N et l'A/D.

m) Conclusion des Contrats

Afin de procurer des produits et services en accord avec l'A.D, l'Agent doit conclure des contrats avec les entreprises choisies par soumission ou autres méthodes.

n) Termes de Paiement

Le contrat doit clairement spécifier les termes de paiement. L'Agent doit faire le paiement à partir des « Avances », contre dépôt de documents nécessaires par l'Entreprise sur la base des conditions spécifiées dans le contrat, après que les obligations de l'Entreprise aient été accomplies. Lorsque les services font l'objet d'approvisionnement, l'Agent peut payer en avance une certaine portion du montant du contrat aux entreprises à condition que de telles entreprises soumettent la garantie d'avance de paiement, égale au montant du paiement de l'avance par l'Agent.

4) Principales Mesures à prendre par le Gouvernement du Pays bénéficiaire

(a) Dans l'exécution d'un Projet d'Aide Non-Remboursable, il est requis au pays bénéficiaire d'entreprendre les mesures nécessaires suivantes :

- (1) Obtenir des superficies de terrain nécessaires pour la mise en œuvre du Projet et déblayer les sites ;
- (2) Fournir des installations pour la distribution de l'électricité, de l'eau et le drainage et autres installations connexes nécessaires à la mise en œuvre du Projet hors du site en référence au point (a) ci-dessus ;
- (3) Assurer le dédouanement rapide et assister le transport à l'intérieur du pays bénéficiaire et en cela assister le transport interne des produits ;
- (4) S'assurer que les taxes douanières, les taxes internes et autres prélèvements fiscaux qui pourraient faire l'objet d'imposition dans le pays bénéficiaire pour l'achat des composantes aussi bien que l'emploi de l'Agent sont exonérées/supportées par son autorité désignée sans utiliser l'Aide et ses intérêts courus ;
- (5) Accorder aux nationaux japonais et/ou aux nationaux de pays tiers, y compris ceux qui sont employés par l'Agent, dont les services seront nécessaires pour la fourniture des composantes, les facilités nécessaires pour leurs entrées et séjours dans le pays bénéficiaire, afin qu'ils puissent effectuer leur travail. (Le terme "nationaux" lorsque utilisé dans l'A/A signifie les personnes physiques japonaises ou les personnes morales japonaises contrôlées par des personnes physiques japonaises pour les nationaux japonais, et les personnes physiques ou morales des pays tiers pour les nationaux des pays tiers.);
- (6) S'assurer que les installations et les composantes sont entretenues et utilisées



convenablement et efficacement pour la réalisation du Projet;

(7) Supporter tous les frais, autres que ceux couverts par l'Aide et ses intérêts courus, nécessaires à la réalisation du Projet; et

(8) Accorder une pleine considération sociale et environnementale dans la réalisation du Projet.

(b) Sur demande de la JICA, le bénéficiaire doit fournir à la JICA toutes les informations nécessaires sur le Projet.

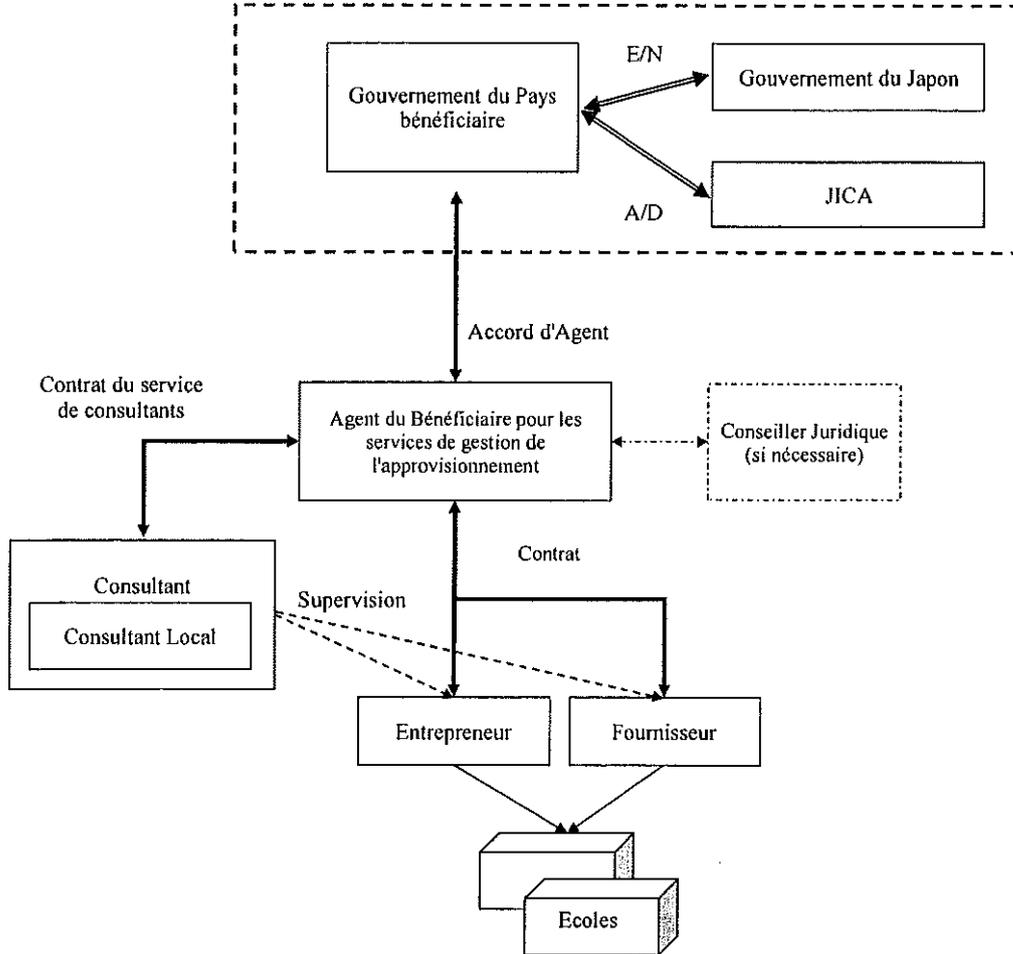
(c) Par rapport à l'expédition et l'assurance maritime des produits procurés par le Projet, le Bénéficiaire doit s'abstenir d'imposer des restrictions de tout genre qui pourraient empêcher une libre et juste compétition entre les compagnies d'assurance.

(d) Les produits procurés par le Projet ne doivent pas être exportés ou réexportés à partir du pays bénéficiaire.

(e) Le Bénéficiaire doit s'assurer qu'aucun membre du Gouvernement n'entreprend aucune part du travail des nationaux japonais et/ou du travail des nationaux de tiers pays pour l'achat des composantes.

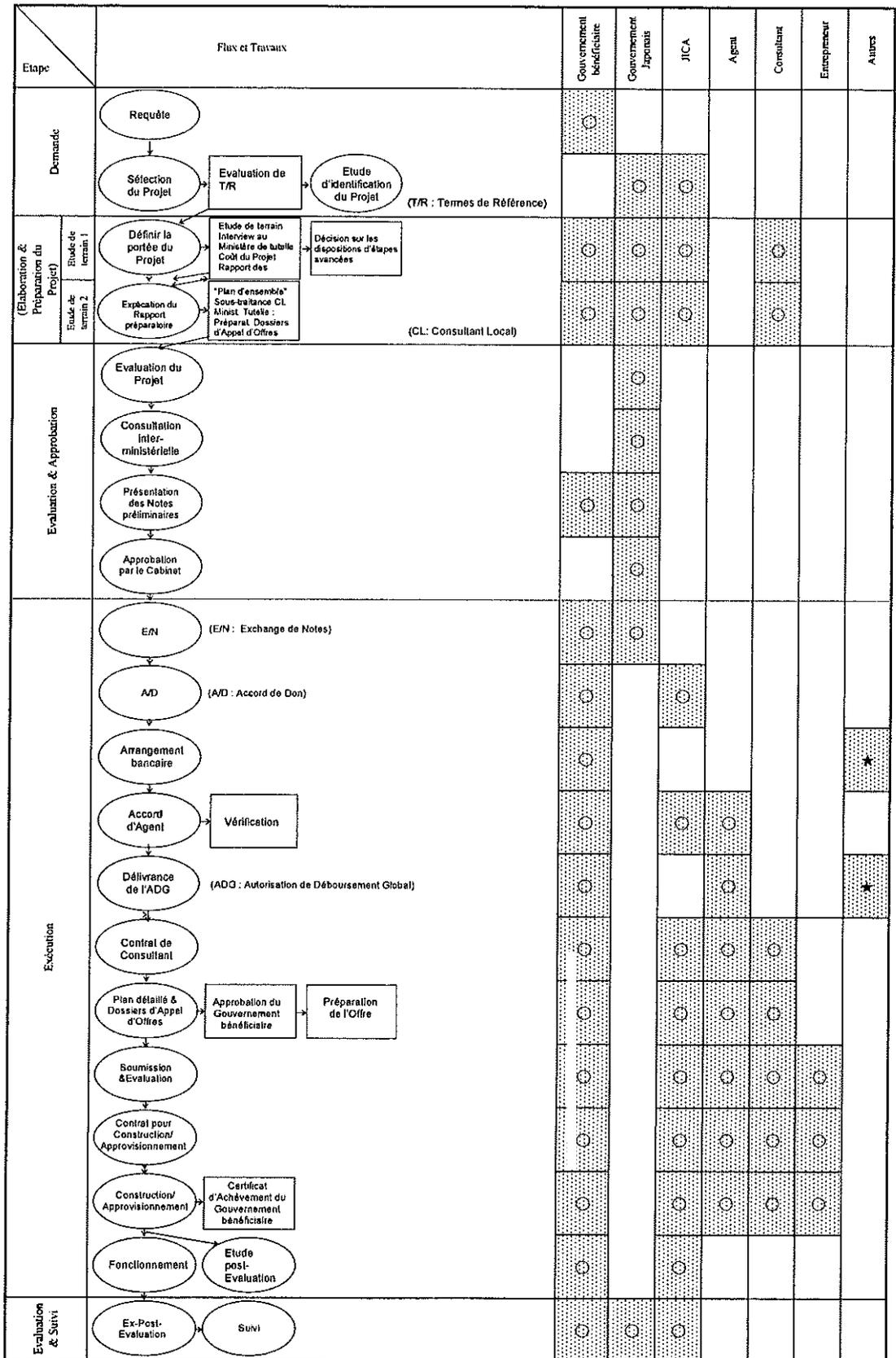
ANNEXE 6

Processus de l'Aide financière non remboursable au développement communautaire du Gouvernement du Japon après signature de l'E/N (Echange de Notes) et L'A/D (Accord de Don)



ANNEXE 7

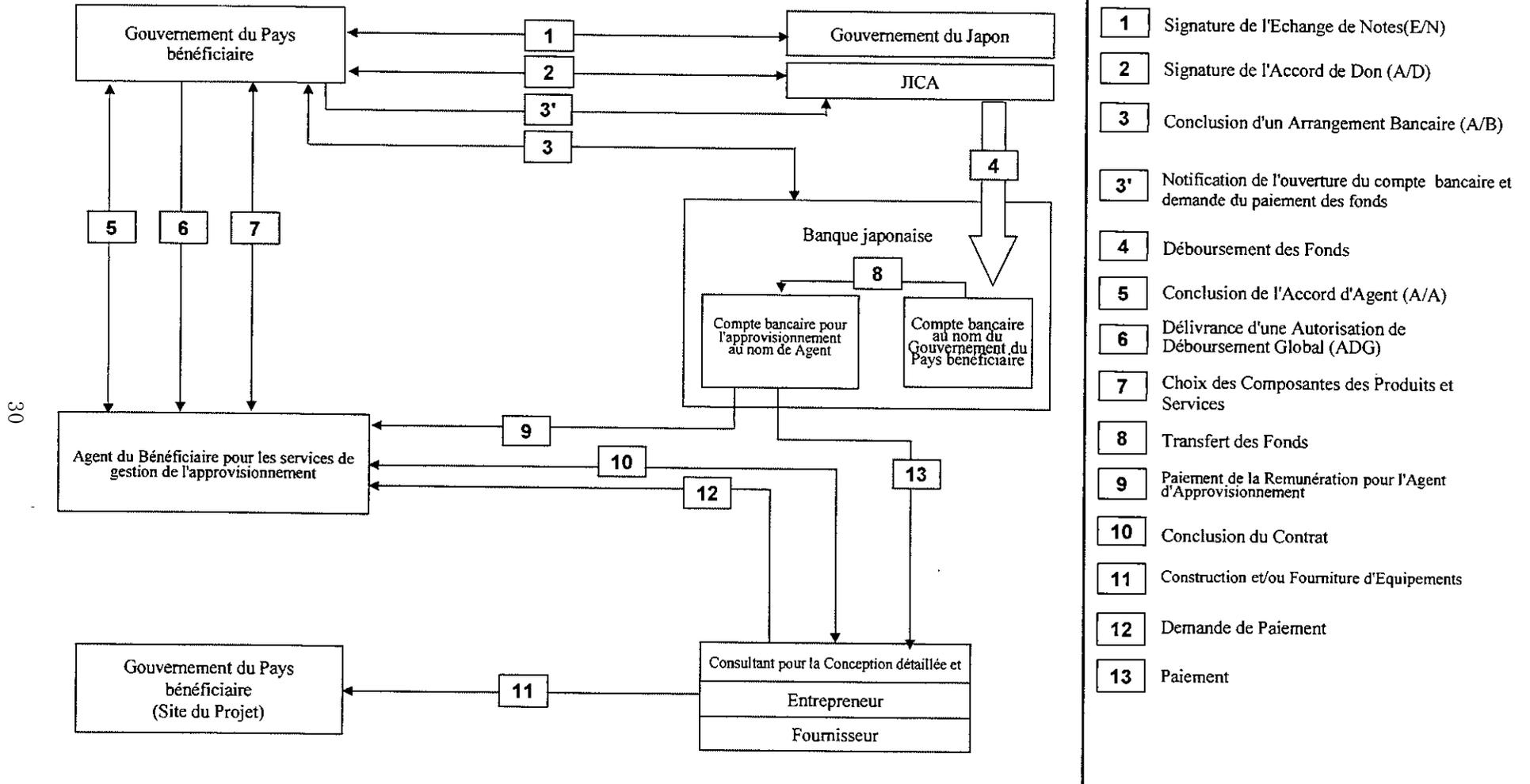
Organigramme des procédures de l'Aide financière non remboursable au développement communautaire du Gouvernement du Japon



* L'étude de terrain 3 et la procédure d'évaluation seront mises en œuvre simultanément.

★ Banque japonaise

ANNEXE 8 Mouvement du fonds pour la mise en œuvre de l'Aide financière non remboursable au développement communautaire du Gouvernement du



30

[Handwritten mark]

te fpp

SYSTEME DE LA COOPERATION FINANCIERE NON-REMBOURSABLE DU JAPON

Le Gouvernement du Japon (ci-après dénommé "le Gdj") est au centre de l'exécution des réformes organisationnelles pour améliorer la qualité des opérations de l'Aide publique au développement (l'Apd), et dans le cadre de ce réajustement, une nouvelle loi de la JICA est entrée en vigueur au 1^{er} octobre 2008. En se basant sur la loi et la décision du Gdj, la JICA est devenue l'agence exécutive de la Coopération financière non-remboursable du Japon pour les Projets généraux, pour la Pêche et pour la Coopération Culturelle.

La coopération financière non-remboursable consiste en des fonds non-remboursables pour le pays bénéficiaire qui permettront de fournir les installations, les équipements et les services (services techniques ou transport des produits, etc.) pour le développement socio-économique du pays, selon les principes suivants et conformément aux lois et réglementations y afférentes du Japon. La coopération financière non-remboursable n'est pas effectuée sous forme de don de matériel en nature au pays bénéficiaire.

1. Procédures de la coopération financière non-remboursable du Japon

La coopération financière non-remboursable du Japon est menée comme suit :

Etude préliminaire (ci-après dénommée « 'l'Etude' »)

- L'Etude menée par la JICA

Estimation et approbation

- Estimation par le Gdj et la JICA. Approbation par le Conseil des ministres du Japon

Détermination de l'exécution

- L'Echange de Notes entre le Gdj et un pays bénéficiaire

Accord de Don (ci-après dénommé « l'A/D' »)

- Accord conclu entre la JICA et un pays bénéficiaire

Exécution

- mise en œuvre du Projet sur la base de l'A/D

2. Etude préliminaire

(1) Contenu de l'Etude

Le but de l'Etude est de fournir un document de base nécessaire pour l'estimation du Projet par la JICA et le Gdj. Le contenu de l'Etude est le suivant:

- confirmer l'arrière-plan de la requête, les objectifs et les effets du Projet ainsi que les capacités de maintenance du pays bénéficiaire nécessaires à l'exécution du Projet.
- évaluer la pertinence de la coopération financière non-remboursable d'un point de vue technologique et socio-économique
- confirmer le concept de base du plan convenu après Concertations entre les deux parties
- préparer un concept de base du Projet ; et
- estimer les coûts du Projet

Le contenu de la requête par le pays bénéficiaire n'est pas obligatoirement approuvé en tant que contenu

de la coopération financière non-remboursable. Le concept de base du projet doit être confirmé par rapport au cadre d'aide financière non-remboursable du Japon.

La JICA demande au gouvernement du pays bénéficiaire de prendre toutes les mesures qui pourraient s'avérer pour assurer son indépendance lors de l'exécution du Projet. Ces mesures doivent être garanties même si elles n'entrent pas dans la juridiction de l'organisme du pays bénéficiaire en charge de l'exécution du Projet. Par conséquent, l'exécution du Projet doit être confirmée par toutes les organisations concernées du pays bénéficiaire par la signature des minutes des Concertations.

(2) Sélection des consultants

En vue de la bonne exécution de l'Etude, la JICA utilise un (des) consultant(s) enregistré(s). La JICA effectue une sélection basée sur des propositions soumises par ces derniers.

(3) Résultat de l'Etude

Le rapport de l'Etude est relu par la JICA, et après confirmation de la justesse du Projet, la JICA recommande au Gdj d'effectuer une estimation sur l'exécution du Projet.

3. Plan de la coopération financière non-remboursable du Japon

(1) L'E/N et l'A/D

Après l'approbation par le Conseil des ministres du Japon du Projet proposé par le gouvernement bénéficiaire, l'Echange de Notes (ci-après dénommé "l'E/N") sera signé entre le Gdj et le Gouvernement du pays bénéficiaire pour formuler une demande d'aide, qui sera suivie par la conclusion de l'A/D entre la JICA et le Gouvernement du pays bénéficiaire afin de définir les clauses nécessaires pour l'exécution du Projet, telles que les conditions de paiement, les responsabilités du Gouvernement du pays bénéficiaire, et les conditions d'obtention.

(2) Sélection des Consultants

Le(s) consultant(s) employé(s) pour l'Etude sera (seront) recommandé(s) par la JICA au pays bénéficiaire pour également travailler sur l'exécution du Projet après l'E/N et l'A/D en vue de maintenir l'uniformité technique.

(3) Pays d'origine éligible

La coopération financière non-remboursable du Japon doit être en principe réservée exclusivement à l'achat de produits provenant du Japon ou du pays bénéficiaire et aux services des ressortissants japonais ou du pays bénéficiaire. Lorsque la JICA et le Gouvernement du pays bénéficiaire ou son autorité désignée le jugent nécessaire, la coopération financière non remboursable peut être utilisée pour les produits ou les services tel que le transport d'un pays tiers (autre que le Japon ou le pays bénéficiaire). Toutefois, dans le cadre de la coopération financière non-remboursable, les principaux contractants, à savoir les sociétés de construction, la société de commerce nécessaires à l'exécution de la coopération, et le consultant principal doivent être exclusivement des ressortissants japonais. (Le terme "ressortissant japonais" signifie les personnes physiques japonaises ou les personnes morales japonaises dirigées par des personnes physiques japonaises.)

(4) Nécessité de la vérification

Le gouvernement du pays bénéficiaire ou son représentant autorisé conclura les contrats en Yen japonais avec les ressortissants japonais. Ces contrats seront vérifiés par la JICA. Cette vérification est nécessaire car les fonds de la coopération financière non-remboursable proviennent des taxes des citoyens japonais.

(5) Principales dispositions à prendre par le gouvernement du pays bénéficiaire

Lors de l'exécution de la coopération financière non-remboursable, le pays bénéficiaire devra prendre les dispositions suivantes:

(6) "Usage adéquat"

Le Gouvernement du pays bénéficiaire est requis d'entretenir et d'utiliser les installations construites et les équipements achetés dans le cadre de la coopération financière non-remboursable de manière adéquate et efficace et de désigner le personnel nécessaire pour le fonctionnement et la maintenance ainsi que de prendre en charge toutes les dépenses autres que celles couvertes par la coopération financière non-remboursable.

(7) "Exportation et Réexportation"

Les produits achetés dans le cadre de la coopération financière non-remboursable ne doivent pas être exportés ou réexportés à partir du pays bénéficiaire.

(8) "Arrangement bancaire (A/B)"

- a) Le gouvernement du pays bénéficiaire ou son "représentant autorisé" devra ouvrir un compte à son nom dans une banque au Japon (ci-après dénommée la "Banque"). La JICA exécutera la coopération financière non-remboursable en procédant aux paiements en Yen japonais pour couvrir les obligations du gouvernement du pays bénéficiaire ou de son représentant autorisé conformément aux contrats vérifiés.
- b) Les paiements seront effectués lorsque les demandes de paiement seront présentées par la Banque au gouvernement du Japon conformément à l'Autorisation de Paiement émise par le gouvernement du pays bénéficiaire ou de son représentant autorisé.

(9) Autorisation de Paiement (A/P)

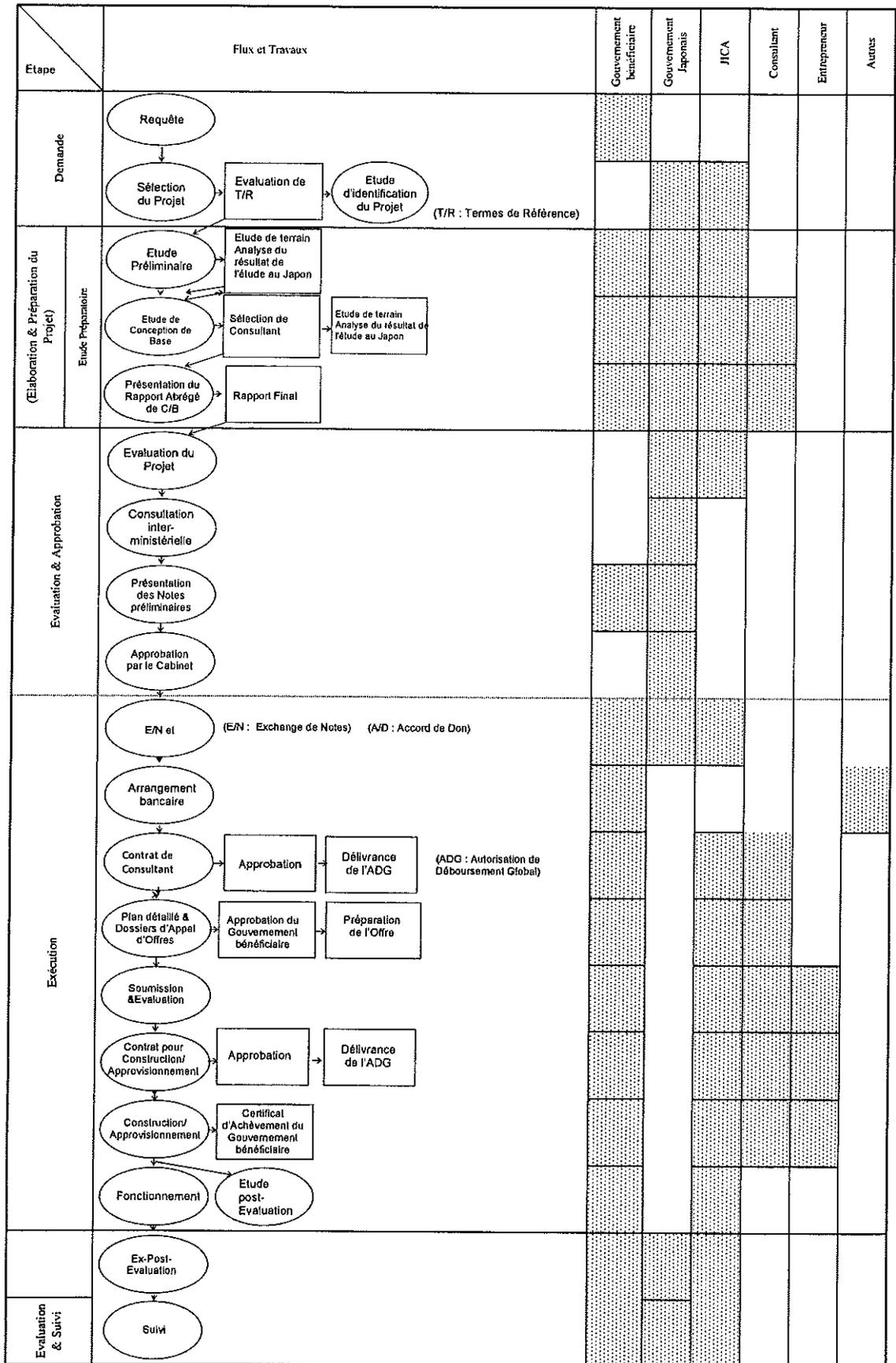
Le Gouvernement du pays bénéficiaire devra régler à la banque la commission de notification de l'autorisation de paiement et la commission de paiement.

(10) Considérations sociales et environnementales

Le pays bénéficiaire doit assurer les considérations sociales et environnementales pour le Projet et doit suivre les règlements environnementaux du pays bénéficiaire et les directives socio-environnementales de la JICA.

ANNEXE 9-2

Schéma d'exécution et de procédure de l'Aide financière non remboursable au développement communautaire du Gouvernement du Japon



ANNEXE 10 Principales mesures à prendre par chaque gouvernement

No.	Eléments	à couvrir par le Don	à couvrir par la partie bénéficiaire
1	Obtenir une superficie de terrain suffisante		●
2	Démolition des installations, défrichage, mise à niveau et récupération du terrain si nécessaire		●
3	Construction de portails et des clôtures autour du terrain (si nécessaire)		●
4	Construction de parc de stationnement		●
5	Construction de la route		
	1) A l'intérieur du site	●	
	2) A l'extérieur du site		●
6	Construction de bâtiment	●	
7	Fournir les installations pour la distribution d'électricité, l'eau courante, l'égout et les autres installations accessoires :		
	1) Electricité (si l'électricité publique est disponible dans le site)		
	a. La ligne de distribution jusqu'au site		●
	b. Le câblage de branchement et le câblage interne sur le site	●	
	c. Le circuit principal et transformateur	●	
	2) Alimentation en eau (si l'eau de ville est disponible dans le site)		
	a. Conduite principale d'eau courante urbaine jusqu'au site		●
	b. Système d'alimentation sur le site (réservoir de réception et château d'eau)	●	
	3) Drainage	N/A	N/A
	a. Conduite principale urbaine d'égout (pour évacuer l'eau de pluie, les eaux d'égout etc. du site)		
	b. Système d'égout sur le site (pour les eaux d'égout, les déchets ordinaires, l'eau de pluie etc.)		
	4) Alimentation en gaz	N/A	N/A
	a. Conduite principale de gaz jusqu'au site		
	b. Système d'alimentation sur le site		
	5) Téléphone	N/A	N/A
	a. Ligne téléphonique de jonction jusqu'au répartiteur d'entrée (MDF) du bâtiment		
	b. MDF et extension après le répartiteur		
	6) Mobilier et équipement		
	a. Meuble général (mobilier accessoires)		●
	b. Equipements du projet	●	
8	Prise en charge des commissions de la banque japonaise pour les services bancaires basés sur les arrangements bancaires (A/B):		●
9	Assurer le dédouanement rapide et apporter une assistance concernant le transport à l'intérieur du pays bénéficiaire ainsi que le transport interne des produits		●
10	Assurer que les taxes douanières, les taxes internes et d'autres prélèvements fiscaux qui pourraient faire l'objet d'imposition dans le pays bénéficiaire pour l'achat des composantes aussi bien que l'emploi de l'Agent soient exonérés/supportés par son autorité désignée sans utiliser l'Aide et ses intérêts courus.		●
11	Accorder aux nationaux japonais et/ou aux nationaux de pays tiers, y compris ceux qui sont employés par l'Agent, dont les services seront nécessaires pour la fourniture des composantes, les facilités nécessaires pour leurs entrées et séjours dans le pays bénéficiaire, afin qu'ils puissent effectuer leur travail. (Le terme "nationaux" lorsque utilisé dans l'A/D signifie les personnes physiques japonaises ou les personnes morales japonaises contrôlées par des personnes physiques japonaises pour les nationaux japonais, et les personnes physiques ou morales des pays tiers pour les nationaux des pays tiers.);		●
12	Assurer que les installations et les composantes sont entretenues et utilisées convenablement et efficacement pour la réalisation du Projet		●
13	Supporter tous les frais, autres que ceux couverts par le Don et ses intérêts courus, nécessaires à la réalisation du Projet.		●
14	Accorder une pleine considération sociale et environnementale dans la réalisation du Projet.		●

(A/B : Arrangement Bancaire, A/D : Accord de Don)

(N/A : Non Applicable)

Procédures d'exonération de charge fiscale

1. L'agence représentant d'approvisionnement élaborera et remettra au MEN, le plan annuel de paiement de frais du projet selon le résultat de l'étude de concept sommaire. Par la suite, suivant chaque contrat du projet (Consultant de supervision, Entrepreneur de construction, Fournisseur de mobiliers, Organisme chargé de composant soft), l'agence remettra le plan annuel du paiement ainsi que le tableau de montants des travaux effectués. L'agence représentant d'approvisionnement remettra au MEN, après le paiement hors taxe, les pièces nécessaires pour le paiement des taxes pour permettre au MEN de payer la taxe.
2. Le MEN prendra des mesures budgétaires nécessaires du montant de charge fiscale suivant le paragraphe (1), pour permettre à la partie malgache d'assurer la contribution à la charge de la partie malgache. A partir de l'année fiscale 2015, une proposition du budget sera élaborée par les deux parties. Par ailleurs, le comité d'accélération d'acquittement de charge fiscale, créée par le MEN, le MDF, et le MAE, élaborera le manuel de procédures et le remettra aux contractants du projet.
3. Le montant après déduction de charge fiscale et le montant de charge fiscale seront indiqués dans le contrat avec les contractants (Bureau d'étude et de supervision des travaux, Entrepreneur, Fournisseur de mobiliers, Cabinet de la mise en œuvre de composantes soft) qui participent au projet : Le montant après déduction de charge fiscale sera payé par l'agence représentant d'approvisionnement et la charge fiscale est payée par le maître d'ouvrage, à savoir, le MEN.
4. L'agence représentant d'approvisionnement rends compte de l'état d'avancement du projet, y compris la situation de paiement de charge fiscale à la réunion consultative inter-gouvernemental du projet pour faire le suivi du projet avec toutes les parties concernées.

マダガスカル国 第四次小学校建設計画
協力準備調査
協議議事録

マダガスカル国（以下「マダガスカル」と称する）政府より提出された要請に基づき、日本政府は「第四次小学校建設計画」（以下「プロジェクト」と称する）に関する協力準備調査を行うことを決定し、本調査の実施を独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」と称する）に委託した。

JICA は、マダガスカルへ人間開発部基礎教育グループ基礎教育第二課長 橘 秀治を団長とする準備調査団（以下「調査団」と称する）を派遣し、2014年6月3日より2014年7月12日まで同国に滞在する予定である。

協議及び現地調査の結果、両者は付属書に記載された主要な項目を確認した。

マダガスカル国アンタナナリボ市 2014年6月17日

橘 秀治

団長

協力準備調査団

独立行政法人国際協力機構

日本

Rolland Justet RABESON

次官

国民教育省

マダガスカル国

Andriambala Harifidy RANAIVOSON

社会行政セクター課長

財務省計画予算局

マダガスカル国

付属書

1. プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、教育施設の新設、及び教育家具の調達を通して、アツィナナナ県 4 学区（トアマシナ I、トアマシナ II、ブリッカビル、バトマンドリ）の小学校へのアクセス及び学習環境を改善することである。

2. 相手国実施責任機関

- 2-1. 本プロジェクトの責任機関はマダガスカル国民教育省（MEN）とする。
- 2-2. 本プロジェクトの実施機関はマダガスカル国民教育省・省所有不動産・インフラ局（DPFI/MEN）とする。
- 2-3. プロジェクト実施に際しては、プロジェクト対象地域の地方教育局、学区事務所、地区教育事務所が実施に協力する。
- 2-4. 本プロジェクトの関係機関の組織図は別紙 1 のとおりとする。

3. プロジェクト対象サイト

- 3-1. 本プロジェクトの対象サイトは、アツィナナナ県 4 学区（トアマシナ I、トアマシナ II、ブリッカビル、バトマンドリ）とする。
- 3-2. 対象校は、別紙 2 に示される対象候補サイトの中から、マダガスカル側の優先順位に配慮しつつ、サイト調査の結果を踏まえて選定することで両者合意した。併せて、サイト選定に係るクライテリアについては別紙 4 のとおりとすることで両者合意した。
- 3-3. マダガスカル側は、別紙 2 に示されている要請校について、学校の土地帰属を証明する書類（小学校用地法的登録証明書またはそれに準ずるもの）を 7 月 10 日までに調査団あるいは JICA マダガスカル事務所に提出することを約束した。

4. プロジェクトコンポーネント

- 4-1. 協議の結果、本プロジェクトは基本的に初等教育 5 年制を前提に計画策定を行うことで、両者合意した。
- 4-2. 教室の建設と教育家具（児童用机／椅子、教員用机・椅子、黒板、戸棚）、トイレ棟の整備を最優先とすることとし、サイト調査の結果を踏まえて、各サイトのコンポーネントを決定することで両者合意した。
- 4-3. 対象サイトに校長室等がない場合にはコンポーネントに含める。併せて、これに必要な家具もコンポーネントに含めることで両者合意した。
- 4-4. 井戸についてはマダガスカル側からその必要性について説明がなされたが、より多くの教室建設を優先することで両者合意し、本プロジェクトの対象外とすることとした。給水施設がないサイトまたは既存の給水施設に支障のあるサイトについては、雨水貯留槽をコンポーネントに含めることを検討する。

- 4-5. 塀が必要と判断されたところはマダガスカル側で負担する。
- 4-6. 適切な学校維持管理を実施するためのソフトコンポーネントについては、調査結果を踏まえて実施の可能性を検討する。

5. 日本の無償資金協力制度

調査団は、日本の無償資金協力制度について以下のとおり説明し、マダガスカル側の理解を得た。なお、本プロジェクトのサブスキームについては、今回の調査結果を踏まえ、日本側が最終決定し、7月下旬までにマダガスカル側へ通知することで、両者合意した。

- 5-1. マダガスカル側は、別紙5、別紙6、別紙7、別紙8に記載されている日本のコミュニティ開発支援無償資金協力制度について十分理解した。
- 5-2. マダガスカル側は、別紙9-1、9-2に記載されている日本の一般プロジェクト無償資金協力制度について十分理解した。
- 5-3. マダガスカル側は、無償資金協力が実施される場合、プロジェクトの円滑な実施のために別紙10に記載されているとおりの必要な措置を行う。

6. プロジェクト実施のフレームワーク

調査団は、本プロジェクト実施のフレームワークについて以下のとおり説明した。

- 6-1. 無償資金協力が閣議によって承認の後、交換公文（E/N）が日本国政府とマダガスカル側政府の間で署名され、引き続きJICAとマダガスカル側政府との間で贈与契約（G/A）が締結される。G/Aは支払条件、被援助国の責務、調達条件といった、当該プロジェクトの実施に必要なとされる条項を定めるものである。
- 6-2. 本プロジェクトがコミュニティ開発支援無償資金協力制度で実施される場合、交換公文（E/N）及び贈与契約（G/A）が締結された後、マダガスカル側政府は日本の調達代理機関と調達代理契約の締結を行う。

7. 協議会

- 7-1. プロジェクトの円滑な実施のために、マダガスカル側関係機関とJICAの代表者で構成される協議会を設置することで両者合意した。協議会のメンバーは以下の通りである。
 - (1) 国民教育省の代表
 - (2) 財務省の代表
 - (3) JICAマダガスカル事務所の代表
- 7-2. 協議会は、進捗確認、技術的確認事項、調達に関する事項などプロジェクトに関連し提起されるあらゆる事項を協議するために定期的を開催する。

8. 免税措置

- 8-1. 調査団はマダガスカル側の免税措置の確実且つ迅速な実施を求め、マダガスカル側はこれに合意した。
- 8-2. 本プロジェクト実施にかかる税金は、基本的に免税となるが、今回の日本側にとっての「免税」は、マダガスカル側（国民教育省）の「税金の負担」を意味することを確認した。マダガスカル側の税金の負担は工事の進捗や品質に大きく影響することから、円滑且つ適切に行われる必要があることを双方は確認した。
- 8-3. 本プロジェクトがコミュニティ開発支援無償資金協力制度で実施される場合、マダガスカル側の税金は「アンツィラナナ州およびトリアラ州小学校建設計画（前プロジェクト）」と同様に、基本的に別紙 11 の手続きで行われることを確認した。なお、一般プロジェクト無償資金協力制度で実施される場合は、別途双方で関係機関の役割や手続き等を確認することで合意した。

9. 環境社会配慮

両者は、本プロジェクト実施に際し、マダガスカル政府の環境社会配慮に関する法令・規定及び JICA が規定する環境社会配慮ガイドラインの双方を遵守して実施する必要があることを確認した。

10. 調査のスケジュール（予定）

- 10-1 本調査団は、引き続き 2014 年 7 月 12 日まで調査を継続する。
- 10-2. マダガスカルでの現地調査結果を踏まえ、調査団は 2014 年 11 月頃まで日本で国内解析を行う。JICA は、11 月下旬頃にマダガスカルへ概略設計概要書説明調査団を派遣する。

11. その他協議事項

11-1. 先方負担事項

マダガスカル側は、別紙 10 に記載のマダガスカル側負担事項について、適切な時期に実施すること、そのために必要な予算措置を行うことを約束した。また、マダガスカル側による負担が必要な事項については、調査団（コンサルタントチーム）が 2014 年 7 月 7 日までにその具体的内容を提示し、その目安となる金額をマダガスカル側と協議することとした。その協議結果に基づき、マダガスカル側は必要となる予算措置を必要とされる期限内に開始することを合意した。なお、両者はマダガスカル側負担事項の内容と目安となる金額が、その後コンサルタントが行う国内解析の結果、修正される可能性があることを了承した。

11-2. 運営・維持管理

マダガスカル側は建設される施設の運営・維持管理に必要な予算措置を講ずることを約束した。

11-3. 教員配置

マダガスカル側は教室の増設に伴い必要となる教員や管理部門の職員を確実に配置することを約束した。マダガスカル側は対象となる小学校の児童数及び教員数に関する情報を2014年7月2日までに調査団に提出することを約束した。

11-4. 関係機関間の情報共有について

プロジェクトの計画策定に向けて最も適切な準備が可能となるよう、マダガスカル側は本プロジェクトに関する情報を、国民教育省内及びアツィナナナ県地方教育局、トアマシナ I、トアマシナ II、ブリッカビル、バトマンドリの学区事務所等の全ての関係機関の間で十分に共有することを約束した。

11-5. 必要情報の提出

調査団はインセプションレポートに添付されている質問票に対して2014年7月2日までに回答文書を調査団（コンサルタントチーム）に提出するようマダガスカル側に依頼し、マダガスカル側はこれを了承した。

11-6. マダガスカル側はプロジェクト邦人関係者に対する十分な安全対策を措置することを約束した。

11-7. 本調査団のコンサルタントチームは、ミニッツ署名以降の調査を通じて明らかとなった主要事項について、現地最終協議時にテクニカルノートに取り纏め、マダガスカル側と確認する。

別紙 1：国民教育省組織図

別紙 2：マダガスカル側調査対象サイトリスト及び優先順位

別紙 3：対象候補サイト位置図

別紙 4：対象候補サイト選定クライテリア

別紙 5：コミュニティ開発支援無償資金協力制度概要 (Grant Aid for Community Empowerment of the Government of Japan (Provisional))

別紙 6：コミュニティ開発支援無償資金協力における実施の流れ (Implementation Flow of Japan's Grant Aid for Community Empowerment after E/N and G/A)

別紙 7：コミュニティ開発支援無償資金協力における手続きの流れ (Flow Chart of Japan's Grant Aid Procedures for Community Empowerment)

別紙 8：コミュニティ開発支援無償資金協力における資金の流れ (Flow of Funds for Implementation under the Japan's Grant Aid for Community Empowerment)

別紙 9-1：一般プロジェクト無償の制度概要 (Japanese Grant Aid (Provisional))

別紙 9-2：無償資金協力手続きのフローチャート (Implementation Flow of Japanese Grant after E/N and G/A)

別紙 10：被援助国の求められる主な措置 (Major Undertakings to be Taken by Each Government)

別紙 11：免税措置にかかる手続き

PROCES-VERBAL DES DISCUSSIONS
RELATIVES A L'EXPLICATION DU RAPPORT ABREGÉ
DE L'ETUDE DU CONCEPT SOMMAIRE
POUR LE 4^E PROJET DE CONSTRUCTION D'ECOLES PRIMAIRES
EN REPUBLIQUE DE MADAGASCAR

En réponse à la requête introduite par le Gouvernement de la République de Madagascar (ci-après désigné "Madagascar"), le Gouvernement du Japon a décidé d'exécuter une étude préparatoire relative au 4^e projet de Construction d'Ecoles Primaires (ci-après désigné "le Projet") et a confié l'exécution de l'étude à l'Agence Japonaise de la Coopération Internationale (ci-après désignée "la JICA").

La JICA a exécuté une étude sur terrain I de juin à juillet 2014, a vérifié le contenu de la requête du Projet et a collecté des informations nécessaires à la planification des activités du Projet. Ensuite, sur la base des résultats de cette étude, une planification du Projet a été examinée au Japon, et un rapport d'étude préparatoire (avant-projet) a été élaboré.

Récemment la JICA a envoyé une mission d'étude préparatoire (ci-après désignée « la mission ») conduite par M. Akira NISHIMOTO, chef de mission et a expliqué le contenu du rapport d'étude préparatoire (avant-projet) II à la partie malgache dans le but de concerter ses avis durant le séjour du 30 novembre au 5 décembre 2014.

A l'issue des discussions et des études sur le terrain, les deux parties ont convenu des points essentiels mentionnés en Appendice.

Fait à Antananarivo, le

07 JAN 2015


Akira NISHIMOTO
Chef de mission
Mission d'Etude Préparatoire
Agence Japonaise de la Coopération
Internationale (JICA)
Japon


Rolland Justet RABESON
Secrétaire Général
Ministère de l'Education Nationale
République de Madagascar



ANDRIAMBOLOLONA Vonintsalama
Secrétaire Général
Ministère des Finances et du Budget
République de Madagascar

Appendice

1. Contenu du Rapport d'étude préparatoire (avant-projet)

La partie malgache a donné son accord de principe sur le contenu du Rapport d'étude préparatoire (avant-projet) expliqué par la mission d'étude et l'a accepté.

2. Système de l'Aide financière non remboursable du Japon

Suivant les annexes 5 à 9 du Procès Verbal des discussions signé par les deux parties le 17 juin 2014, la mission avait déjà expliqué le système de l'aide financière non remboursable au développement communautaire et le système de l'aide financière non remboursable du projet général et a obtenu l'accord de la partie malgache. Le résultat des discussions de la partie japonaise a décidé que l'exécution du Projet s'exécutera selon le système de l'aide financière non remboursable au développement communautaire, la mission a expliqué à nouveau son système et son mécanisme à la partie malgache qui en a bien pris connaissance.

3. Liste des installations cibles /mobilier scolaires du Projet

La mission d'étude a expliqué le contenu des installations cibles et des mobiliers scolaires (annexe 1) définis suivant l'analyse de l'étude de terrain effectuée au Japon, et la partie malgache l'a réaffirmé.

4. Coût estimatif du Projet

La mission d'étude a expliqué le coût estimatif du présent Projet (annexe 2). Les deux parties ont confirmé que le coût estimatif du projet ne doit pas être divulgué à des personnes tiers autres que les personnes concernées par le Projet jusqu'à la sélection du contractant. La mission d'étude a expliqué que le coût estimatif du Projet est une estimation approximative susceptible de changement, et la partie malgache l'a bien confirmé.

5. Travaux à la charge de la partie malgache

La mission d'étude a expliqué le contenu des travaux à la charge de la partie malgache (annexe 3) nécessaires pour l'exécution du Projet ainsi que l'avant projet du calendrier d'exécution du Projet (annexe 4). La partie malgache s'engage à assurer le budget nécessaire pour l'exécution sans faille de telles tâches pour une meilleure exploitation de résultats du Projet en suivant le calendrier établi et avec des mesures adéquates afin que les travaux de construction n'accusent pas de retard.

6. Respect de la gestion d'exploitation et d'entretien

La partie malgache s'engage avant la fin des travaux de construction à mettre en place le personnel nécessaire à l'exécution du Projet. Il s'engage également à assurer et repartir le budget nécessaire pour la mise en place effective du système d'exploitation et d'entretien du Projet dans les meilleurs délais.

7. Confidentialité

Les deux parties ont confirmé que tous les documents concernant le Projet, notamment les informations relatives aux documents techniques de l'appel d'offres ne devront pas être divulgués à des personnes tierces autres que les personnes concernées par le Projet avant l'achèvement du processus d'appel d'offres et de soumission.

8. Calendrier du programme futur

La JICA terminera le rapport final sur la base du présent résultat de discussions et le remettra avant la fin du mois de mai 2015 au gouvernement de Madagascar.



9. Autres

1) Exonération fiscale

Pour l'exécution du Projet, la partie malgache a accepté de prendre des mesures nécessaires pour l'exonération fiscale (exonération fiscale signifie pour le gouvernement de Madagascar de prendre des mesures budgétaires en vue d'une prise en charge ou de remboursement des taxes) pour les services et les achats des marchandises nécessaires aux services, ainsi que pour les contrats à conclure de l'Agent d'approvisionnement, du Consultant japonais et des entrepreneurs locaux. La partie malgache a également accepté de faciliter la procédure d'exonération fiscale pour une bonne mise en œuvre sans difficultés et une prompte procédure d'exonération.

Il est à noter que l'« exonération fiscale » pour la partie japonaise signifie la « prise en charge des charges fiscales » par la partie malgache. Cependant dans l'échange de notes dont la signature est prévue entre les deux gouvernements, il sera mentionné comme étant une mesure d'exonération pour la partie japonaise. La partie malgache y a été informée et a donné son consentement.

Annexes :

Annexe 1 : Liste des installations cibles/ équipements

Annexe 2 : Coût estimatif du Projet

Annexe 3 : Travaux à la charge de la partie malgache

Annexe 4 : Calendrier d'exécution des travaux



Annexe 1 Liste des installations cibles/ équipements

(1) Installations cibles par Ecole

O P 5 0	O P C I S C O	Cisco	Commune	Noms de l'Ecole	Batiment de salles			T*	R E S *
					S d C *	B D *	M A G *		
1	1	BRICKAVILLE	Brickaville	EPP Brickaville	4	1	1	5	
9	3	BRICKAVILLE	Mahatsara	EPP Antsampanana	3	1	1	5	1
13	4	BRICKAVILLE	Mahatsara	EPP Ampitabe	2	1	1	3	1
29	8	BRICKAVILLE	Mahatsara	EPP Ambodiriana	2	0	0	3	
					11	3	3	16	2
6	2	VATOMANDRY	Vatomandry	EPP Vohitsara	4	0	0	5	
10	3	VATOMANDRY	Vatomandry	EPP Ambilakely	3	0	0	5	
18	5	VATOMANDRY	Tsarasambo	EPP Ambodivontaka	3	1	1	5	
22	6	VATOMANDRY	Ambodivoananto	EPP Ambodivoananto	2	0	0	3	
26	7	VATOMANDRY	Ilaka - Est	EPP Ilaka-EST	2	0	0	3	
30	8	VATOMANDRY	Niarovana Caroline	EPP Mahatsara	3	1	1	5	
					17	2	2	26	0
3	1	TOAMASINA II	Antetezambaro	EPP Analamalotra	6	1	1	7	
7	2	TOAMASINA II	Ampassimbe Onibe	EPP Ambalahasina	6	1	1	7	1
11	3	TOAMASINA II	Salazamay	EPP Ambalamanasy	3	1	1	5	1
15	4	TOAMASINA II	Salazamay	EPP Ambodisaina	8	1	1	9	
23	6	TOAMASINA II	Antetezambaro	EPP Antetezambaro	2	0	0	3	1
43	11	TOAMASINA II	Ampasimbe Onibe	EPP Ampasimbe Onibe	4	1	1	5	
50	13	TOAMASINA II	Ampasimbe Onibe	EPP Hotsika	6	1	1	7	
					35	6	6	43	3
4	1	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Zoto	5	1	1	7	
8	2	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Tsiry	2	0	0	3	
20	5	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Todivelona Raphael	14	1	1	15	
24	6	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Dépôt Analakinimina	2	1	1	3	
28	7	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Valpinson	4	0	0	5	
32	8	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Manangareza	5	1	1	7	
36	9	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP La Foire	5	0	0	7	
40	10	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Androranga	3	1	1	5	
44	11	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Ambohijafy	6	0	0	7	
48	12	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP La Poudrette	4	0	0	5	
					50	5	5	64	0
TOTAL					113	16	16	149	5

* Abréviation

OP 50: ordre de priorité 50 sites

OP CISCO: ordre de priorité (CISCO)

SdC: Salle de classe

BD: Bureau de Directeur

MAG: Magasin

T:Toilettes

LAT: Latrines

RES: Réservoir d'eau de pluie



(2) Mobilier par salle

Salle	Mobiliers (quantité par salle de classe)
Salle de classe	Tables-bancs de 2 places pour élèves : (25), table pour enseignant : (1), chaise pour enseignant : (1), armoire : (1)
Bureau de directeur	Table pour directeur : (1), chaise pour directeur : (1), chaises pour visiteur : (3), armoire : (1), panneau d'affichage : (1)
Magasin	Etagère de rangement des livres etc. : (1)

Handwritten mark in blue ink.



Handwritten mark in black ink.

Annexe 2 Coût estimatif du Projet

Le coût total nécessaire à la mise en œuvre du Projet de coopération s'élève environ à 855 millions de yens. Sur la base des conditions d'estimation indiquée dans l'aliéna (3) ci-dessous, les frais à la charge de la partie japonaise et de la partie malgache sont respectivement estimés comme suit. Il est à noter que ce montant n'indique pas le montant limite stipulé dans l'Échange de Notes.

(1) Frais à la charge de la partie japonaise

Description des frais		Coût estimé des travaux (million de yens)	
Infrastructures	Construction des infrastructures	480.4	531.9
	Mobiliers et accessoires	51.5	
Agent d'approvisionnement			115.3
Conception et supervision			191.0
Composante Soft			13.4
Autres	Avocat-conseil		2.3
Total			853.9

(2) Frais à la charge de la partie malgache

Description des frais	Montant (MGA)	Conversion en yens japonais
Aménagement du site	3.200.000	142.000
Mise en œuvre de la composante soft	270.000	12.000
Frais de mission pour la supervision des travaux (MEN)	7.763.000	343.000
Commission bancaire	19.305.000	854.000
Total	30.538.000	1.351,000

Le montant ci-dessus a été estimé selon le calcul fait par la partie japonaise sur la base de l'information collectée dans le cadre de l'étude préparatoire effectuée en juin-juillet 2014.

(3) Conditions d'estimation

- 1) Date de calcul : Juillet 2014
- 2) Taux de change : 1 euro = 141.57 yens
: 1 monnaie locale (MGA) = 0,044237 yens
- 3) Période d'exécution/approvisionnement : La période des travaux est mentionnée dans le calendrier d'exécution du Projet
- 4) Autres : L'estimation des coûts est exécutée conformément au système d'aide financière non remboursable du Japon



6

Annexe 3 Travaux à la charge de la partie malgache

Pour la mise en œuvre du Projet dans le cadre de l'aide financière non remboursable du Japon pour le développement communautaire, les travaux à la charge du gouvernement de Madagascar sont les suivants :

- (1) Acquérir les terrains nécessaires au Projet et obtenir le droit de construction des infrastructures par le Ministère de l'Education Nationale (ci-après désignée "MEN")
- (2) Exécuter, avant la mise en œuvre du Projet, la démolition et l'enlèvement des infrastructures existantes ainsi que les obstacles, la relocalisation, le nivellement. (toutefois si le démontage et le démantèlement des obstacles qui se trouvent dans l'aire de la construction faisant l'objet du Projet ne sont pas réalisés avant le début de construction, la partie japonaise va s'en charger afin d'éviter tout retard dans le calendrier de travaux, voir Tableau 3-1)
- (3) Les personnes concernées du MEN et les responsables de l'école tels que les résidents vont se concerter, et si besoin est, effectuer des travaux après l'achèvement de construction tels que la construction de la clôture d'enceinte ou sa réparation, l'installation du portail, aménagement de paysage, ou tous autres travaux accessoires de la structure extérieure.
- (4) Prendre en charge les frais de notification de l'Autorisation de déboursement global et les commissions de paiement sur la base de l'arrangement bancaire avec une banque japonaise
- (5) Prendre les mesures nécessaires pour le bon déroulement de l'importation et du dédouanement des matériaux et matériels utilisés dans le Projet.
- (6) Fournir les facilités nécessaires pour l'entrée et le séjour à Madagascar en faveur des personnes morales et physiques concernées par le Projet, sur la base de l'Accord d'agent d'approvisionnement et d'autres contrats signés avec celui-ci.
- (7) Le MEN prendra en charge toutes les taxes liées à ce projet en tant que mesures d'exemption d'impôts pour la partie japonaise.
- (8) Prendre en charge le dédommagement causé par la non-exécution des travaux à la charge de la partie malgache.
- (9) Utiliser et entretenir, de façon adéquate et efficace, les infrastructures et équipements aménagés par le Projet.
- (10) Prendre en charge tous les frais autres que ceux qui sont chargés par le Projet exécutés dans le cadre de l'aide financière non remboursable du Japon pour le développement communautaire.



Liste des travaux à la charge du pays bénéficiaire

CISCO	Commune	ID	Nom de l'Ecole	Obstacle à démolir	Taille de l'obstacle (m x m)	Site qui nécessite l'aménagement du terrain
BRICKAVILLE	Brickaville	BR-1	EPP Brickaville	Bâtiment en bois et fondation	20x9 21x9	-
	Mahatsara	BR-3	EPP Antsampanana	Arbre	H=3	-
	Mahatsara	BR-4	EPP Ampitabe	Arbre	H=5	✓
	Mahatsara	BR-8	EPP Ambodiriana	Bâtiment en bois et fondation	14x10	-
VATOMANDRY	Vatomandry	VA-2	EPP Vohitsara	Bâtiment en bois et fondation	15x7	-
	Vatomandry	VA-3	EPP Ambilakely	-	-	-
	Tsarasambo	VA-5	EPP Ambodivontaka	Arbre	H=3	-
	Ambodivoananto	VA-6	EPP Ambodivoananto	-	-	-
	Ilaka - Est	VA-7	EPP Ilaka-EST	-	-	-
	Niarovana Caroline	VA-8	EPP Mahatsara	-	-	-
TOAMASINA II	Antetezambaro	T2-1	EPP Analamalotra	Arbre	H=7	-
	Ampasimbe Onibe	T2-2	EPP Ambalahasina	-	-	-
	Salazamay	T2-3	EPP Ambalamanasy	Bâtiment en bois et fondation	8 4x12	-
	Salazamay	T2-4	EPP Ambodisaina	-	-	-
	Antetezambaro	T2-6	EPP Antetezambaro	Bâtiment en bois et fondation	17x8	-
				Mât de drapeau	-	
				Arbre	H=12	
	Ampasimbe Onibe	T2-11	EPP Ampasimbe Onibe	Bâtiment en bois et fondation	6x9 5 13x9 0	-
				Arbre	H=3	
	Ampasimbe Onibe	T2-13	EPP Hotsika	Bâtiment en bois et fondation	5x12	-
Arbre				H=7		
TOAMASINA I	Toamasina I	T1-1	EPP Zoto	Dalle de béton	5.5 x 5	-
				Arbre	H=15	
	Toamasina I	T1-2	EPP Tsiry	-	-	-
	Toamasina I	T1-5	EPP Tòdivelona Raphael	Fondation	15x6	-
	Toamasina I	T1-6	EPP Dépôt Analakininina	Bâtiment en bois et fondation	7 2x6 4 4.3x5 5	-
				Mât de drapeau	-	
				Arbre	H=8	
	Toamasina I	T1-7	EPP Valpinson	Bâtiment en bois	3 X 9 5 5x5	-
				Arbre	H=8 (il y en a 2)	
	Toamasina I	T1-8	EPP Manangareza	Terrain de basket	-	-
				Arbre	H=8, (il y en a 2) H=3	
	Toamasina I	T1-9	EPP La Foire	Terrain de basket	-	-
Arbre				H=10, H=8		
Toamasina I	T1-10	EPP Androranga	-	-	-	
Toamasina I	T1-11	EPP Ambohijafy	Terrain de basket	31x17	-	
Toamasina I	T1-12	EPP La Poudrette	-	-	-	





Annexe 4 Calendrier d'exécution des travaux (provisoire)

		2014												2015												2016												2017												2018																			
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	Etude préparatoire 1 (cette étude)	█																																																																			
	Analyse au Japon	█																																																																			
	Etude préparatoire 2 (présentation de la conception sommaire)	█																																																																			
	Approbation par le conseil des ministres (prévue)												▲																																																								
	E/N - A/D												▲																																																								
	*1) Contrat d'agent d'approvisionnement												▲																																																								
	Contrat du consultant												▲																																																								
Infrastructures	Conception détaillée												█				Conception sommaire				█				Conception détaillée 1/				█				Conception détaillée 2																																				
	Appel d'offres - Contrat avec entreprise *2)												█				█				█				█				█																																								
	Travaux de construction *2)												█				█				█				█				█																																								
Installation de mobiliers	Appel d'offres - Passation de commande *2)												█				█				█				█				█																																								
	Fourniture de mobiliers *2)												█				█				█				█				█																																								

*1) L'Agent d'approvisionnement sera utilisé en cas du projet dans le cadre de la coopération financière non remboursable du Japon pour le développement communautaire

*2) Le projet sera divisé en 2 groupes en cas du projet dans le cadre de la coopération financière non remboursable du Japon pour le développement communautaire

6

マダガスカル共和国
第四次小学校建設計画
協力準備調査
協議議事録

マダガスカル国政府より提出された要請に基づき、日本政府は「第四次小学校建設計画」（以下「プロジェクト」と称する）に関する協力準備調査を行うことを決定し、同調査の実施を独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」と称する）に委託した。

JICAは2014年6～7月に現地調査Ⅰを実施し、本プロジェクトの要請内容の確認や事業計画策定に必要な情報収集を行った。その後、調査結果を踏まえて、日本で事業計画の検討を行い、協力準備調査報告書（案）を作成した。

今般、JICAは協力準備調査報告書（案）の内容をマダガスカル国側に説明し、またその内容に関する意見を聴取するため、2012年11月30日から12月5日まで、西本 玲を団長とする協力準備調査（現地調査Ⅱ）調査団（以下、「調査団」と称する）を派遣した。

協議及び現地調査の結果、両者は付属書に記載された主要な項目を確認した。

マダガスカル共和国アンタナナリボ市 2014年12月4日

西本 玲
団長
協力準備調査（現地調査Ⅱ）団
独立行政法人国際協力機構
マダガスカル支所 所長

Rolland Justet RABESON
次官
国民教育省
マダガスカル国

ANDRIAMBOLOLONA Vonintsalama
次官
財務省計画予算局
マダガスカル国

付属書

1. 協力準備調査報告書（案）の内容

マダガスカル国側は、調査団によって説明された協力準備調査報告書（案）の内容に関して合意し、これを受け入れた。

2. 日本の無償資金協力制度

調査団は、2014年6月17日に両者が署名した協議議事録の別紙5～9のとおり、日本のコミュニティ開発無償資金協力及び一般プロジェクト無償の制度概要の説明を行い合意していたが、今般日本側での協議の結果、コミュニティ開発無償資金協力制度により実施することとしたため、同制度や仕組みについて改めてマダガスカル国政府側に説明し、マダガスカル国側はこれを了解した。

3. 本プロジェクトの対象施設・機材

調査団は、本プロジェクトの協力対象となる施設・機材内容（別紙1）について説明し、マダガスカル国側はこれを改めて了解した。

4. ソフトコンポーネント

調査団は、本プロジェクトにおいてソフトコンポーネントを別紙2のとおり実施することを説明し、マダガスカル国側はこれを了解した。

5. プロジェクトの概算事業費

調査団は本プロジェクトの概算事業費（別紙3）について説明した。双方は概算事業費について受注者決定まで関係者以外の第三者に開示しないことを確認した。調査団は、概算事業費は概算であり変更する可能性があることを説明し、マダガスカル国側はこれを了解した。

6. マダガスカル国側負担事項

調査団は、本プロジェクトの実施にあたって必要となるマダガスカル国側負担事項の内容（別紙3）及び事業実施工程案（別紙4）について説明した。マダガスカル国側は、スケジュールに則って本体工事が遅延しないよう、本案件成果が十分に活用されるよう、かかる事項の実施に必要な予算を確保し、確実に実施することを確約した。

7. 運営・維持管理の遵守

マダガスカル国側は、建設が終了するまでに、本計画の実施に伴い追加で必要となる人員を配置することを確約した。また、運営・維持管理体制の確立や運営・維持管理に必要な

な予算の確保・配分を遅滞なく実施することを確約した。

8. 秘密保持

双方は、本プロジェクトに関連するあらゆる資料をプロジェクトの入札終了まで関係者以外の第三者に、本プロジェクトの入札に関する技術資料に係る情報を開示しないことを確認した。

9. 今後の予定

JICA は本協議結果に基づいて最終報告書を完成させ、マダガスカル国政府側に 2015 年 5 月中に提出する予定である。

10. その他

1) 免税措置

マダガスカル国側は本プロジェクト実施のため、調達代理機関及び本邦コンサルタント、現地企業の業務及び業務に要する物品の購入ならびに契約行為に対する必要な免税措置(免税とはマダガスカル国政府が予算措置を通じて税金を負担または還付することを意味する)を講じることを確約した。またマダガスカル国側は、本プロジェクトに係る免税手続きの円滑かつ迅速な実施のために、免税手続きに必要な便宜を図ることを了解した。

なお、日本側にとっての「免税措置」はマダガスカルの国民教育省側の「税金の負担」を意味するが、今後両国政府間で署名予定の交換公文においては、日本側に対する免税措置として記載することを説明し、マダガスカル国側はこれを了承した。

別紙 1 : 対象施設・機材リスト

別紙 2 : 概算事業費

別紙 3 : マダガスカル国側負担事項

別紙 4 : 事業実施工程表

別紙1 対象施設・教育家具等に係るリスト

(1) 学校別対象施設

(50 サイト) 優先 順位	(シ ス コ 内) 優先 順位	学区	コミュニ ン	学校名	教室棟			トイレ ブ ー ス 数	雨 水 貯 留 槽
					教 室	校 長 室	倉 庫		
1	1	BRICKAVILLE	Brickaville	EPP Brickaville	4	1	1	5	
9	3	BRICKAVILLE	Mahatsara	EPP Antsampanana	3	1	1	5	1
13	4	BRICKAVILLE	Mahatsara	EPP Ampitabe	2	1	1	3	1
29	8	BRICKAVILLE	Mahatsara	EPP Ambodiriana	2	0	0	3	
					11	3	3	16	2
6	2	VATOMANDRY	Vatomandry	EPP Vohitsara	4	0	0	5	
10	3	VATOMANDRY	Vatomandry	EPP Ambilakely	3	0	0	5	
18	5	VATOMANDRY	Tsarasambo	EPP Ambodivontaka	3	1	1	5	
22	6	VATOMANDRY	Ambodivoananto	EPP Ambodivoananto	2	0	0	3	
26	7	VATOMANDRY	Ilaka - Est	EPP Ilaka-EST	2	0	0	3	
30	8	VATOMANDRY	Niarovana Caroline	EPP Mahatsara	3	1	1	5	
					17	2	2	26	0
3	1	TOAMASINA II	Antetetzambaro	EPP Analamalotra	6	1	1	7	
7	2	TOAMASINA II	Ampassimbe Onibe	EPP Ambalahasina	6	1	1	7	1
11	3	TOAMASINA II	Salazamay	EPP Ambalamanasy	3	1	1	5	1
15	4	TOAMASINA II	Salazamay	EPP Ambodisaina	8	1	1	9	
23	6	TOAMASINA II	Antetetzambaro	EPP Antetetzambaro	2	0	0	3	1
43	11	TOAMASINA II	Ampasimbe Onibe	EPP Ampasimbe Onibe	4	1	1	5	
50	13	TOAMASINA II	Ampasimbe Onibe	EPP Hotsika	6	1	1	7	
					35	6	6	43	3
4	1	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Zoto	5	1	1	7	
8	2	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Tsiry	2	0	0	3	
20	5	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Todivelona Raphael	14	1	1	15	
24	6	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Dépôt Analakinina	2	1	1	3	
28	7	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Valpinson	4	0	0	5	
32	8	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Manangareza	5	1	1	7	
36	9	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP La Foire	5	0	0	7	
40	10	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Androranga	3	1	1	5	
44	11	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP Ambohijafy	6	0	0	7	
48	12	TOAMASINA I	Toamasina I	EPP La Poudrette	4	0	0	5	
					50	5	5	64	0
合 計					113	16	16	149	5

(2) 教育家具

室名	家具名 () 内は数量、1室当り
教室	生徒用2人掛け机+ ベンチ：(25)、教員用机：(1)、 教員用椅子：(1)、戸棚：(1)
校長室	校長用机：(1)、校長用椅子：(1)、打合せ用椅子：(3)、戸棚：(1)、 掲示板：(1)
倉庫	書籍等保管用棚：(1)

別紙2 プロジェクトの概算事業費

本協力対象事業を実施する場合に必要な事業費総額は8.55億円となり、先に述べた日本とマダガスカル国との負担区分に基づく双方の経費内訳は、下記(3)に示す積算条件によれば、次のとおり見積もられる。但し、当該額は交換公文(E/N)上の供与限度額を示すものではない。

(1) 日本側負担経費

日本側負担経費内訳

費目		概略事業費 (百万円)	
施設	施設建設費	480.4	531.9
	家具・備品費	51.5	
調達代理機関費		115.3	
設計監理費		191.0	
ソフトコンポーネント費		13.4	
その他	弁護士費用	2.3	
合計		853.9	

(2) マダガスカル国側負担経費

マダガスカル国側負担経費内訳

費目	金額 (MGA)	日本円換算 (円)
敷地整備	3,200,000	142,000
ソフトコンポーネント実施費用	270,000	12,000
施設建設に係る実施費用	7,763,000	343,000
銀行手数料	19,305,000	854,000
合計	30,538,000	1,351,000

なお、上述額は2014年6月～7月の現地調査時に得た情報を基に、日本側が試算した概算額である。

(3) 積算条件

- ⑤ 積算時点 : 平成26年7月
- ⑥ 為替交換レート : 1ユーロ=141.57円
: 1現地通貨(MGA)=0.044237円
- ⑦ 施工・調達期間 : 工事の期間は業務実施工程に示したとおり。
- ⑧ その他 : 積算は、日本国政府の無償資金協力の制度を踏まえて行うこととする。

別紙3 マダガスカル国側負担事項

本プロジェクトを日本国のコミュニティ開発支援無償資金協力で実施する上で、マダガスカル国政府が負担すべき項目は下記のとおりである。

- (1) 本プロジェクトに必要な土地を用意し、教育省が建物を建設する権利を確保すること
- (2) 本プロジェクトの実施に先立ち、既存施設及び障害物の解体撤去工事、及び移設を実施すると共に、整地を行うこと（但し、本プロジェクトの施設の建設位置にある障害物の解体・撤去工事については、着工までに実施されなかった場合、工事を遅延なく行うために日本側負担で実施する。表3-14参照）。
- (3) 工事完成後に囲い塀の新設または補修、門扉の設置、造園、その他付属的な外構工事を実施すること
- (4) 日本にある銀行との銀行取り決めに基づき、包括的支払い授權書に係る通知手数料、及び支払手数料を負担すること
- (5) プロジェクトに使用される資機材の輸入、通関が速やかに実施されるよう、必要な措置を講じること
- (6) 調達代理契約及び調達代理機関と交わす各契約に基づいて、本プロジェクトに携わる個人または法人に対し、マダガスカル国への入国並びに滞在に必要な便宜を供与すること
- (7) 日本側への免税処置として、マダガスカル政府が本事業に関する全ての税金を負担すること
- (8) マダガスカル国側負担事業の未実施によって生じる損害賠償を負担すること
- (9) 本プロジェクトで供与される施設機材を適切かつ効果的に使用し維持すること
- (10) 本プロジェクトの範囲内で日本のコミュニティ開発支援無償資金協力によって負担される費用以外の全ての費用を負担すること

計画対象校別先方負担工事リスト

CISCO	コミュニケーション	ID	学校名	撤去を要する障害物	障害物の大きさ (m × m)	造成を要するサイト
Brickaville	Brickaville	BR-1	EPP Brickaville	木造建物+基礎	20 × 9	-
					21 × 9	
	Mahatsara	BR-3	EPP Antsampanana	樹木	H=3	-
					BR-4	
	Mahatsara	BR-8	EPP Ambodiriana	木造建物+基礎	14 × 10	-
Vatomandry	Vatomandry	VA-2	EPP Vohitsara	木造建物+基礎	15 × 7	-
	Vatomandry	VA-3	EPP Ambilakely	-	-	-
	Tsarasambo	VA-5	EPP Ambodivontaka	樹木	H=3	-
	Ambodivoananto	VA-6	EPP Ambodivoananto	-	-	-
	Ilaka - Est	VA-7	EPP Ilaka-EST	-	-	-
	Niarovana Caroline	VA-8	EPP Mahatsara	-	-	-
Toamasina I	Antetezambaro	T2-1	EPP Analamalotra	樹木	H=7	-
	Ampasimbe Onibe	T2-2	EPP Ambalahasina	-	-	-
	Salazamay	T2-3	EPP Ambalamanasy	木造建物+基礎	8.4 × 12	-
	Salazamay	T2-4	EPP Ambodisaina	-	-	-
	Antetezambaro	T2-6	EPP Antetezambaro	木造建物+基礎	17 × 8	-
				フラッグポール	-	
	Ampasimbe Onibe	T2-11	EPP Ampasimbe Onibe	樹木	H=12	-
				木造建物+基礎	6 × 9.5 13 × 9.0	
Ampasimbe Onibe	T2-13	EPP Hotsika	樹木	H=3	-	
			木造建物+基礎	5 × 12		
Toamasina II	Toamasina I	T1-1	EPP Zoto	コンクリートスラブ	5.5 × 5	-
				樹木	H=15	
	Toamasina I	T1-2	EPP Tsiry	-	-	-
	Toamasina I	T1-5	EPP Todivelona Raphael	基礎	15 × 6	-
	Toamasina I	T1-6	EPP Dépôt Analakininina	木造建物+基礎	7.2 × 6.4 4.3 × 5.5	-
				フラッグポール	-	
	Toamasina I	T1-7	EPP Valpinson	樹木	H=8	-
				木造建物	3 × 9.5 5 × 5	
	Toamasina I	T1-8	EPP Manangareza	樹木	H=8、2本	-
				バスケットボールコート	-	
	Toamasina I	T1-9	EPP La Foire	バスケットボールコート	H=8、2本 H=3	-
				樹木	-	
Toamasina I	T1-10	EPP Androranga	バスケットボールコート	H=10、H=8	-	
			樹木	-		
Toamasina I	T1-11	EPP Ambohijafy	バスケットボールコート	31 × 17	-	
Toamasina I	T1-12	EPP La Poudrette	-	-	-	

別紙4 事業工程表

		2014												2015												2016												2017												2018																				
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
現地調査 I		■																																																																				
国内解析		■																																																																				
現地調査 II (概要説明調査)												■																																																										
開議 (予定)														▲																																																								
E/N・G/A														▲																																																								
*1)調達代理契約														▲																																																								
コンサルタント契約														▲																																																								
施設	詳細設計													■						■																																																		
	入札・契約 *2)																									■						■																																						
	建設工事 *2)																									■						■						■																																
家具	入札・発注 *2)																									■						■																																						
	家具搬入 *2)																																					■						■						■																				

*1)コミュニティ開発支援無償においては、調達代理機関を活用する。

*2)コミュニティ開発支援無償においては、建設工事を2つのグループに分けて実施する。

マダガスカル国第四次小学校建設計画準備調査 ソフトコンポーネント計画書

1. ソフトコンポーネントを計画する背景

1-1. 先行案件におけるソフトコンポーネントの成果と課題

1-1-1. 「第二次小学校建設計画」「(以下、「第二次計画」と言う：一般無償)

(1) 活動

アンタナナリボ州 13 校、及びマジュンガ州 35 校のうち、20 校を対象モデル校に選定して、ソフトコンポーネントが実施された。

目標は、学校運営委員会（以下、「FAF⁸²」と言う）の施設維持管理に係る財務体制、維持管理体制の確立、また、学区事務所（以下、「CISCO」言う）が、各 CISCO 内ソフトコンポーネント対象外の小学校の、資金運営を含めた施設維持管理体制整備を促進することであった。

活動としては、①FAF が「学校の現状と将来のニーズを理解する」ための研修・訓練、②FAF が「自ら施設診断をし、学校の維持管理計画を立案する」ための研修・訓練、③FAF が「学校の運営計画・予算計画を立案する」ための研修・訓練、④FAF の会計担当者に対する学校会計に関する研修・訓練がなされている。

(2) 成果と課題⁸³

ソフトコンポーネントを通じて、FAF による学校施設の維持管理上の問題を定期的に話し合う総会の開催、保護者の学校に対するオーナーシップの向上、及び FAF 資金の使途を住民に報告するなど資金の透明化確保がなされた。

一方、地方教育事務所（以下、「DREN」言う）、CISCO へのモニタリング予算、FAF 資金の減少、FAF メンバー内のソフトコンポーネントに係る研修受講者の異動等により、FAF 活動に関するモニタリングや FAF の活動自体が停滞する等の課題も確認された。

1-1-2. 「アンツィラナナ州・トリアラ州小学校教室建設計画」（以下、「第三次計画」と言う：旧コミュニティ開発支援無償)

(1) 活動

建設対象の全ての学校（64 校）を対象とし、各校の FAF の維持管理体制整備、本プロジェクト対象 CISCO が学区内の他の小学校にソフトコンポーネント成果を活用、一般化する

⁸² 実際には「学校開発パートナーシップ（仏語）」のマダガスカル語訳の略語。但し、“FAF”はマダガスカル語で「捨てる」という意味の言葉と同音であったこと、及び学校運営委員会内での資金管理チェック体制強化の必要性等に鑑み、制度を改める意味において、“FEFI”（Farimbon Ezaka ho Fampanandrosoana Ifotony）に改名予定。“FEFI”とは、マダガスカル語で「取り囲む」という言葉と同音である。なお、本件に関し、新たに政令が発せられる予定。

⁸³ 「平成 24 年度案件別事後評価：パッケージⅢ-6 マダガスカル国」（2013, JICA）より。

ことにより、国全体のソフトコンポーネントとして定着させる、トイレ使用に係る衛生教育の研修をライフスキルの一環として行う、ことが目標とされていた。

活動としては、①第二次計画で作成した調査票、マニュアル、漫画・動画の見直し、②研修・訓練、③学校における現状調査（モニタリング）と分析、④評価、が実施された。

（２）成果と課題⁸⁴

第二次計画と同様、ソフトコンポーネント活動により FAF 総会の開催、保護者の学校に対するオーナーシップの向上、更には、FAF 資金の管理上の透明性確保といった FAF 機能強化に係る一定の成果が確認された。

しかしながら、モニタリング予算や FAF 資金の減少等により、FAF に係るモニタリングや活動自体が停滞した。また、その後、ソフトコンポーネント対象校の FAF のうち、施設の維持管理に関与しているのは半数強程度に留まっている状況である。

1-2. 本プロジェクト対象校における現状と課題

先行案件の現状、及び本プロジェクト調査対象校における現地調査の結果、以下が確認された。

（１）運営・維持管理に係る予算

教育省から（DREN 経由）配賦される学校予算は、基本的には FAF により運用・管理されることになっている。FAF に関しては、2002 年に制定された政令により各校において設置が義務付けられている。今般の調査対象校全てにおいて、FAF の存在が確認された。但し、2009 年の政変の影響により、2009/10 年度を最後に、FAF 資金（学校基金）の全国一律支給はなされていない⁸⁵。その代わりになるような形で、一時、UNICEF 支援により地方触媒基金（以下、「FCL」と言う）が各校に配賦されたが⁸⁶、1-2 年程度の期間の実施に留まった。2012/13 年度及び 2013/14 年度に関しては、国家予算確保が困難であったため、教育省から各校への予算支給はなされ得なかった。しかしながら、新政権発足の下、2014/15 年度に関しては、新学年開始前に各校に配賦される予定である。

一方、各校においては、各家庭から一定額を徴収し、学校運営・維持管理に充てている。年間の徴収額は地域や学校により異なるが、調査対象校の平均的な年額は 8,300MGA⁸⁷程度であった。但し、貧困により支払いができない家庭も少なくないのが実情である。

（２）体制

マダガスカル地方教育行政機関として、地方教育局（以下、「DREN」と言う）、CISCO、及び町村レベルに当たる地区教育事務所（以下、「ZAP」と言う）がある。小学校の場合は、

⁸⁴ 「平成 24 年度案件別事後評価：パッケージⅢ-6 マダガスカル国」（2013, JICA）より。

⁸⁵ 2010/11 年度には一部の地域には配賦されている。しかし、手続き上の問題により、実際に資金が学校側に入ったのが 2013/14 年度になってからというケースが複数ある。なお、FAF は各校の児童数に応じて支給額が決められる（当時、年間 2,000MGA/児童であった）。

⁸⁶ FCL の場合、各校の条件に合わせた定額支給となっている（学校により異なるが約 40 万 MGA/年程度）。

⁸⁷ 2014 年 8 月現在、JICA 統制レートによれば「MGA1=¥0.041」。

CISCO を中心とし、CISCO 担当者によるモニタリングの他、ZAP 長がそれぞれ管轄下の学校を巡回視察・指導し、状況報告を CISCO に上げている。

学校運営・維持管理については、上述のとおり、FAF を中心にその役割を担うことになっているが、ここ数年は管理すべき資金が政府から配賦されなかったことにより、当該組織は有名無実化している。このように FAF が機能していないことから、実質、保護者会（以下、「FRAM」と言う）が学校運営・維持管理に係る役割を担っている。FRAM は、FAF が公式に設置される以前から、自然発生的に発足し、且つ自発的に学校運営の円滑化に貢献してきた。具体的には、先述のとおり、教員不足を補うべく FRAM 教員を採用したり、教室不足やサイクロン被害の折には仮設教室の設置を行ったりしている。

（３）清掃・メンテナンス

施設の清掃については、調査対象校全てにおいて定期的な清掃活動が行われていることが確認された。その主な担い手は児童であり、学校によっては教師、或いは保護者が関与している場合もある。一部例外は見受けられたものの、各校では、総じて清掃が行き届いており、トイレを含め学校施設は清潔に保たれている。また、他国で多く見られるドアや机の落書きも、特に目に留まるようなものは認められなかった。更に、それぞれ植栽がなされ、環境美化に取り組んでいる様子が窺えた。

但し、外部からの侵入者によりトイレが使われる、それを回避するために常に施錠する必要性が生じているなどといった事態が少なからず見受けられた。その上、外部侵入者や児童によりトイレが壊されるといったケースも複数認められた。

一方、簡易な教育家具や施設の補修等については、FRAM が限られた資金の中で活動を展開していることが確認された。

（４）先行案件のソフトコンポーネント実施校調査

今回調査を実施した第２次案件対象校のある小学校は、ソフトコンポーネントの実施対象校ではなかった。しかしながら、教員全員が日々留意して維持管理に取り組んでおり、教室、トイレ、校庭等、総じて清掃が行き届いていた。廊下はゴミ箱の設置のみならず、植栽もされており、環境美化が図られていた。また、施設も、老朽化により使用できなくなった箇所以外、特に破損、或いは落書きなどは認められなかった。資金に関しては、政変以降、政府からの予算配賦は不定期で、2013/14 年度は皆無であった。従って、学校独自に施設レンタル（建物及び敷地を駐車場としてなど）等による収入などでやり繰りしているとのことであった。同時に、各家庭から年間 20,000MGA を徴収し、FRAM 教員給与や施設のメンテナンス等に充てている。

また、第３次案件対象の小学校では、当時教員だった人材が校長に昇格していた。しかし、同校長にはソフトコンポーネント研修やマニュアルに関する認識はなかった。但し、改善の余地が残されているトイレの清掃状況以外、現在も各教室は良好な状態にあり、教室や校庭などの清掃は行き届いていた。また、FAF に関する政府資金がないため、例えばス

ープを作って近隣住民に販売するなどして資金確保に努めている。加えて、各家庭から年間7,500MGAを徴収し、学校運営・維持管理やFRAM教員給与等に充てている。

1-3. ソフトコンポーネントの必要性

全ての調査対象校においてFAFの設置が確認された。しかしながら、その主な役目である資金管理につき、管理するための政府からの予算配賦がないことでFAFは実質殆ど機能しておらず、また、資金不足から電気や水が止められるなど、施設の維持管理体制を含めた課題が浮き彫りとなった。また、先に記載の通り、教室不足や、サイクロン被害の際には、FRAMの支援により仮設教室が設置され、また、教員不足に関しては、地元で採用された教員給与に対応するなど、FAF機能低下により、FRAMの担う役割が一層大きく、且つ負担が増大していることが明らかとなった。一方で、FAFとFRAMが協力関係にない学校も少なからず見受けられた。

FAFのメンバーとしては、本来、保護者以外にも、地域住民、児童代表、経済団体、慈善団体（個人）、NGOなどが含まれることが求められているが、コミュニティの巻き込みが総じて少ないことが確認された。過去の無償案件を含めた各校の事例によれば、施設のレンタルや、食品等の販売などで独自に資金確保に努めている学校がある一方、特に、地方、或いは貧困地域においては、地域住民自体に余力がなく、学校運営に関与し得ないなど、地域間格差も認められた。

このように財政難による予算配賦のような外的要因と、学校施設の維持管理体制やFAFとFRAMの役割の整理や関係改善等の内的要因などの課題がある。これらの課題が徐々に解決されなければ、本プロジェクト対象校の維持管理がより適切に行われなことが予想される。予算確保等の課題解決は難しいものの、ソフトコンポーネントの実施により、学校施設を取り巻く関係者の意識向上等の内的要因による課題解決は可能であることから、同課題解決のためソフトコンポーネントを実施する。

なお、学校施設の維持管理に係る意識向上を図ると同時に、通学路の整備が児童の安全な通学を可能にする。財政難により、学校への予算配賦がなされていないことからFAFが形骸化している学校があるものの、そうした学校においても、児童の保護者を含む住民は学校教育の果たす役割、すなわち地域の次世代人材育成としての学校の重要性を十分認識していることから、FAFやFRAMの関係者に加えコミュニティの住民を巻き込んだ通学路整備を通して、学校を拠点とした地域の生活社会基盤整備を実施することで、FAF、FARMやコミュニティの結束を高めることが期待できる。

上記に鑑み、各校に現存する清掃や環境美化といった芳しい意識を継続させ、さらに、本プロジェクトにより整備された学校が長く清潔に、また良好な状態に保たれるよう学校運営・維持管理体制を強化する必要があるものと考え。もっとも、FAF資金が政府により確保され、定期的に遅延なく各校に支給されることが重要ではある。しかし、少なくとも本プロジェクト対象校において、FAF及びFRAMが協力し合い、学校運営・維持管理、更に、通学路という地域の生活社会基盤整備の一環として、一部の学校を事例に、住民参加

による通学道路整備に関するパイロット的に取り組めるようなきっかけを、本フトコンポーネントで提供できるよう配慮する。また、各校の状況説明や、実際の学校の状態に関しては、校長のリーダーシップ力が大きく影響しているものと考えられる。加えて、ZAP 長や CISCO によるモニタリングにおける指導についても配慮する。

2. ソフトコンポーネントの目標

上位目標	整備された学校施設が適切に維持管理される。
目標	整備された学校施設の維持管理に対する意識が向上する。

3. ソフトコンポーネントの成果

成果1：対象各校において、学校施設の維持管理・衛生の重要性が理解される。

成果2：対象各校において、学校施設の維持管理方法に係る知識が醸成される。

成果3：パイロット活動対象校において、住民参加型による通学路整備により、FAF や FRAM の結束力が高まる。

なお、本ソフトコンポーネント実施に当たっては、既存のソフトコンポーネント用マニュアルなどについて適宜活用することとする。

また、通学路整備にあたっては、小規模園芸農民組織による道路整備マニュアル（JICA ケニア国における小規模園芸農民組織強化・振興ユニットプロジェクト）の活用を検討する。

成果	活動	達成度確認方法
1. 対象各校において学校施設の維持管理・衛生の重要性が理解される	①講習会を通じた、校長、教員代表、FAF 議長、FRAM(代表2人)といった学校関係者に対する学校施設の維持管理・衛生に関する意識向上	・「2.」の講習会出席者リスト ・講習会出席者へのアンケート
2. 対象各校において学校施設の維持管理方法に係る知識が醸成される	①簡易なメンテナンス、及び予防的維持管理を含む運営・維持管理に関する学校活動計画策定のためのマニュアル改訂：既存の運営・維持管理（衛生面含む）マニュアルを基に改訂する。 ②上記マニュアルに関する講習会の実施 ③上記講習会における技術的観点からの説明	・改訂版マニュアル ・講習会出席者リスト ・講習会出席者へのアンケート

3. パイロット活動対象校において、住民参加型による通学路整備により、FAF や FRAM の結束力が高まる。	①講習会・デモンストレーションを通じた校長、教員代表、FAF 議長、FRAM などといった学校関係者に対する現地材料を利用した労働集約的通学路整備に関する意識向上 ②維持管理作業研修 ③学校組織やマダガスカルの道路管理体制、現地調達可能材料の特性を反映させマニュアルの作成	・講習会・デモンストレーション出席者リスト ・維持管理作業後に学校関係者の作成するアクションプラン ・維持管理作業研修参加者リスト ・マニュアル ・アンケート
---------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

4. 成果達成度の確認方法

上記3. のとおり。

5. ソフトコンポーネント活動

(1) 対象者

本プロジェクトの計画対象全校の、校長、教員、FAF、FRAM などといった学校関係者を対象とする。

なお、学校施設建設は 2 グループに分けて実施される。本ソフトコンポーネントにおけるグループ分けは、学校施設建設と同様に以下のとおり。但し、G1 の場合、トアマシナ I とトアマシナ II の両学区合同で講習会を実施する。会場については、トアマシナ II の CISCO とする。

通学路整備・維持管理（パイロット）は、G2 の T II-13 の 1 校を対象として行う。

第 1 グループ（以下、「G1」と言う）：15 校

CISCO 内対象校数	CISCO	コミュニオン	ID	小学校名
1	Toamasina I	Toamasina I	T I-5	EPP Todivelona Raphael
1	Toamasina II	Antetезambaro	T II-1	EPP Analamalotra
2		Salazamay	T II-3	EPP Ambalamanasy
3		Salazamay	T II-4	EPP Ambodisaina
4		Antetезambaro	T II-6	EPP Antetезambaro
1	Bricaville	Brickaville	B-1	EPP Brickaville
2		Mahatsara	B-3	EPP Antsampanana
3		Mahatsara	B-4	EPP Ampitabe
4		Mahatsara	B-8	EPP Ambodiriana
1	Vatomandry	Vatomandry	V-2	EPP Vohitsara
2		Vatomandry	V-3	EPP Ambilakely
3		Tsarasambo	V-5	EPP Ambodivontaka
4		Ambodivoananto	V-6	EPP Ambodivoananto

5		Ilaka - Est	V-7	EPP Ilaka-EST
6		Niarovana Caroline	V-8	EPP Mahatsara

第2グループ（以下、「G2」と言う）：12校

CISCO内 対象校数	CISCO	コミュニン	ID	小学校名
1	Toamasina I	Toamasina I	T I-1	EPP Zoto
2		Toamasina I	T I-2	EPP Tsiry
3		Toamasina I	T I-6	EPP Dépôt Analakininina
4		Toamasina I	T I-7	EPP Valpinson
5		Toamasina I	T I-8	EPP Manangareza
6		Toamasina I	T I-9	EPP La Foire
7		Toamasina I	T I-10	EPP Androranga
8		Toamasina I	T I-11	EPP Ambohijafy
9		Toamasina I	T I-12	EPP La Poudrette
1	Toamasina II	Ampassimbe Onibe	T II-2	EPP Ambalahasina
2		Ampasimbe Onibe	T II-11	EPP Ampasimbe Onibe
3		Ampasimbe Onibe	T II-13	EPP Hotsika

(2) 実施時期

【学校施設の運営・維持管理活動】

・第2グループの工事着工後、ソフトコンポーネント活動前までに、ローカルリソース（NGO/コンサルタント）の調達、既存マニュアルの改訂検討、及びアンケート案作成を行う。

《G1》

・ソフトコンポーネントの立ち上げとして、改訂版マニュアルを基に、DREN 及び各 CISCO（必要に応じて ZAP 長含む）とその内容につき協議する。特に、2009年の政変以降、混乱が続いたマダガスカルにおいて、教育省本省、DREN、CISCO、ZAP、学校のいずれのレベルにおいても、予算や資金確保の面など様々な負の影響が及んでおり、学校運営・維持管理体制等についても脆弱な状態に陥っている。従って、本ソフトコンポーネントに係る詳細、活動内容、目指す成果などに関し関係者と共通認識を持ち、それぞれの役割を確認の上、同活動への参画を促す必要性がある。

・改訂版マニュアルに沿った講習会を対象 CISCO 毎に開催する。但し、トアマシナ I はトアマシナ II における活動に参加（G1 対象校のみ）。

《G2》

・G1 と同様、改訂版マニュアルを基に対象 CISCO 毎に講習会を実施する。

【通学路整備・維持管理活動（パイロット）】

- ・第2グループ建設工事開始の乾季に、整備対象通学路の調査を行う。
 - 1) 調査目的は、現地調達可能な資機材の確認、交通車両や交通量の把握、住民参加による道路整備の仕様の設定、整備計画と積算である。
 - 2) 上記調査時に、住民による現地材料を利用し労働集約的通学路整備活動の事例紹介（座学形式）と簡便で小規模な整備のデモンストレーションを行う。
 - 3) 地方道路管理者やその整備の実態、現地におけるコミュニティ活動を把握する。
- ・上記調査の後に、整備対象通学路の実施工事を通した維持管理研修を行う。
 - 1) 先の調査結果に基づき維持管理研修を行う。
 - 2) 整備の手法の習得と共に、今後の通学路整備に向けた学校関係者によるアクションプランづくりを行う。
 - 3) アンケートを実施し、習得状況等を確認する。

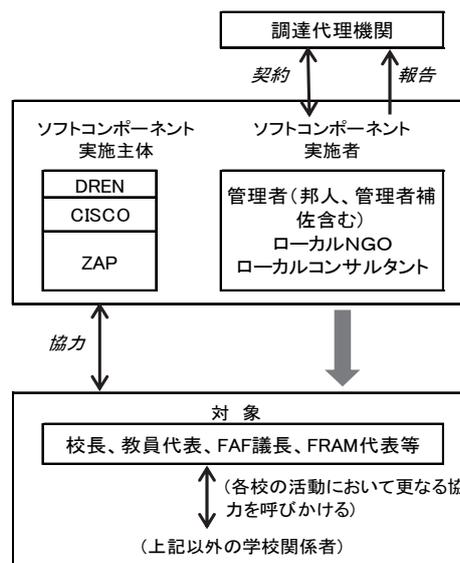
(3) 実施体制

本ソフトコンポーネントの実施主体は、対象小学校を管轄するアツィナナナ県 DREN、対象各 CISCO、及び関連 ZAP（長）とする。

本邦コンサルタントがソフトコンポーネント管理者として学校施設の運営・維持管理活動全体の監督を行い、ローカル NGO がソフトコンポーネント管理者からの委託を受けて、ファシリテータとして活動を実施する。また、技術的な観点からは、ローカルコンサルタントが、同様に本邦コンサルタントからの委託を受けて活動を実施する。

一方、通学路整備・維持管理活動に関しては、本邦コンサルタントがソフトコンポーネント管理者及びその補佐として活動全体の監督と調査、研修、デモンストレーションを行う。ローカル NGO がソフトコンポーネント管理者からの委託を受けて、現地事情や住民の特性等を踏まえた上で、ファシリテータとして邦人ソフトコンポーネント管理者及び同補佐の活動を側面支援する。

以下に実施体制図を示す。



(4) 活動内容

活動概要は下記のとおり。

なお、ローカル NGO/コンサルタントの調達、既存マニュアル改訂案の作成、アンケート案の作成は G1 の講習会までに実施する。

また、ローカル NGO/コンサルタントとの現地で打合せ（ソフトコンポーネント実施者（邦人管理者、ローカル NGO/ローカルコンサルタント）における、活動目的、内容、及び役割分担の確認含む）、共同作業によるマニュアル改訂、マニュアル印刷・製本、及びアンケート作成については、トアマシナへの移動前に首都において実施する。

【各 CISCO における維持管理・衛生に関する講習会】

時期	G1・G2:建設竣工後を目途に実施（新学年開始直前、または開始頃）
期間 (予定)	G1:2017年10月頃に随時 G2:2018年10月頃に随時
実施場所	G1:トアマシナⅠ・Ⅱ、ブリッカビル、バトマンドリ、合計3箇所 G2:トアマシナⅠ、トアマシナⅡ、合計2箇所
実施者	管理監督: DREN 長/担当、CISCO 長/担当、ZAP 長、 ファシリテータ・技術指導: ローカル NGO、ローカルコンサルタント、ソフトコンポーネント管理者
対象者	各計画対象校関係者(校長、教員代表、FAF 議長、FRAM 代表(2名))
活動内容	1-1. 学校施設の維持管理・衛生マニュアルに基づいた講習会の実施 1-2. アンケートの実施（講習会前後）

【G2 における通学路整備・維持管理に関する調査、研修（パイロット）】

時期	G2:建設開始後の乾季:調査及び研修
期間 (予定)	G2:2017年8月頃に調査、講習会、デモンストレーションの実施。更に連続して研修と維持管理に向けたアクションプラン作りを行う。
実施場所	G2:トアマシナⅡ、T2-13 周辺と幹線道路間の 6.5 km の区間のうち 100～300m 相当の箇所
実施者	管理監督: DREN 長/担当、CISCO 長/担当、ZAP 長 ファシリテータ・技術指導: ローカル NGO、ソフトコンポーネント管理者（補佐含む）
対象者	トアマシナⅡ、T2-13 学校関係者(校長、教員代表、FAF 議長、FRAM 代表(2名、コミュニティからの協力者))
活動内容	1-1. 事例紹介のための座学講習会とデモンストレーション、通学路整備計画 1-2. 通学路維持管理実作業研修、学校関係者による通学路整備アクションプラン作り

(5) 各ステークホルダーの役割

上記の実施体制を構成する各ステークホルダーの役割を以下に示す。

ステークホルダー名	役割
調達代理機関	1. 本邦コンサルタントとの契約 2. 施主への報告
本	ソフトコンポーネ 1. 事前準備

邦 コ ン サ ル タ ン ト	ント 管理者 (邦人：管理者補 佐含む)	<ol style="list-style-type: none"> 1) ローカル NGO/コンサルタントの調達 2) 既存マニュアル（講習会教材）の精査（翻訳含む） 3) アンケート（講習会/研修前後等）用質問票案の作成 <ol style="list-style-type: none"> 2. 活動支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) ステークホルダーとの活動内容の共有、役割分担の確認 2) 既存マニュアルの改訂・印刷/製本支援 3) 参加型通学路整備に向けた現地調査 4) 各種講習会/研修の実施（通学路整備デモンストレーション含む）/支援（講習会/研修視察） 5) 各活動に対する助言・指導 6) 関係機関への報告、今後の活動に向けた引き継ぎと助言 3. 進捗管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 各校関係者に対する学校施設の維持管理・衛生関連講習会の進捗管理 2) 中間報告書の作成 3) 最終報告書の作成 4. 成果確認・報告 <ol style="list-style-type: none"> 1) 各活動の進捗確認 2) 講習会/研修実施支援 3) 成果（アンケート内容含む）の確認 4) 報告
	ローカル NGO	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動準備 <ol style="list-style-type: none"> 1) ステークホルダーとの活動内容の共有、役割分担の確認 2) ソフトコンポーネント管理者、ローカルコンサルタントと共に既存マニュアルの見直し（主に啓発的観点から）、改訂、及び印刷・製本/マニュアル題材中身の検討及び作成 3) アンケート（講習会/研修前後等）用質問票の作成（意識・行動変容への導きを念頭に） 4) アクションプラン作りに向けた準備 2. 講習会の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) DREN、CSICO の協力の下、関連自治体、及び対象校への連絡 2) 各校関係者への学校施設の維持管理・衛生関連講習会の実施（関係者への学校施設の維持管理・衛生に関する活動への参画促進・啓発） 3) アンケートの実施（講習会/研修開始直後などに実施するアンケートの結果を踏まえ、講習会をファシリテートする） 4) 通学路整備、維持管理に向けた講習会/研修に係る調整 5) アクションプラン作りのファシリテーション 3. 報告 <ol style="list-style-type: none"> 1) 上記に関するソフトコンポーネント管理者への定期報告
	ローカル コンサルタント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動準備 <ol style="list-style-type: none"> 1) 活動内容の共有、役割分担の確認 2) ソフトコンポーネント管理者、ローカル NGO と共に既存マニュアルの見直し（例えばトイレなど、学校施設の構造的、予防的維持管理等、技術面からのインプット）、改訂 5) アンケート（講習会/研修前後）用質問票の作成（施設の構造、メンテナンス面を念頭に） 2. 講習会の実施

		<ol style="list-style-type: none"> 1) 各校関係者への学校施設の維持管理・衛生関連講習会の実施（学校施設の構造、及び技術的観点からの説明：一部施設の建設現場写真を用いての説明、及び質疑応答含む） 2) アンケートの実施（講習会/研修直後などに実施するアンケートの結果を踏まえ、講習会時は技術的な観点から施設の構造に係る説明や、メンテナンスの仕方等につき助言を行う）
実施主体	DREN 長/担当、 CISCO 長/担当、 ZAP 長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動全般の把握 <ol style="list-style-type: none"> 1) 活動内容、役割分担等の確認 2) 改訂版維持管理マニュアルの確認 3) 各種講習会/研修等の開催支援、視察 2. 活動全般における便宜供与 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象校関係者への連絡支援 2) アンケートの実施支援 3) 通学路整備に関するステークホルダー選定 4) 通学路整備対象校関係者、道路管理者への連絡支援
対象者	学校関係者 (校長、教員代表、FAF 議長、FRAM 代表(2名) 等)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講習会/研修等活動全般への参加 ・通学路整備参加者選定 ・講習会/研修での習得事項に係る他の各校関係者への情報共有 ・各校における継続的な諸活動の実践

(6) 投入計画

投入計画（人・月）は以下のとおり（詳細は、別添 1 実施工程表を参照）。

通学路整備に関しては、邦人管理者に邦人管理者補佐が全行程同行し、一連の作業を補佐する。

要員	人・月 (M/M)
ソフトコンポーネント管理者（邦人コンサルタント、管理者補助）	国内：24 (1.20 M/M) 現地：99 (3.29 M/M)
ローカル NGO	現地：63 (2.10 M/M)
ローカルコンサルタント	現地：26 (0.87 M/M)
合計	7.46 M/M

注) 現地は一月を 30 日、国内は一月を 20 日として算出。

1) ソフトコンポーネント管理者（邦人：管理者補佐含む）の配置期間と活動内容詳細 【学校施設の運営・維持管理活動】

段階	活動	国内	現地
事前準備	ローカル NGO の調達、連絡業務	2	
	既存マニュアル等の精査、改訂箇所の検討	4	
	アンケート用質問票案の作成	1	
G1: 施設の 維持管理・ 衛生関連講 習会	東京⇄アンタナナリボ往復		5
	アンタナナリボ⇄トアマシナ		2
	トアマシナ⇄地方		1
	ソフトコンポーネント実施者間の事前確認		

	ローカル NGO/コンサルタントとの打合わせ、アンケート作成（講習会前後、DREN、CISCO/ZAP 長用含む）		1
	マニュアル改訂支援		
	改訂作業		4
	マニュアル印刷・製本		
	関係者との活動内容・役割分担等の確認		
	調達代理機関への説明		0.5
	教育省、JICA マダガスカル事務所表敬・説明		0.5
	DREN との打ち合わせ		0.5
	G1 各校関係者対象、施設の維持管理・衛生関連講習会実施支援		
	講習会視察		1
	アンケートの実施（講習会開始直後、終了時）		
	現地報告		
	DREN、CISCO への報告、今後について		2
	教育省、JICA マダガスカル事務所、調達代理機関への報告		1
	その他		
	実施準備		0.5
	ローカル NGO/コンサルタントとの振り返り、中間報告書について		1
	資料整理		2
G2:施設の維持管理・衛生関連講習会	東京⇄アンタナナリボ往復		5
	アンタナナリボ⇄トアマシナ		2
	表敬・打合せ		
	教育省、JICA マダガスカル事務所、調達代理機関への表敬、説明		1
	ローカル NGO/コンサルタントとの打ち合わせ		0.5
	DREN、CISCO との打ち合わせ		0.5
	G2 各校関係者対象、施設の維持管理・衛生関連講習会実施支援		
	講習会視察		2
	アンケートの実施（講習会開始直後、終了時）		
	現地報告		
	DREN、CISCO への報告、ソフトコンポーネント活動のレビュー		1
	教育省、JICA マダガスカル事務所、調達代理機関への報告		1
	その他		
ローカル NGO/コンサルタントとの振り返り、最終報告書について（通学路整備対象校の状況確認含む）		1	
資料整理		1	
活動支援（国内）	進捗管理	4	
	中間報告書の作成	3	
	最終報告書の作成	4	
日数小計		18	37

【通学路整備・維持管理活動（パイロット）】

段階	活動	国内	現地
事前準備	連絡業務	1	
	講習会教材・既存マニュアルの精査、改訂箇所の検討、アンケート	2	

	作成		
G2: 通学路の維持管理に関する啓発、技術指導	関空⇄アンタナナリボ往復		5
	アンタナナリボ⇄トアマシナ		2
	表敬打合せ		
	教育省、JICA マダガスカル事務所への表敬		1
	インフラ整備に関する情報収集（団内打合せ）		1
	CISCO、地方道路事務所との打合せ		1
	FAF、校長、コミュニティとの打合せ		1
	G2: T2-11, 13 学校関係者対象通学路維持管理の啓発、技術指導		
	道路調査、整備/デモンストレーション計画、整備費用見積		3
	デモンストレーション用資機材調達、講習会準備		
	講習会/デモンストレーション		
	維持管理作業研修		12
	教材/マニュアル作成		
	アクションプラン作成支援		
	アンケートの実施		
	現地報告		
	地方道路管理者、DREN への報告		1
教育省、JICA マダガスカル事務所への報告		1	
その他			
資料整理		3	
活動支援 (国内)	進捗管理	1	
	中間報告書・維持管理マニュアルの作成	2	
		6	31
	日数小計（現地：邦人 x 2）		62
	合計日数	24	99

2) ローカル NGO

【学校施設の運営・維持管理活動】

	活動	日数	日数内訳
事前準備	施設の維持管理、衛生に関するマニュアル改訂に係る検討	2	既存マニュアル確認・改訂検討(啓発的観点から):2
	講習会内容検討	2	施設の維持管理・衛生関連講習会内容の検討(啓発的観点から):2
G1: 施設の維持管理・衛生関連講習会	準備業務、講習会実施(ソフトコンポーネント管理者に同行: 首都での業務5日間)	13	アンタナナリボ→トアマシナ:1、トアマシナ⇄地方:1、打ち合わせ・アンケート作成:1、マニュアル改訂/印刷・製本:4、DREN 表敬・打合せ:0.5、実施準備:0.5、G1 維持管理・衛生関連講習会実施(トライアル):1、DREN・CISCO への報告:2、振り返り・中間報告書について:1、資料整理:1
	残りの講習会実施	3	実施:2、トアマシナ→アンタナナリボ:1
中間報告書	資料とりまとめ、中間報告書作成	5	

G2:施設の維持管理・衛生関連講習会	準備業務、講習会実施(ソフトコンポーネント管理者に同行)	8	アンタナナリボ⇔トアマシナ:2、打合せ:0.5、DREN・CISCO表敬:打合せ:0.5、G2維持管理・衛生関連講習会実施:2、DREN・CISCOへの報告、ソフトコンレビュー:1、振り返り・最終報告書について(通学路整備対象校の状況確認含む):1、資料整理:1
最終報告書	資料とりまとめ、最終報告書作成	5	
日数小計		38	

【通学路整備・維持管理活動(パイロット)】

	活動	日数	日数内訳
事前準備	通学路整備に関するマニュアル(案)作成に係る検討	1	マニュアル題材の確認・作成検討(現地特性を反映):1
G2:通学路の維持管理に関する啓発、技術指導	研修実施コーディネート、マニュアル作成補助(ソフトコンポーネント管理者に同行)	24	インフラ関連情報収集(団内打合せ):1、アンタナナリボ⇔トアマシナ:2、DREN表敬・地方道路事務所表敬・打ち合わせ、デモンストレーションへの招待:1、CISCO・FAF・校長・学校関係者打ち合せ:1、デモンストレーション関連事前準備等:2、デモンストレーション:1、維持管理マニュアル(案)作成補/維持管理作業研修/アクションプラン作成/アンケート実施補助/ファシリテーション:12、DREN、CISCO、地方道路事務所報告:1、資料整理:3
日数小計		25	
合計日数		63	

3) ローカルコンサルタントの配置期間と活動内容詳細

	活動	日数	日数内訳
事前準備	マニュアル改訂に係る検討	2	既存マニュアル確認・改訂検討(施設の構造、メンテナンス方法等、技術的な観点から):2
	講習会内容検討	2	施設の維持管理・衛生関連講習会内容の検討(構造関連、メンテナンス方法等、技術的な観点から):2
G1:施設の維持管理・衛生関連講習会	準備業務、講習会実施(ソフトコンポーネント管理者に同行:首都での業務3日間)	11	アンタナナリボ→トアマシナ:1、トアマシナ⇔地方:1、打ち合わせ・アンケート作成:1、マニュアル改訂:2、DREN表敬・打合せ:0.5、実施準備:0.5、G1維持管理・衛生関連講習会実施(ト

			イ7) :1、DREN・CISCO への報告:2、振り返り・中間報告書について:1、資料整理:1
	残りの講習会実施	3	実施:2、トアマシナ→アンタナナリボ:1
G2:施設の維持管理・衛生関連講習会	準備業務、講習会実施(ソフトコンポーネント管理者に同行)	8	アンタナナリボ⇔トアマシナ:1、打合せ:0.5、DREN・CISCO 表敬:打合せ:0.5、G2 維持管理・衛生関連講習会実施:2、DREN・CISCO への報告、ソフコンレビュー:1、振り返り・最終報告書について:1、資料整理:1
合計日数		26	

6. ソフトコンポーネントの実施リソースの調達方法

ソフトコンポーネント実施におけるローカルリソースとしては、現地事情を熟知し、コミュニティ開発、住民参加、啓発活動、研修実施等の促進や支援を行なっているローカル NGO への再委託が適切と考える。マダガスカル国においては、上述の活動を展開している NGO が複数存在しており、本ソフトコンポーネント活動に関しては、当該活動に豊富な実績を有する NGO を調達する。一方、建築的観点から、施設の構造やメンテナンス方法の説明等が円滑に実施可能な建築コンサルタントについても調達することとする。

また、効果的、持続的な通学路整備のためには、学校関係者のリーダーシップや調整力、コミュニティ動員や合意形成が重要となる。これらのノウハウを持つローカル NGO の補助を得て、維持管理研修の実施やマニュアルやアクションプラン作成が有効と考えられる。草の根のリソースを活用し実施可能な通学路整備の仕様を想定しており、整備手順はローカル NGO との研修で、十分学校関係者らに習得され得ると考えられる。

NGO の候補としては、過去の無償案件や他ドナーの類似活動に関与したローカル NGO などが挙げられる。

建築コンサルタントに関しては、本プロジェクトで整備される施設に関する情報を有すること、及び的確なメンテナンス方法の説明が可能であることが求められる。従って、本プロジェクトの入札補助及び施設管理業務を担当する本邦コンサルタントとの連携が重要であり、ソフトコンポーネント活動についても、本体事業の設計監理コンサルタントに委託することが望ましい。

本ソフトコンポーネント活動は、施設整備中に実施することでより効果が現れると考えられる活動に特化し、ローカルリソースへの委託額を必要最小限に抑える計画である。従って、先行案件同様に、本邦コンサルタントが施工監理の一環としてソフトコンポーネントを実施・管理し、ローカルリソースを調達することで、上記のような費用の不均衡を回避する。

ソフトコンポーネント管理者は、準備調査段階において概略設計を実施し、本ソフトコンポーネント計画を立案したコンサルタントであるため、計画から実施までを一貫して円

滑に監理・実施することが可能となる。

7. ソフトコンポーネントの実施工程

別添1ご参照。

8. ソフトコンポーネントの成果品

(1) 資料

- 改訂版学校施設維持管理マニュアル
- 通学路維持管理マニュアル

(2) 報告書

報告書	目次(案)
中間報告書	<p>【学校施設の運営・維持管理活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マニュアルのレビュー及び改訂 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 既存マニュアルからの変更点 1-2 改訂版マニュアル 1-3 改訂版マニュアルの印刷・配布状況 2. G1 各対象校への維持管理・衛生に関する講習会 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 日程 2-2 参加者リスト 2-3 講習内容 2-4 参加者からの声 2-5 アンケート結果 2-6 教訓・課題 3. G2 各対象校への同様な講習会に向けての提言 <p>【通学路整備・維持管理活動（パイロット）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現地通学路調査 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 既存交通形態、交通量 1-2 整備計画案、積算 1-3 類似コミュニティ事業や道路整備に関する情報収集結果 2. G2 対象校における事例紹介講習会とデモンストレーション <ol style="list-style-type: none"> 2-1 日程 2-2 参加者リスト 2-3 講習会・デモンストレーション内容 2-4 参加者からの声、写真 3. G2 対象校への通学路整備研修 <ol style="list-style-type: none"> 3-1 日程 3-2 参加者リスト 3-3 研修内容 3-4 参加者からの声、写真 3-5 アクションプラン 3-6 アンケート結果 4. 活動全体の成果と教訓
最終報告書	<p>【学校施設の運営・維持管理活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの活動報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記1～3の概要 2. G2 各対象校への維持管理・衛生に関する講習会 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 日程

	2-2 参加者リスト 2-3 講習内容 2-4 参加者からの声 2-5 アンケート結果 3. 活動全体の成果と教訓 【通学路整備活動（パイロット）】 1. その後の状況
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

9. ソフトコンポーネントの概略事業費

ソフトコンポーネント概算事業費のうち、日本側負担分は以下のとおり。

項目		概算事業費（千円）	
ソフトコンポーネント管理者（邦人：管理者補佐含む）直接人件費		2,999	
直接経費	本邦コンサルタントに係る経費	4,151	6,548
	現地再委託に係る経費	2,397	
間接費		3,838	
合計		13,385	

10. 相手国側の責務

(1) ソフトコンポーネント活動実施中の責務

1) 各活動の実施と参加

本ソフトコンポーネント実施にあたっては、DREN 長/担当、各 CISCO 長/担当、及び関連 ZAP 長が実施主体となり、各校に指示・助言を与えると共に、ステークホルダーの参加を働きかける必要がある。

学校レベルでは、校長、教員代表、FAF 議長、FRAM 代表といった学校関係者の巻き込み、コミュニティの通学路整備に対する合意と参加が求められることから、ソフトコンポーネント対象期間中は、連絡や活動の実施など、一連の調整を入念に行うことが不可欠となる。

また、本ソフトコンポーネント活動終了後も各関係者による、衛生面を含めた学校施設、通学路の維持管理が継続的に実践されるよう、DREN 長/担当の指導の下、CISCO 長/担当及び ZAP 長は定期的に各校の活動をフォローすることが求められる。

下表は、各ステークホルダーの役割を示している。

対象	一連の講習会
DREN	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の指揮・監督 ・活動内容・役割分担等の確認 ・改訂版マニュアルの確認 ・各種講習会/研修開催支援・視察 ・関係者への連絡・調整支援 ・アンケート実施支援
CISCO、ZAP 長	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容・役割分担等の確認 ・改訂版等マニュアルの確認

	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会/研修開催支援・視察 ・関係者への連絡・調整支援 ・アンケート実施支援・参加
<p>学校 (FAF、FRAM 含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者との連絡・調整 ・通学路整備に関するコミュニティへの参加に係る働きかけ、合意形成 ・各種講習会/研修等参加 ・アンケート ・アクションプラン作成

(2) ソフトコンポーネント活動実施後の責務

1) 実施促進

本ソフトコンポーネント活動で啓発を受けた関係者が、前述の目標及び上位目標発現の方向に向かうように、各ステークホルダーは積極的に活動に参加すると共に、各校の適切な、衛生面を含めた維持管理、通学路整備活動に努める。

DREN、CISCO 担当者、及び ZAP 長は、ソフトコンポーネント活動における習得事項の実践、本活動に係るレビュー、及び今後への助言等を基にした活動が各校で実践されるよう促進する。通学路の整備について今回の研修を通して、整備レベルや仕様を適切に把握し、計画、準備段階から実行までのモデル事例として認識する。

2) 学校運営・維持管理予算の確保

学校の運営・維持管理に関する予算は、基本的には教育省、及び各児童・世帯からの徴収金によって賄われている。また、地方分権化政策に伴い、学校の運営・維持管理は DREN の指導の下、CISCO (ZAP) が管轄している。しかし、先に触れたとおり、教育省からの予算配賦状況は安定しておらず、また、各地域や学校の状況により、各児童・世帯から徴収できる資金に格差が生じているのが実情である。但し、2014/15 年度以降、政府からの各校への資金配賦が定期的になされる見通しがあることから、教育省関係者は、その実現に向け働きかける必要がある。

通学路整備にはコミュニティ、道路管理者等多くのステークホルダーが関係する。研修では、学校関係者が中心となり、これらのステークホルダーと交渉し、コミュニティの作業への参加促進、必要資機材や予算の調達活動に係る啓発についても含めることとする。本ソフトコンポーネント活動を通して住民への技術指導を行い、学校施設へのアクセス道路を整備することで子どものための安全な通学路が確保されることが事例として有効と判断されれば、今後、同様にアクセス道路の課題に対応する方策として、通学路整備もソフトコンポーネントの一項目として検討されることが想定される。また、学校関係者が学校環境に関する優先づけを行い、重要度が高いと認識された場合には、学校運営関連予算を通学路整備に割り当て、本ソフトコンポーネントで習得した整備手法を活かし住民自身による持続的な通学路整備が実践されることが想定される。

別添：ソフトコンポーネント実施工程表

ソフトコンポーネント実施工程表

月	2015						2016						2017						2018																														
	2	3	4	5	6		6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																	
協議	▲																																																
E/N・G/A																																																	
調達代理契約																																																	
コンサルタント契約																																																	
建設工事																																																	
ソフトコンポーネント活動																																																	
成果1:対象各校において施設の維持管理・衛生の重要性が理解される ①講習会を通じた、FAF(校長、教員代表含む)、FRAMをはじめとする学校関係者の施設の維持管理・衛生に関する啓発																																																	
成果2:対象各校において施設の維持管理方法に係る知識が醸成される ①簡易なメンテナンス、及び予防的維持管理を含む運営・維持管理に関する学校活動計画策定のためのマニュアル改訂:既存の運営・維持管理(衛生面含む)マニュアルを基に改訂する。 ②上記マニュアルに関する講習会の実施 ③上記講習会における技術的観点からの説明																																																	
成果3:パイロット活動対象校において、住民参加型通学路整備により、FAFやFRAMの結束力が高まる。 ①講習会・デモンストレーションを通じた、校長、教員代表、FAF議長、FRAMなどといった学校関係者への施設の現地材料を利用し労働集約的通学路整備に関する啓発 ②維持管理作業研修 ③学校組織やマダガスカルの道路管理体制、現地調達可能材料の特性を反映させマニュアルの作成																																																	
活動結果報告																																																	
邦人コンサルタント(ソフト管理)(国内:24日間-1.20M/M、現地:99日間3.29M/M)																																																	
ローカルNGO(63日間:2.10M/M)																																																	
ローカルコンサルタント(26日間:0.87M/M)																																																	
全体:7.46M/M																																																	

■ 国内作業
■ 現地作業

資料 6 参考資料

No.	名称	形態	オリジナル・コピー	発行機関	発行年
1	「学校施設発展のためのパートナーシップ」と命名された組織の設置に係る政令第2002/1007号	電子データ	コピー	国民教育省	2002
2	投資の環境に対する適合性に関する新たな規定を決定する1999年12月15日付政令第99954	電子データ	コピー	環境省	2004
3	ソフトコンポーネント活動	電子データ	オリジナル	第二次小学校建設計画	2007
4	学校生活:小学校の管理・メンテナンスに係るガイド	電子データ	オリジナル	第二次小学校建設計画	2008
5	2009年度卒業統計	図書	オリジナル	国民教育省	2009
6	国民教育大臣の権限及び省の一般的公正の設定に係る政令第2009-1172号	電子データ	コピー	国民教育省	2009
7	年次統計 2011-2012	電子データ	コピー	国民教育省	2010
8	年次統計 2012-2013	電子データ	コピー	国民教育省	2011
9	教育暫定計画 2013-2015	電子データ	コピー	国民教育省	2012

7 その他の資料・情報

(1) サイト調査結果概要

調査結果表

優先順位/50サイト	優先順位(シスコ内)	学区	コミュニティ	学校	アクセス			インフラ			建設スペース			既存建物			土地証明書			備考
					幹線道路からサイトまでの車での時間(分)	車でサイトまで行ける(Yes又はNo)	電気がサイト内にある(Yes又はNo)	電気が使用されている	給水施設がサイト内にある場合の給水源	給水施設が使用できる(Yes又はNo)	建設可能スペースの広さ(m x m)	建設可能スペースの障害物は何か	障害物の大きさ(m x m)	使用可能教室数(*1)	校長室があり、使用可能か(*2)	必要工室数	土地所有者	土地所有証書がある(Yes又はNo)	土地譲渡の書類がある(Yes又はNo)	
1	1	BRICKAVILLE	Brickaville	EPP Brickaville	5	Y	Y	N	湧水	Y	20×13 29×15	木造建物+基礎	20×13 29×15	9	N	4	国	N	-	
5	2		Brickaville	EPP Avilona	15	Y	N	-	井戸	Y	15×10	木造建物+基礎	15×10	2	N	3	個人	N	N	敷地が狭くて2教室校舎が配置できない。雨季は通行が困難
9	3		Mahatsara	EPP Antsampanana	1	Y	N	-	N	-	45×30	-	-	2	N	3	学校	N	-	
13	4		Mahatsara	EPP Ampitabe	0	Y	N	-	N	-	50×20	樹木	H=3	0	N	2	教育省	N	-	造成必要
17	5		Andovoranto	EPP Andovoranto	66	Y	N	-	井戸	Y	35×25	-	-	6	N	1	国	Y	-	浮き船で川を渡る
21	6		Mahatsara	EPP Manambonitra	0	Y	N	-	N	-	25×12	WC基礎 木造建物 バスケットボールゴール	6×3 11×6 -	3	Y	1	教育省	N	-	
25	7		Brickaville	EPP Menagisy	15	N	Y	Y	N	-	45.5×16	木造建物+基礎	45.5×16	3	N	4	国	N	-	擁壁必要H=≒2m, L=20m) 2か所。丘を登る。
29	8		Mahatsara	EPP Ambodiriana	1	Y	N	-	貯水槽	Y	26×13	木造建物+基礎	14×9.5	3	Y	2	教育省	N	-	
33	9		Ambinaninony	EPP Ambinaninony	5	N	N	-	湧水	Y	31×15	木造建物+基礎	31×15	2	N	4	国+個人	N	N	樹木を伐採し搬入路を作る(≒70M)
37	10		Ambinaninony	EPP Analila	0	Y	N	-	湧水	Y	18×38	ブッシュ	800㎡	2	N	1	個人	N	N	
41	11		Ambinaninony	EPP Ambodisovoka	0	Y	N	-	湧水	Y	13.5×30	-	-	3	Y	0	個人	N	N	
45	12		Anivorano	EPP Antsieranambe	12	N	N	-	貯水槽	N	35×20	樹木	H=3	1	N	5	教育省	N	-	急な坂があり、道幅が狭い。人力で材料を搬入。
49	13		Razanaka	EPP Ambodiaviavy	80	Y	N	-	井戸	Y	25×15	ブッシュ	600㎡	0	N	4	教育省	N	-	造成必要。多数の沈下橋がある。雨期は車両の通行が困難。

4

14

2	1	VATOMANDRY	Sahamatevina	EPP Anosimanasa	1	Y	N	-	貯水槽	N	35×11	基礎	20×7	7	N	3	学校	Y	-	擁壁必要(H=1m, L=35m) 急な坂がある。
6	2		Vatomandry	EPP Vohitsara	0	Y	Y	Y	市水+井戸	Y	28×17	-	-	7	Y	8	国	Y	-	
10	3		Vatomandry	EPP Ambilakely	0	Y	Y	Y	市水+井戸	Y	35×15	-	-	4	Y	3	国	N	-	
14	4		Tsarasambo	EPP Tsarasambo	1	N	N	-	貯水槽	N	41×16	-	-	6	N	2	国	N	-	造成必要、敷地は丘の上にある。(6m)
18	5		Tsarasambo	EPP Ambodivontaka	0	Y	N	-	井戸	Y	34×20	-	-	0	N	3	国	N	-	
22	6		Ambodivoananto	EPP Ambodivoananto	21	Y	N	-	井戸+貯水槽	Y	43×15	-	-	5	Y	2	国	Y	-	
26	7		Ilaka - Est	EPP Ilaka-EST	2	Y	N	-	井戸	Y	43×14	-	-	10	Y	2	国	N	-	
30	8		Niarovana Caroline	EPP Mahatsara	2	Y	N	-	井戸	Y	60×23	-	-	2	N	3	国	N	-	
34	9		Amboditavolo	EPP Lavakorana	1	Y	N	-	N	-	23×15	樹木	枝払い(幅8m)	1	N	2	教育省	N	-	擁壁必要(H=2m, L=40m)
38	10		Amboditavolo	EPP Amboditavolo	14	Y	N	-	貯水槽	N	30×17	-	-	5	N	1	国	Y	-	
42	11		Niherenana	EPP Niherenana	13	Y	N	-	湧水	Y	23×15	木造建物 ブッシュ	6×6 200㎡	6	Y	0	教育省	N	-	擁壁必要(H=2m, L=50m)
46	12		Niarovana Caroline	EPP Bonaka	23	Y	N	-	湧水	N	19×18	木造建物	8.5×4 6.5×5.5 5×3	0	N	6	教育省	N	-	擁壁必要(H=2m, L=60m)、雨季は車両での通行が困難

6

21

3	1	Antetezambaro	EPP Analamalotra	2	Y	N	-	井戸	Y	30.5×26.5	-	N	3	N	6	村落共同体	N	N	
7	2	Ampassimbe Onibe	EPP Ambalahasina	2	Y	N	-	N	-	41×15	-	N	0	N	6	村落共同体	N	N	
11	3	Salazamay	EPP Ambalamanasy	15	Y	N	-	井戸	N	30×14	木造建物+基礎	8.4×13	0	N	3	村落共同体	N	N	
15	4	Salazamay	EPP Ambodisaina	5	Y	N	-	井戸	Y	15×74	ブッシュ	1000㎡	3	N	8	国	N	-	樹木(20本程度)伐採必要
19	5	Andondabe	EPP Andondabe		N														悪路のため対象地へ到達不能
23	6	Antetezambaro	EPP Antetezambaro	0	Y	N	-	井戸	N	20×10	木造建物+基礎	17×8	4	N	4	国	N	-	
27	7	Fanandrana	EPP Ambodikily	90	Y	N	-	井戸	Y	25×12.5	切土	25×12.5	0	N	5	個人	N	N	浮き船で川を渡る。敷地内造成必要
31	8	Ambodilazana	EPP Volobe	210	Y	N	-	貯水槽	Y	36×20	木造建物+基礎	19×7	4	N	1	国	N	-	浮き船で川を渡る。雨期は車両での通行は不能
35	9	Ambodilazana	EPP Ambodilazana	270	Y	N	-	湧水	N	26.5×14	-	N	2	N	1	国&個人	N	N	浮き船で川を渡る。悪路で雨期は車両での通行は不能
39	10	Andondabe	EPP Ambodihazomamy	20	N	N	-	貯水槽	Y	19.5×11	-	N	2	N	3	個人	N	N	幹線道路から敷地まで(≒100M)谷があり車両搬入不可、造成必要
43	11	Ampasimbe Onibe	EPP Ampasimbe Onibe	50	Y	N	-	湧水	Y	30×16	木造建物+基礎	6×9.5	0	N	8	国	N	-	
47	12	Ampasimadinika	EPP Andranokobaka	60	N	N	-	井戸	Y	21×12	木造建物+基礎	8×7	2	N	3	個人	N	N	敷地まで≒80Mは徒歩で谷をわたる。
50	13	Ampasimbe Onibe	EPP Hotsika	30	Y	N	-	井戸	Y	22×45	木造建物+基礎	6×15	0	N	6	国	N	-	

7

41

4	1	Toamasina I	EPP Zoto	7	Y	Y	N	井戸	Y	34 x54	樹木	H=15	0	N	5	国	Y	-	
8	2	Toamasina I	EPP Tsiry	5	Y	Y	N	井戸	Y	59x19	-	-	2	Y	2	個人	Y	?	
12	3	Toamasina I	EPP Lovasoa	5	Y	N	-	井戸	Y	20x8	木造建物+基礎	7×5	4	Y	3	コミューン	Y	N	敷地が狭くて2教室校舎が配置できない。
16	4	Toamasina I	EPP Esperance Mangarano II	0	Y	Y	N	井戸	Y	27x11	木造建物+基礎	4×2	4	Y	12	コミューン	Y	N	敷地が狭くて2教室校舎が配置できない。
20	5	Toamasina I	EPP Todivelona Raphael	0	Y	Y	N	井戸	Y	38×65	電話柱	-	4	N	31	国	Y	-	
24	6	Toamasina I	EPP Dépôt Analakininina	1	Y	N	-	井戸	Y	19x29	-	-	4	N	5	会社	Y	N	
										11x18	木造建物+基礎	7.2×6.4							
											木造建物+基礎	4.3×4.21							
											樹木	H=8m							
28	7	Toamasina I	EPP Valpinson	5	Y	Y	Y	井戸	Y	14x29	樹木	H=8、2本	2	Y	8	会社	Y	N	
32	8	Toamasina I	EPP Manangareza	0	Y	N	-	井戸	Y	68x13	樹木	H=8	7	N	5	?	N	N	
										23×34									
36	9	Toamasina I	EPP La Foire	0	Y	Y	Y	井戸	Y	34×11	樹木	H=10	7	Y	5	コミューン	N	N	
										29×19									
40	10	Toamasina I	EPP Androranga	1	Y	N	-	井戸	Y	35x85	-	-	6	N	3	国	Y	-	
44	11	Toamasina I	EPP Ambohijafy	2	Y	Y	Y	井戸	Y	52x17	バスケットボールコート	31×17	2	Y	6	コミューン	Y	?	
48	12	Toamasina I	EPP La Poudrette	1	Y	N	-	井戸	Y	42x26	-	-	4	Y	5	国	Y	-	
										27×16									

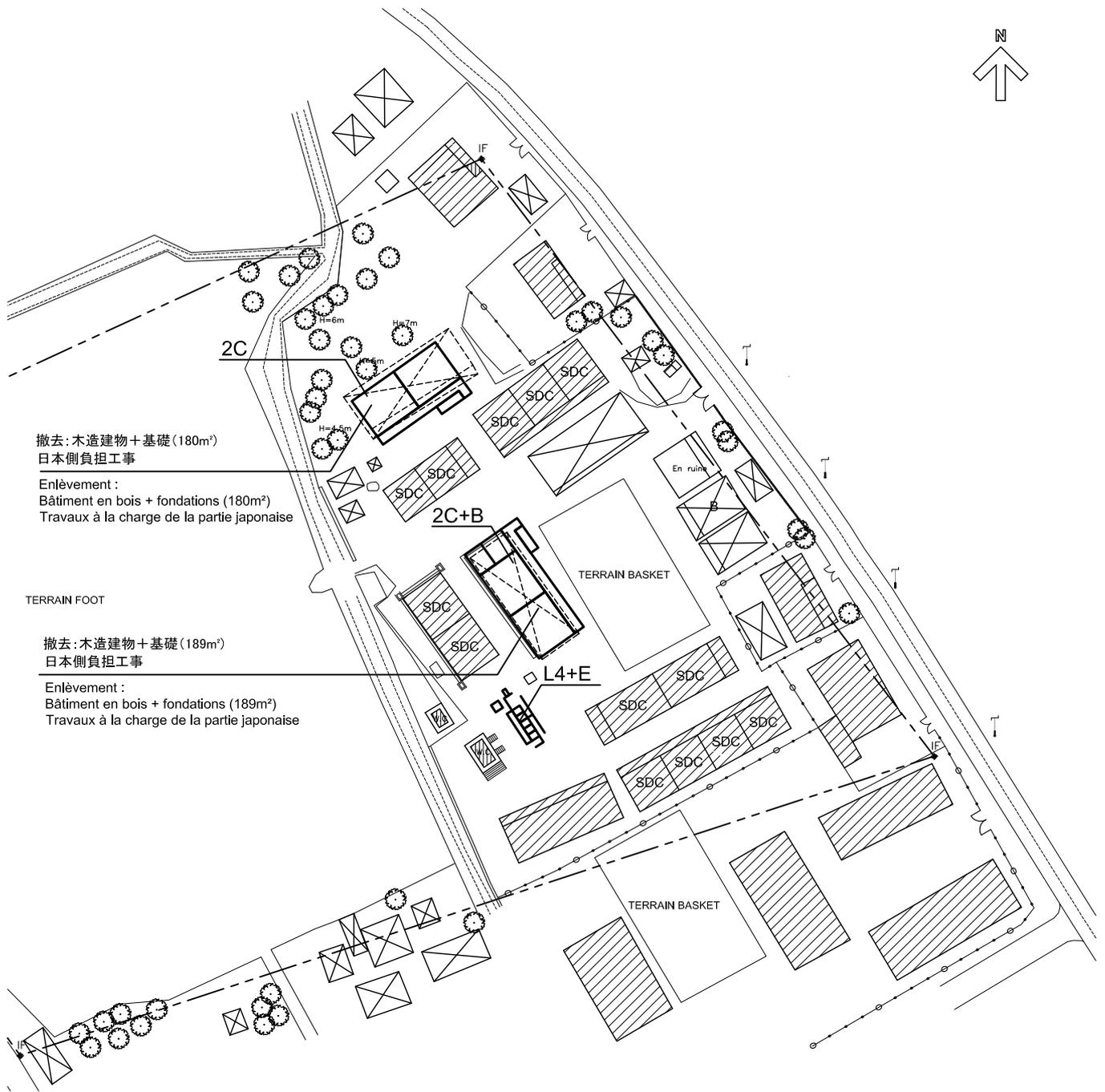
10

27

90

166

(2) 計画対象校配置図



撤去: 木造建物+基礎 (180m²)
日本側負担工事

Enlèvement:
Bâtiment en bois + fondations (180m²)
Travaux à la charge de la partie japonaise

TERRAIN FOOT

撤去: 木造建物+基礎 (189m²)
日本側負担工事

Enlèvement:
Bâtiment en bois + fondations (189m²)
Travaux à la charge de la partie japonaise

凡例:LEGENDE

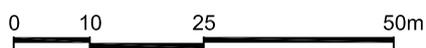
-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

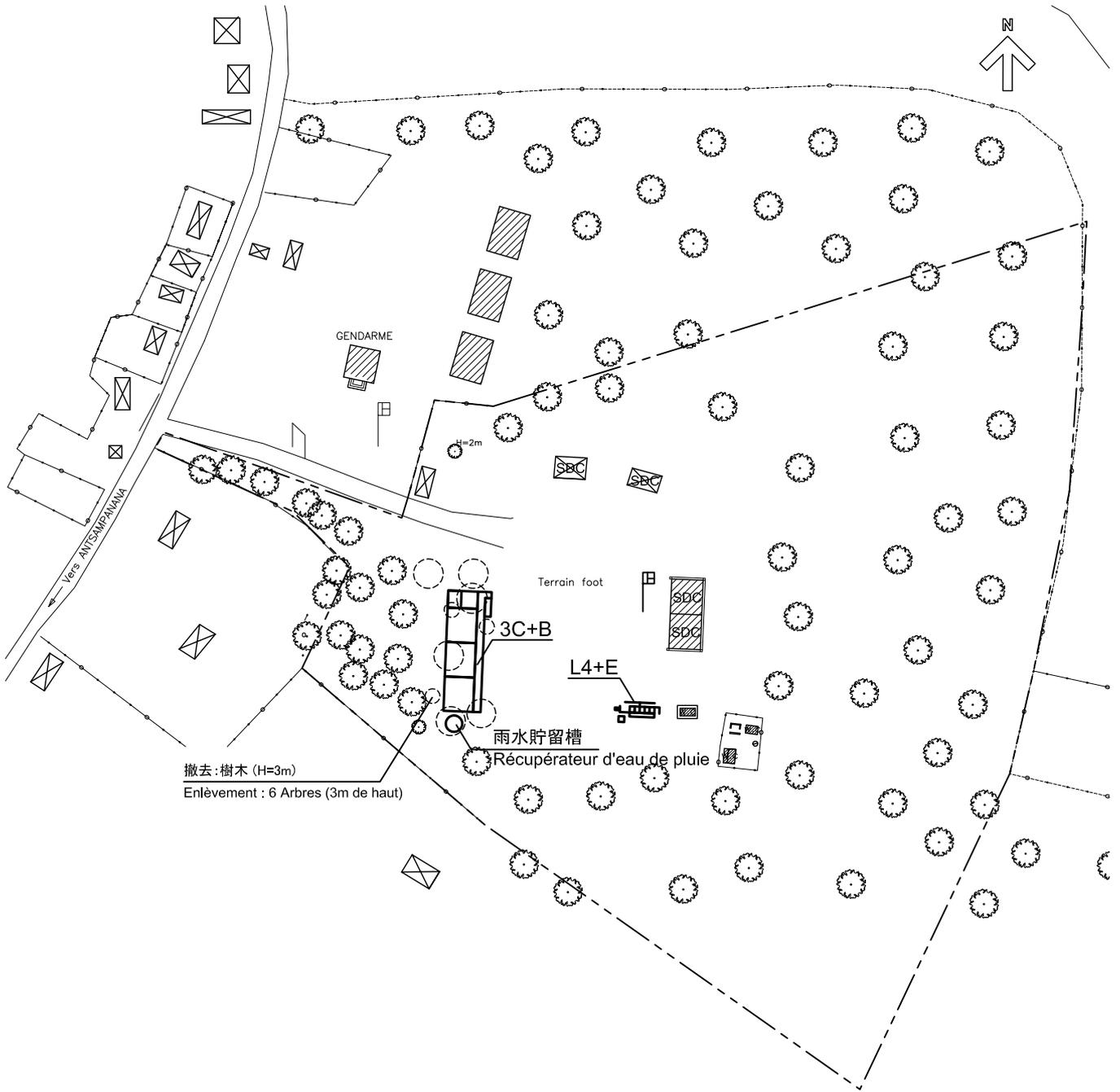
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000





撤去: 樹木 (H=3m)
Enlèvement : 6 Arbres (3m de haut)

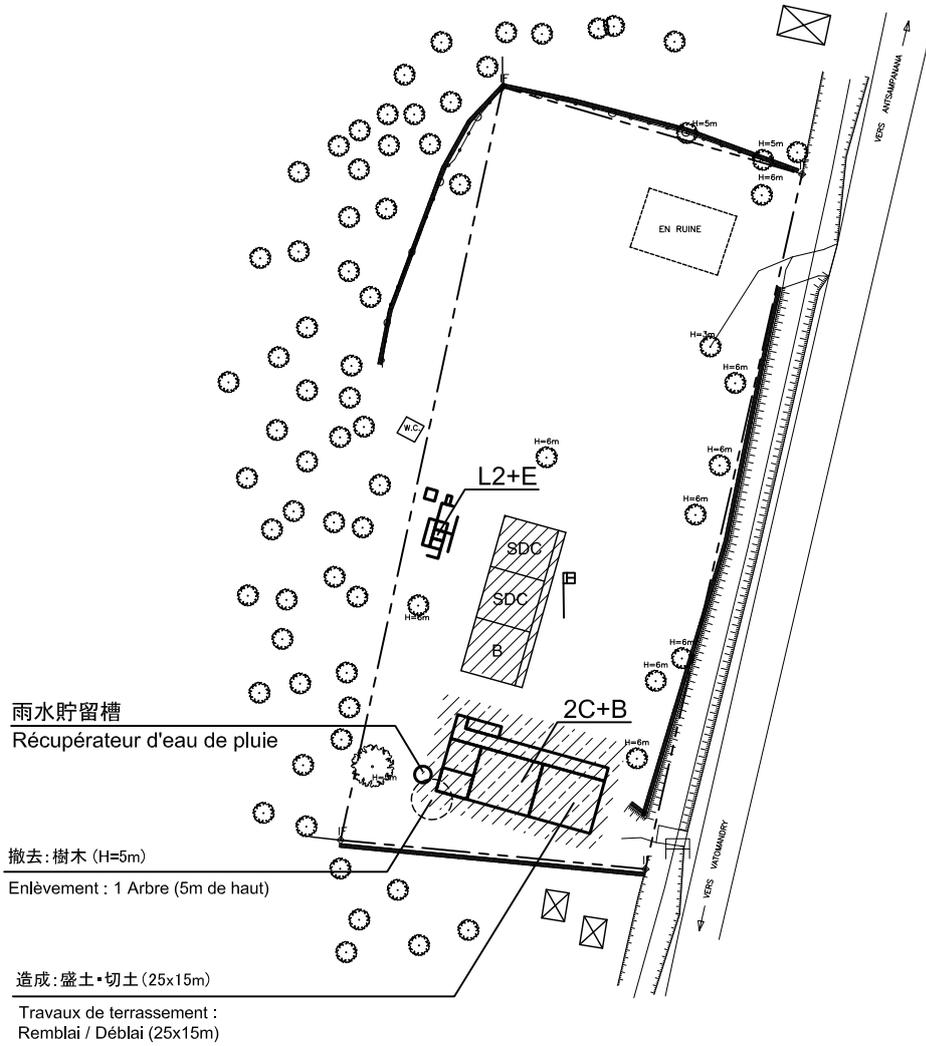
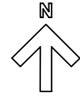
凡例: LEGENDE

- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau |  | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine |  | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

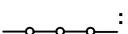
計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1500



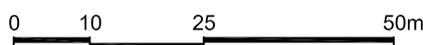


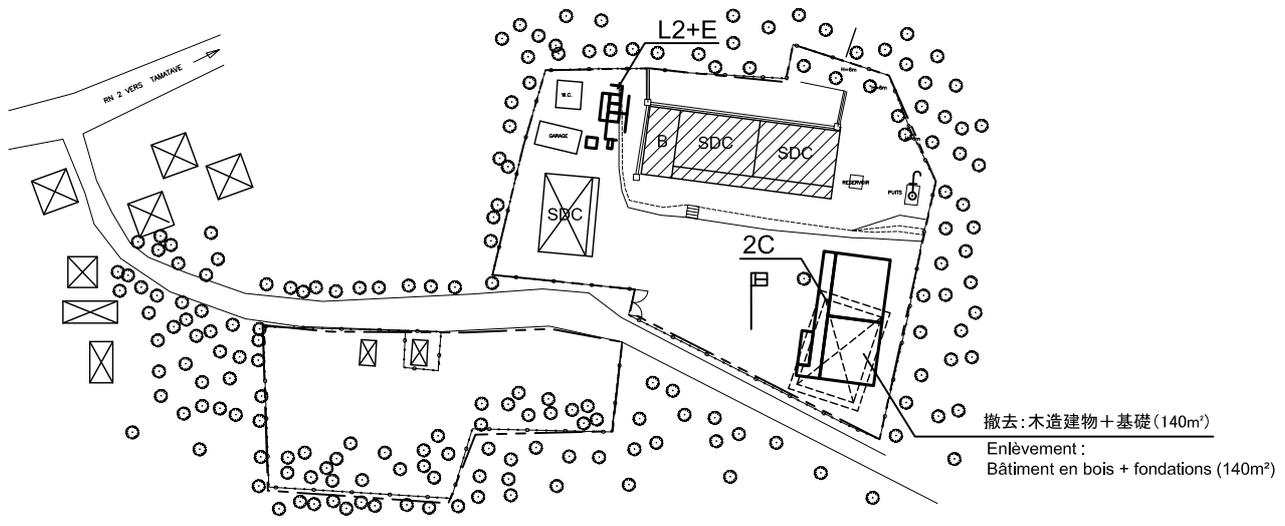
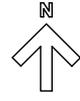
凡例: LEGENDE

- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau |  | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine |  | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000



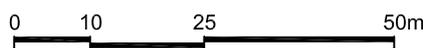


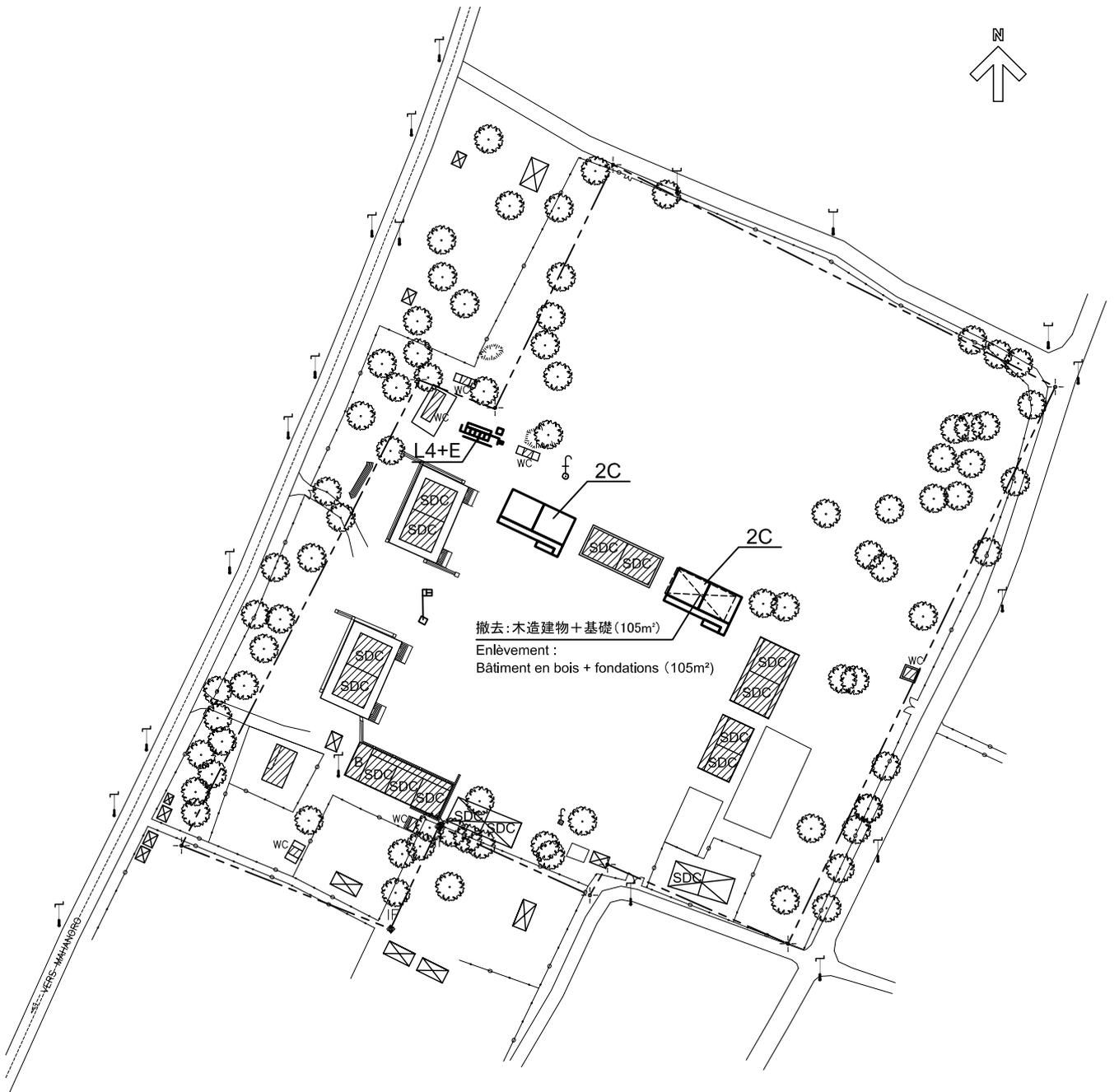
凡例:LEGENDE

- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau | | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine | | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

計画配置図

Plan d'implantation du projet
 Scale / Echelle 1:1000



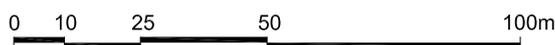


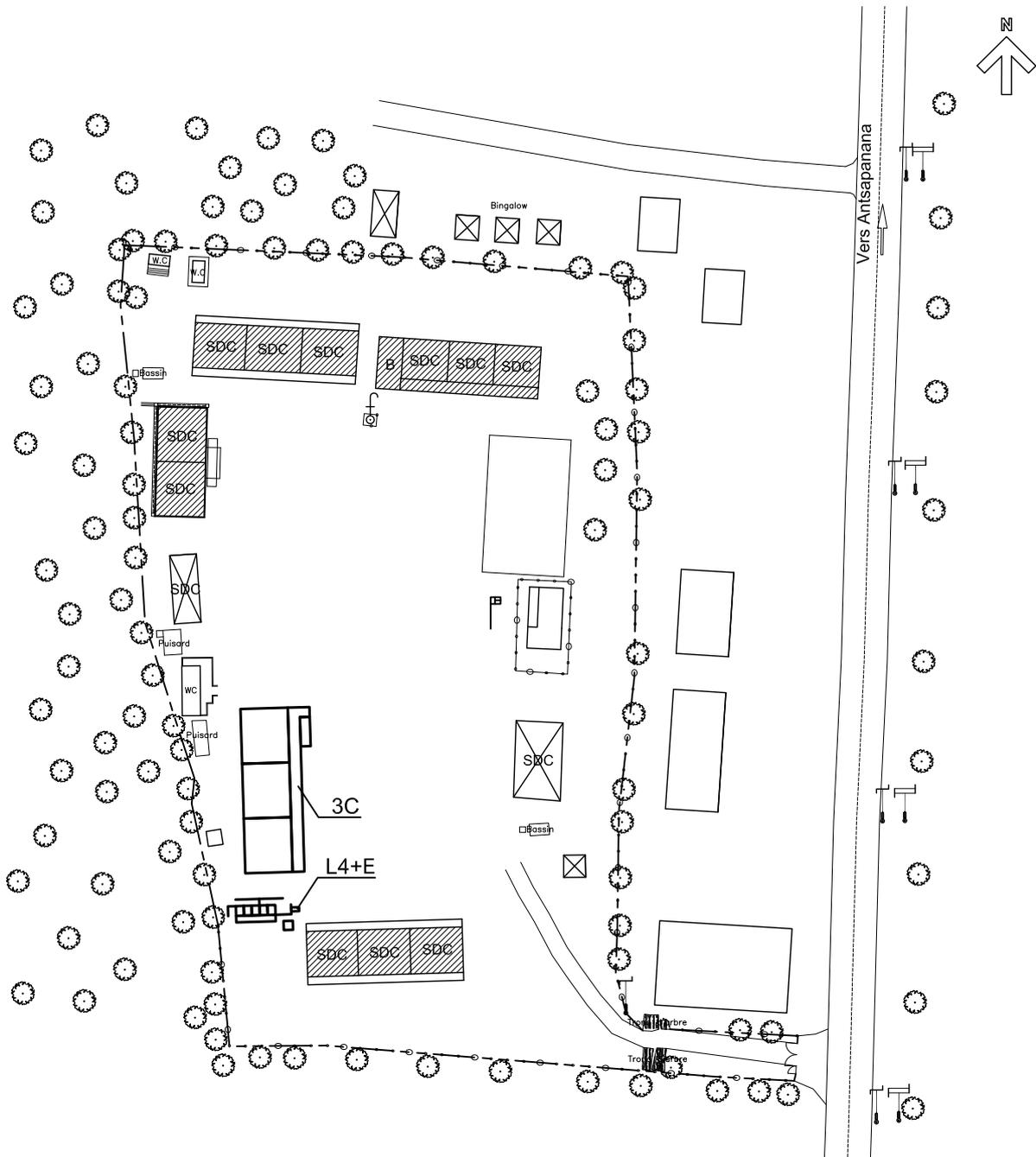
凡例:LEGENDE

- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau |  | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine |  | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

計画配置図

Plan d'implantation du projet
 Scale / Echelle 1:1500



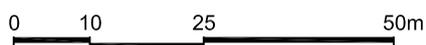


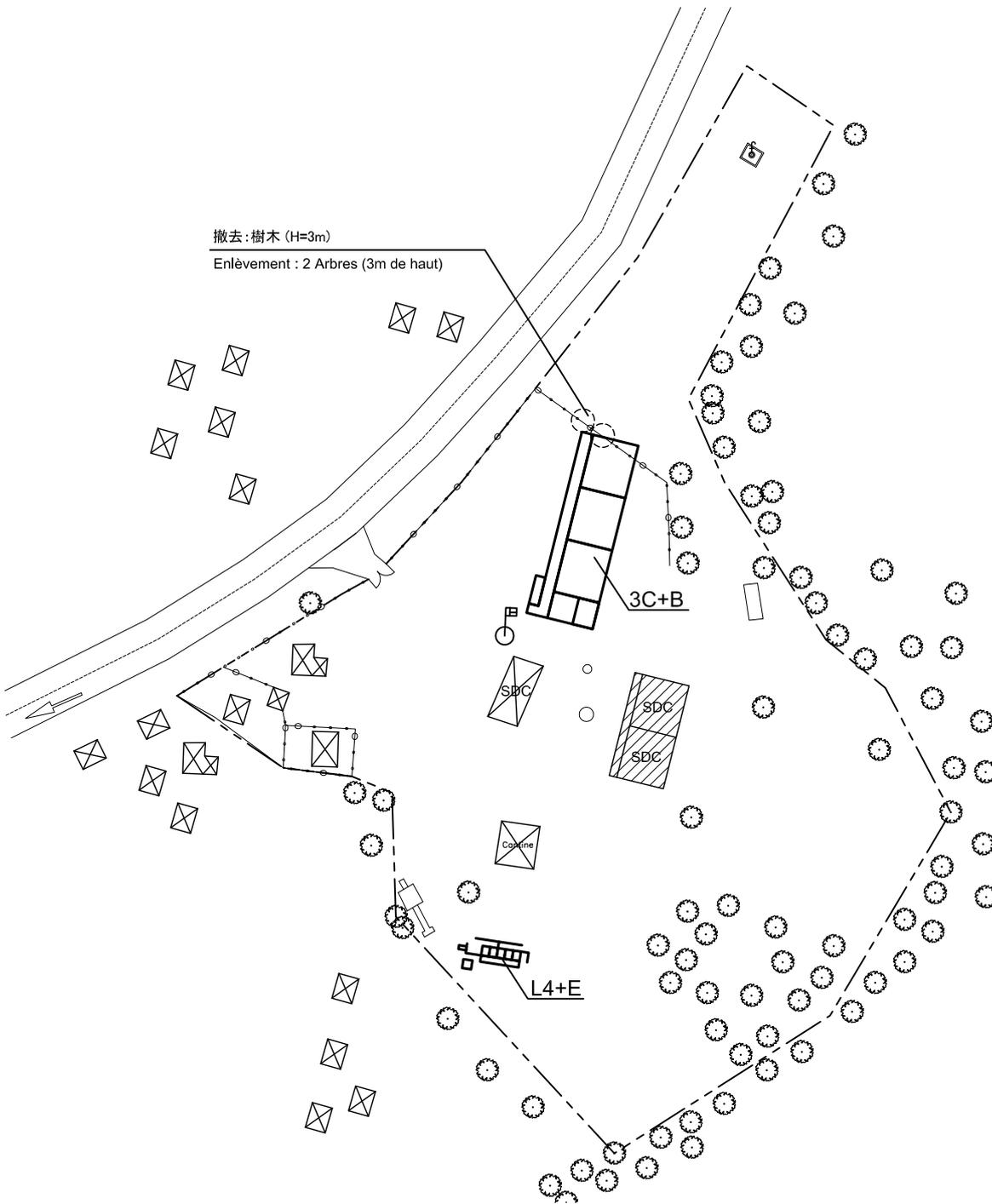
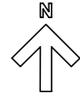
凡例:LEGENDE

- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau | | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine | | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

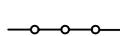
計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000



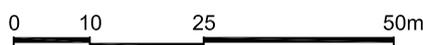


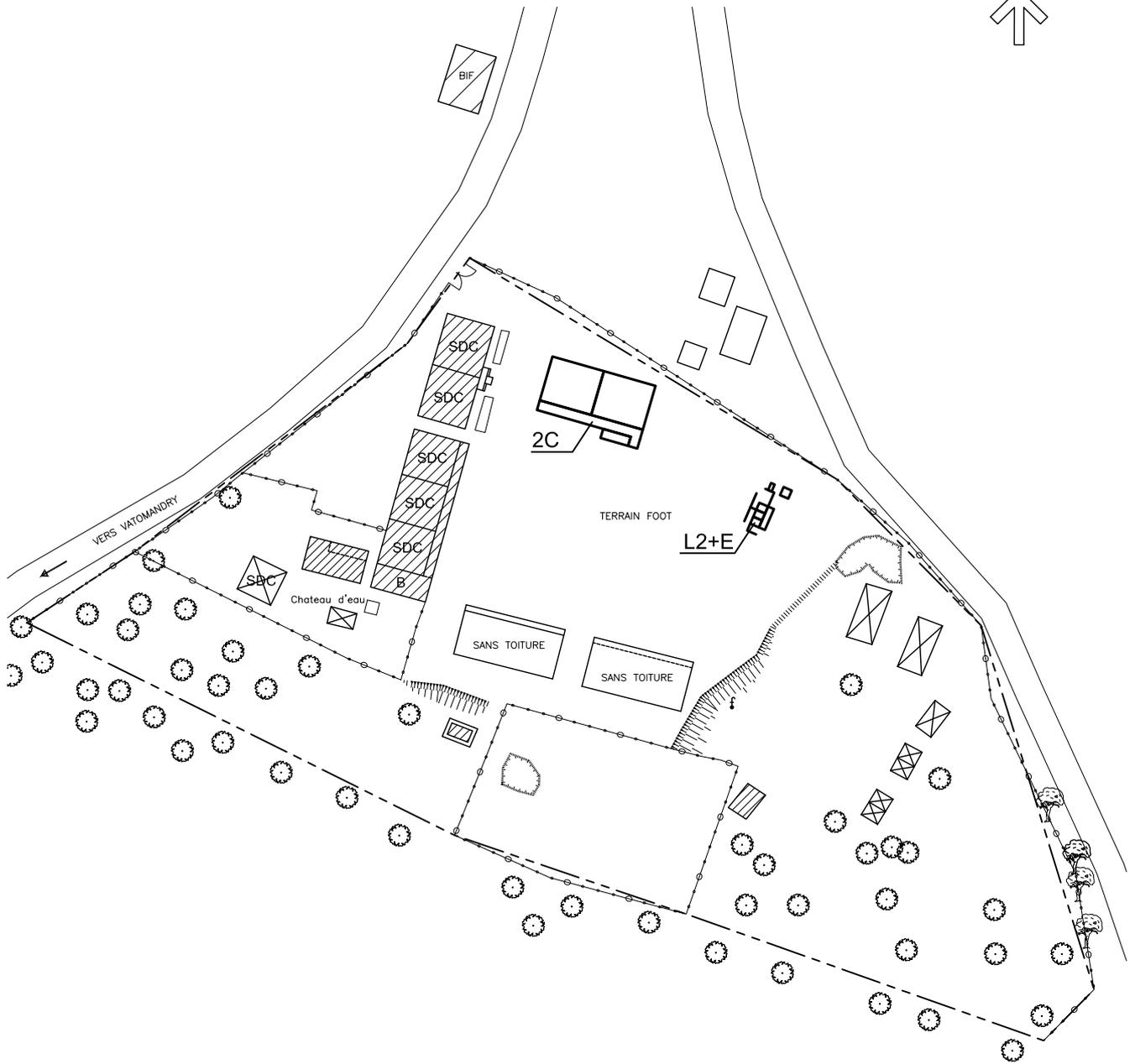
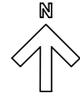
凡例:LEGENDE

- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau |  | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine |  | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000





凡例:LEGENDE

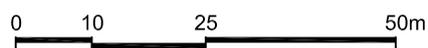
-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

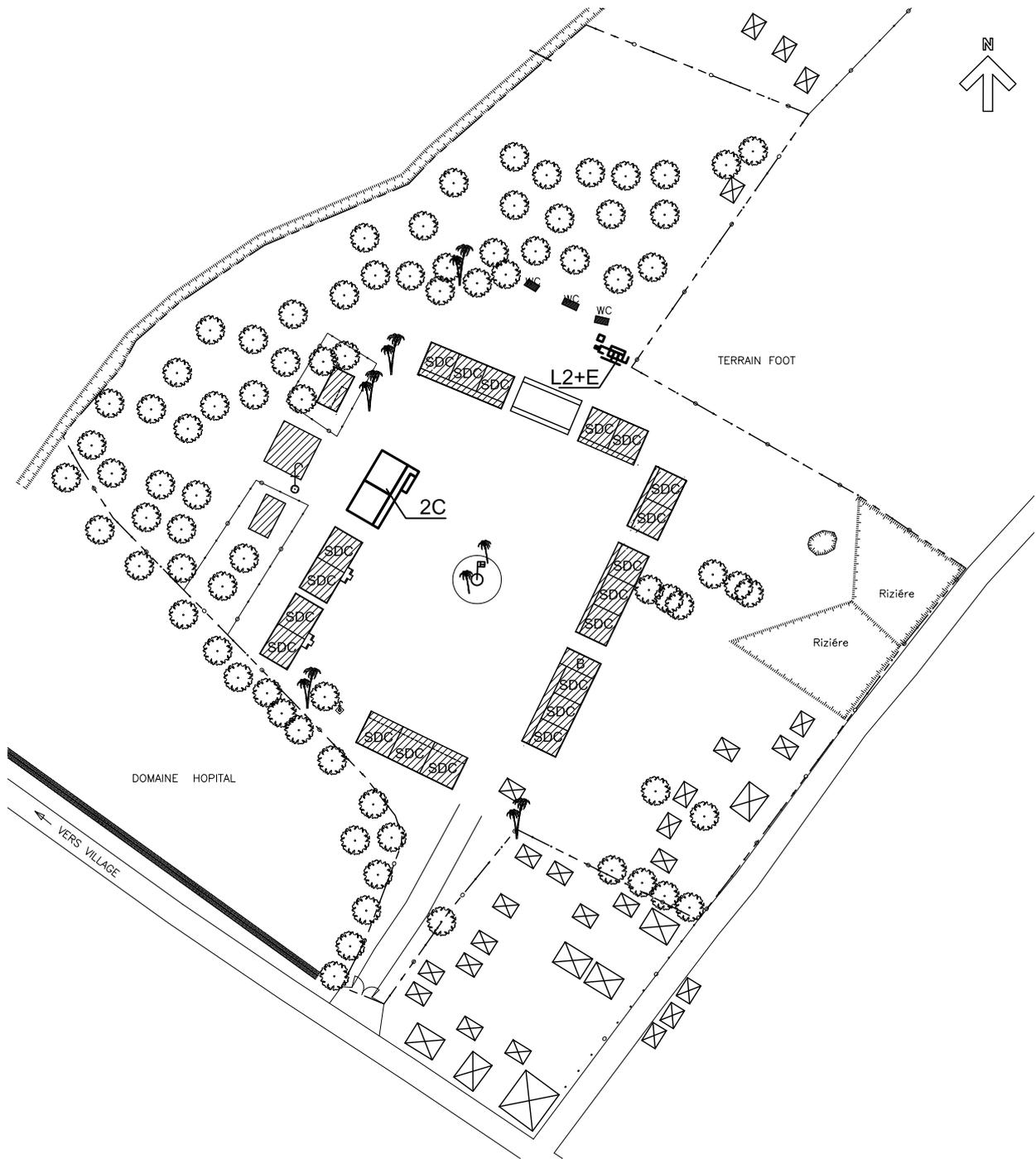
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

- : 敷地境界線
Limite de la propriété
- : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000





凡例:LEGENDE

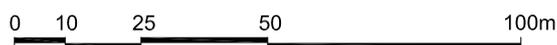
-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

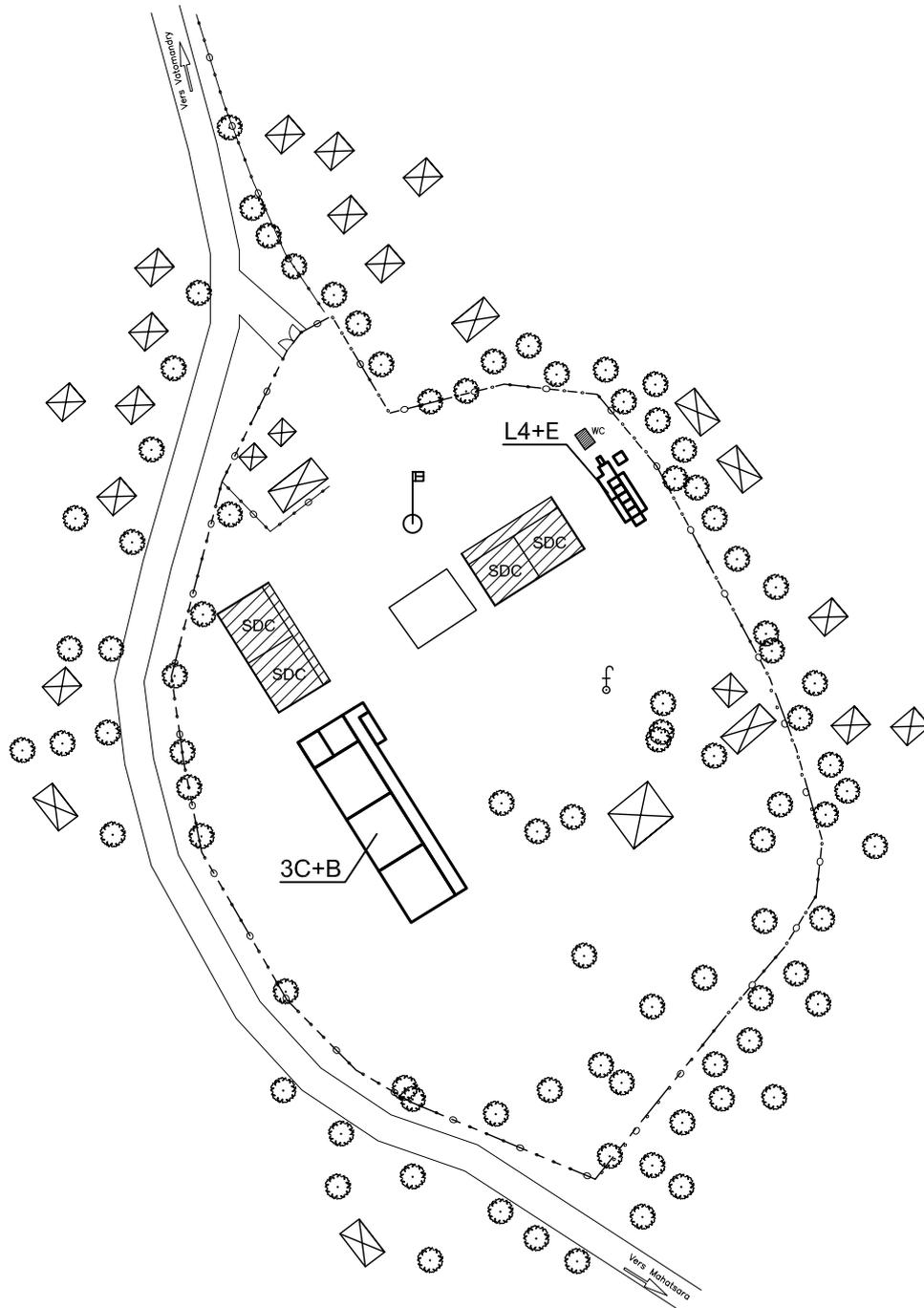
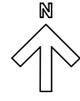
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1500





凡例:LEGENDE

-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

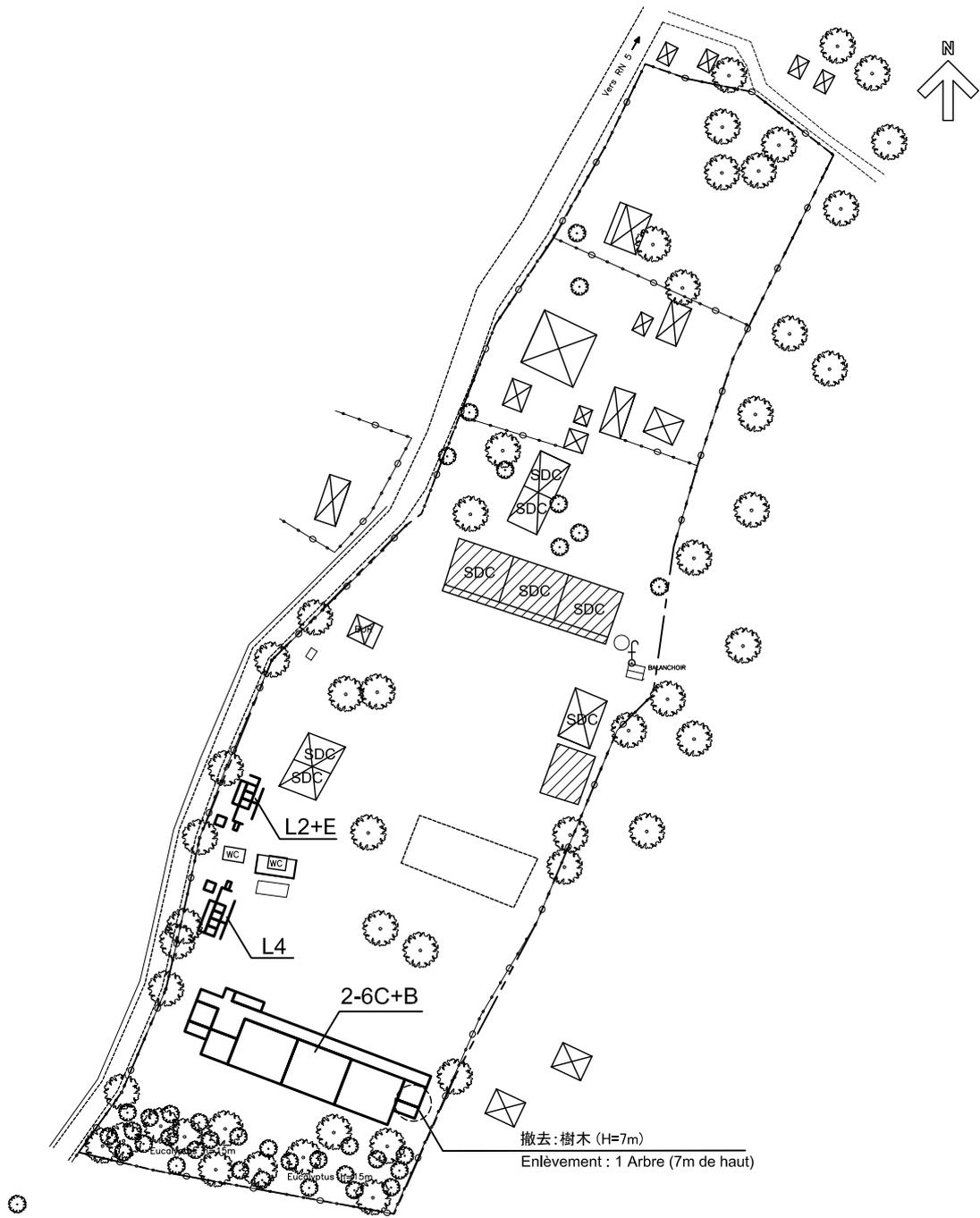
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

- : 敷地境界線
Limite de la propriété
- : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000





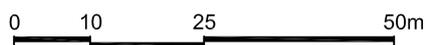
凡例:LEGENDE

- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau |  | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine |  | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:1000





凡例:LEGENDE

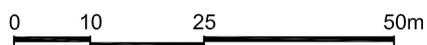
-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

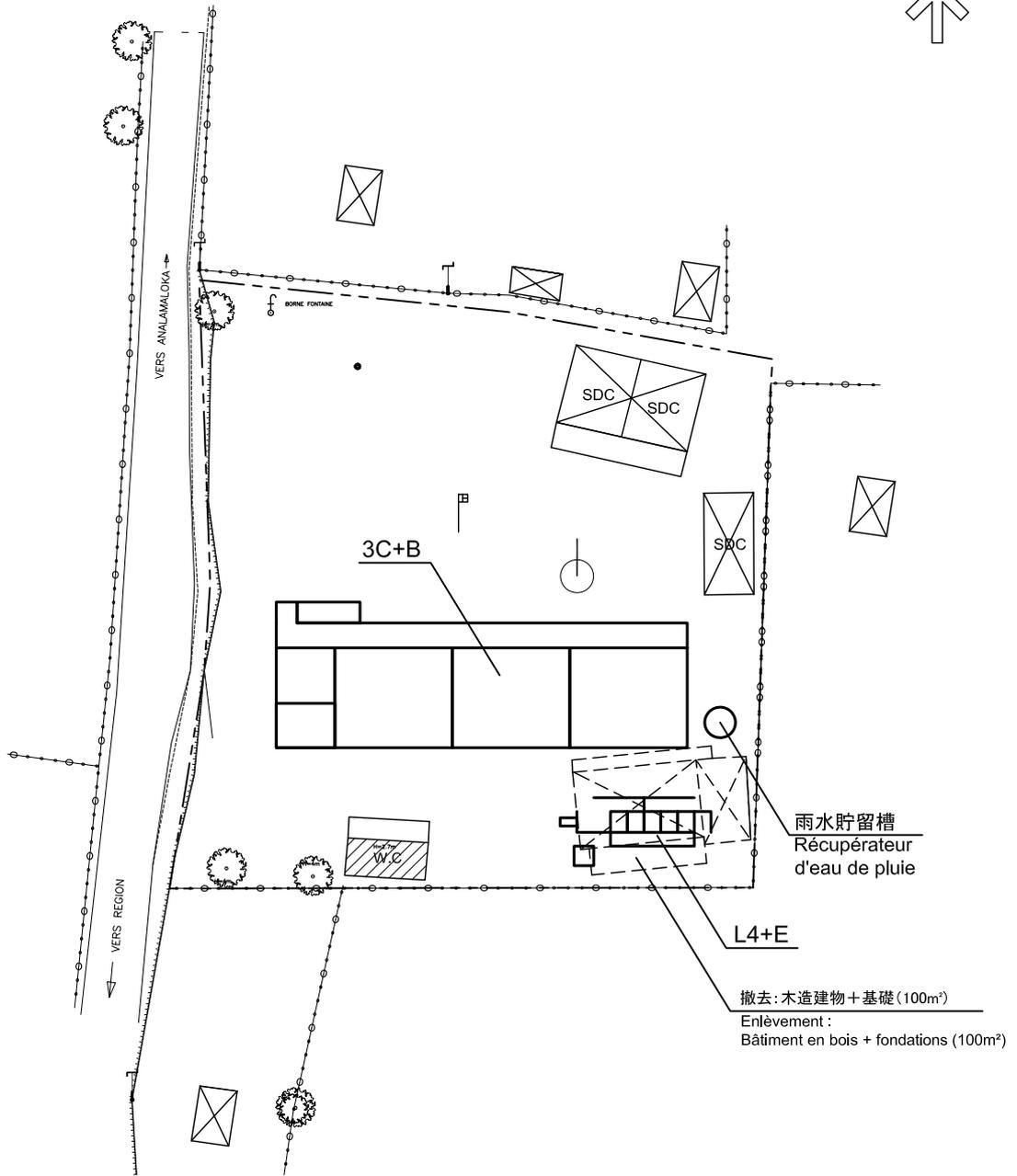
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000





撤去: 木造建物+基礎 (100m²)
 Enlèvement:
 Bâtiment en bois + fondations (100m²)

凡例:LEGENDE

-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

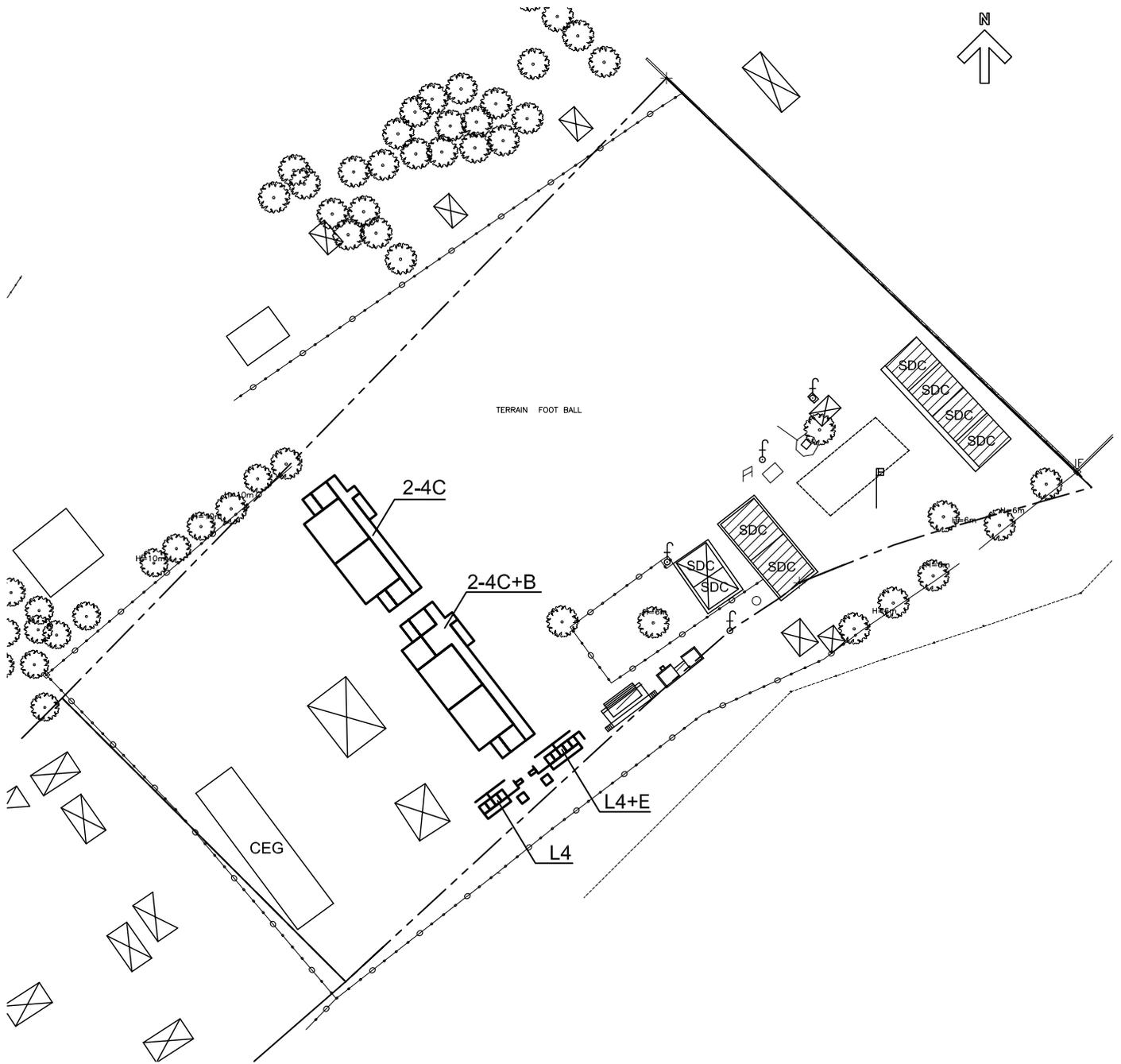
-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:500





凡例:LEGENDE

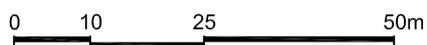
-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

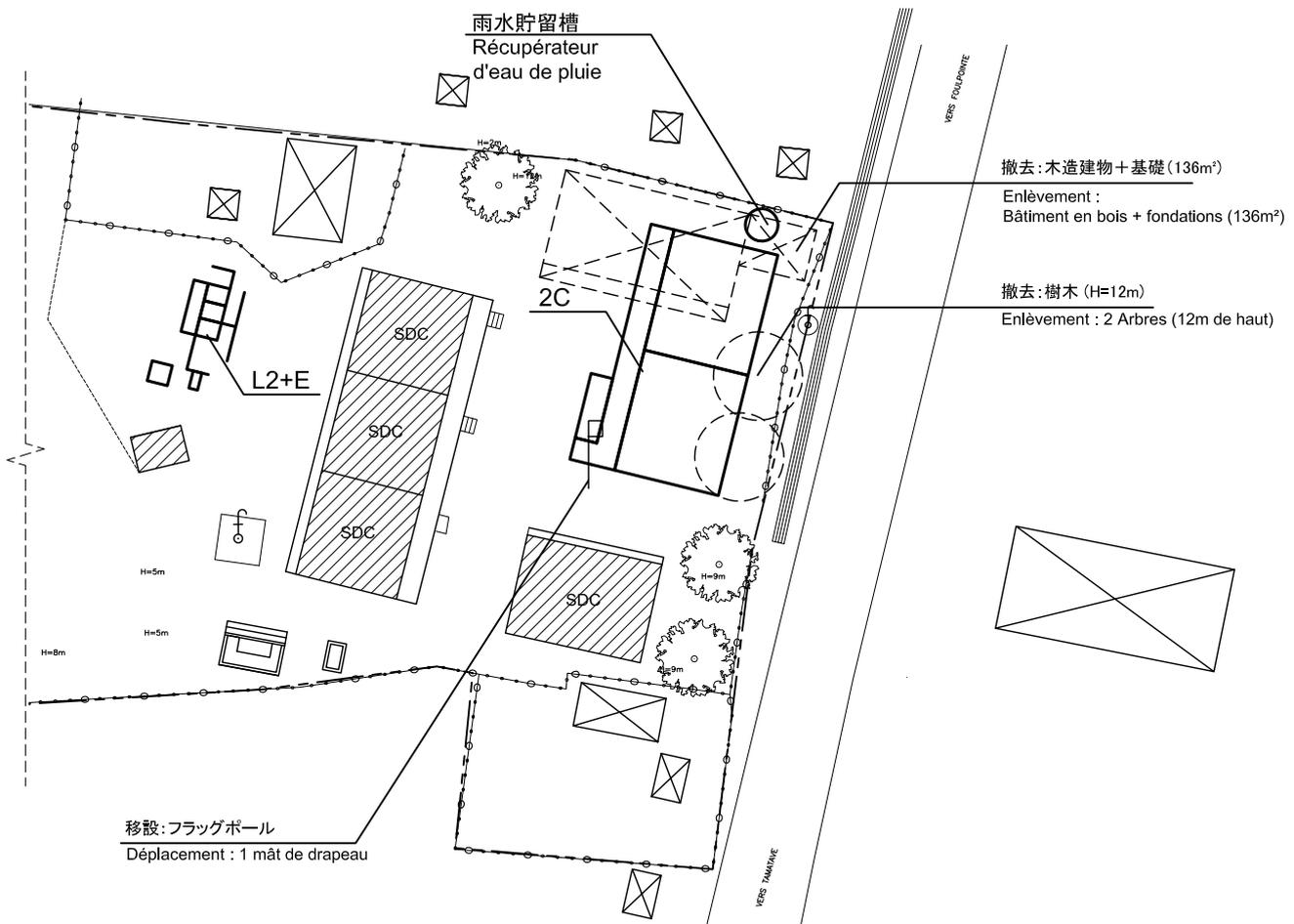
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000





凡例: LEGENDE

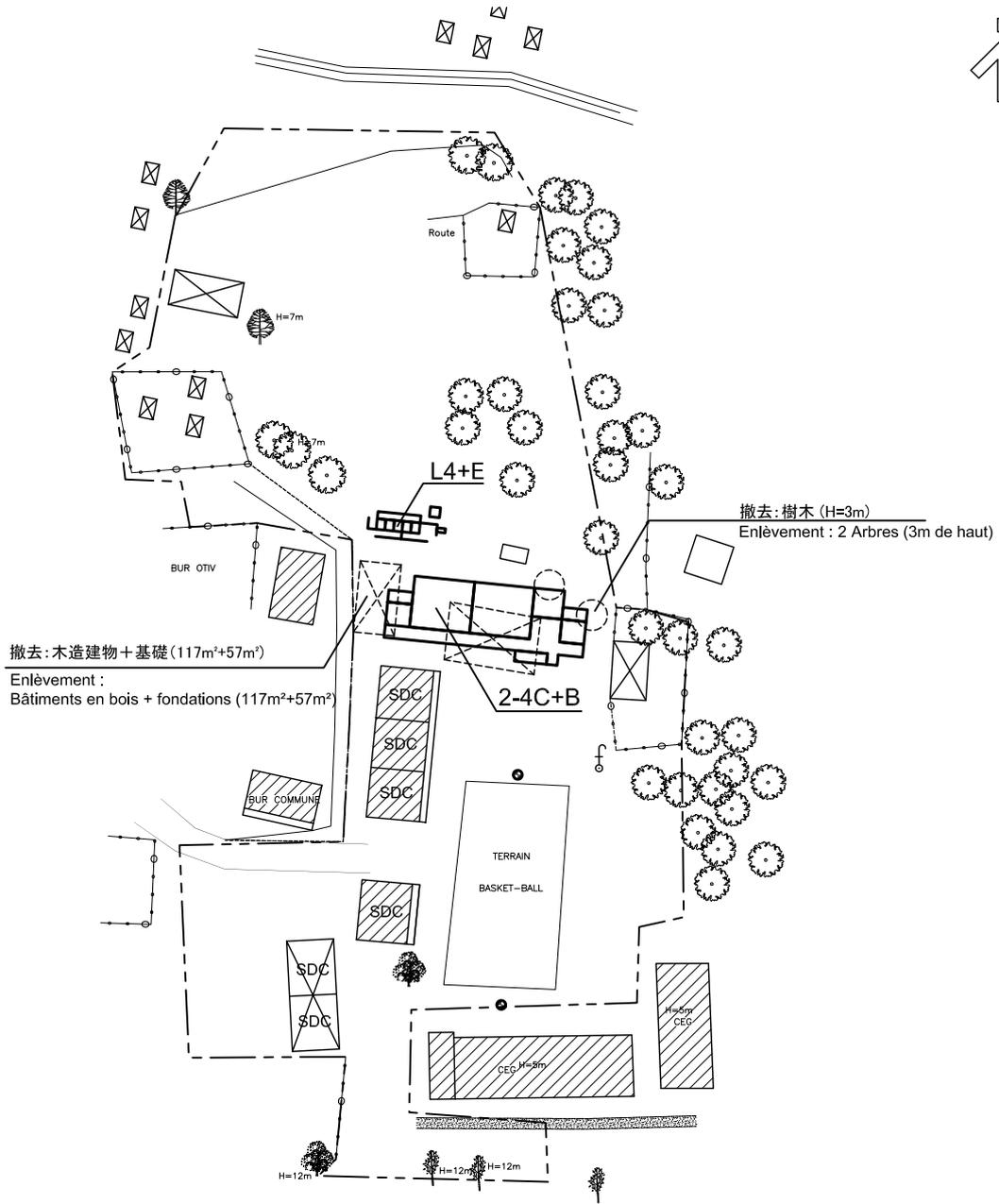
- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau |  | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine |  | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

計画配置図

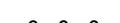
Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:500





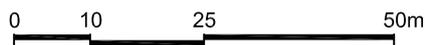
凡例:LEGENDE

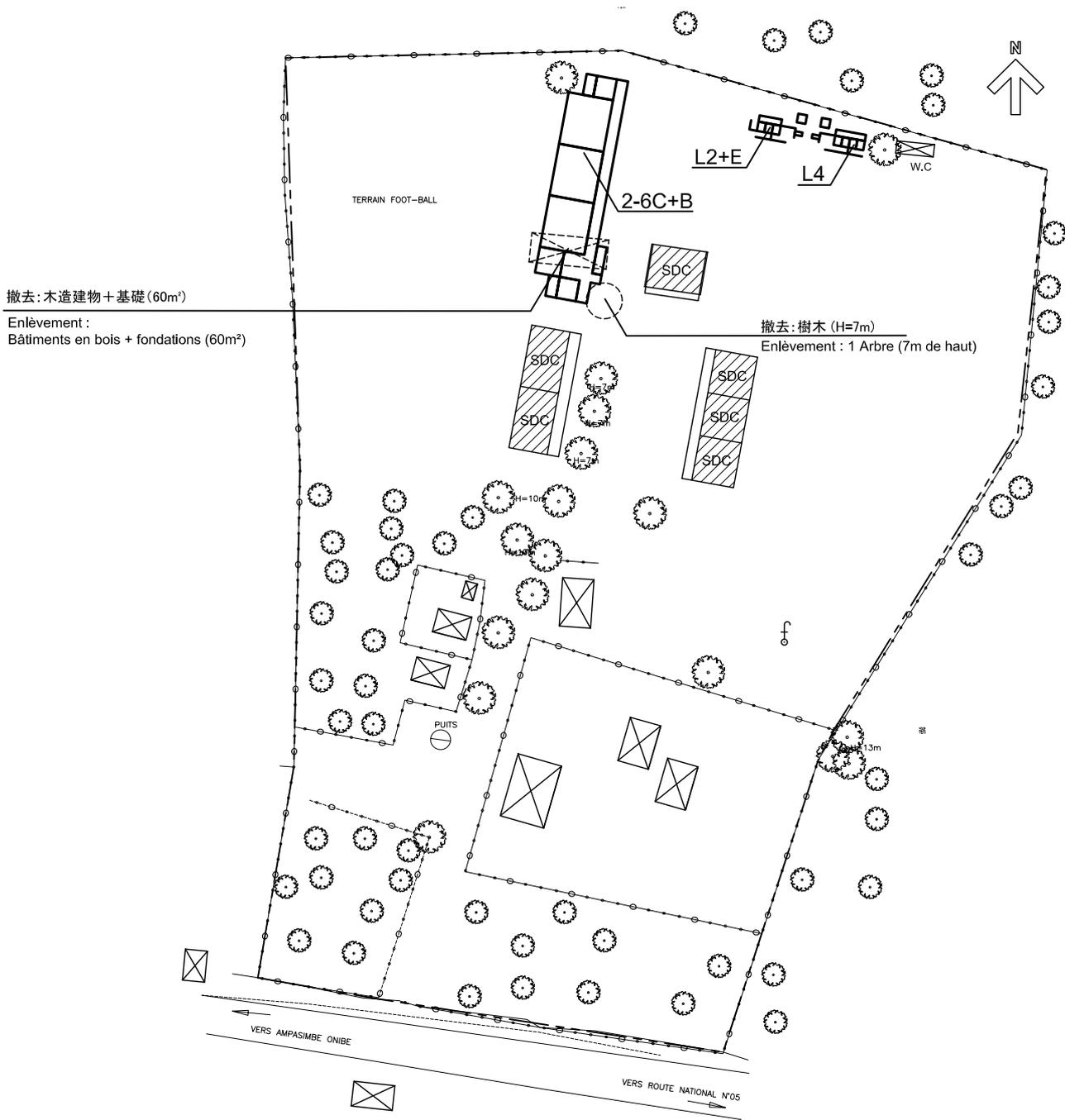
- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau |  | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine |  | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:1000

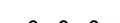




撤去: 木造建物+基礎 (60m²)

Enlèvement:
Bâtiments en bois + fondations (60m²)

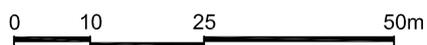
凡例:LEGENDE

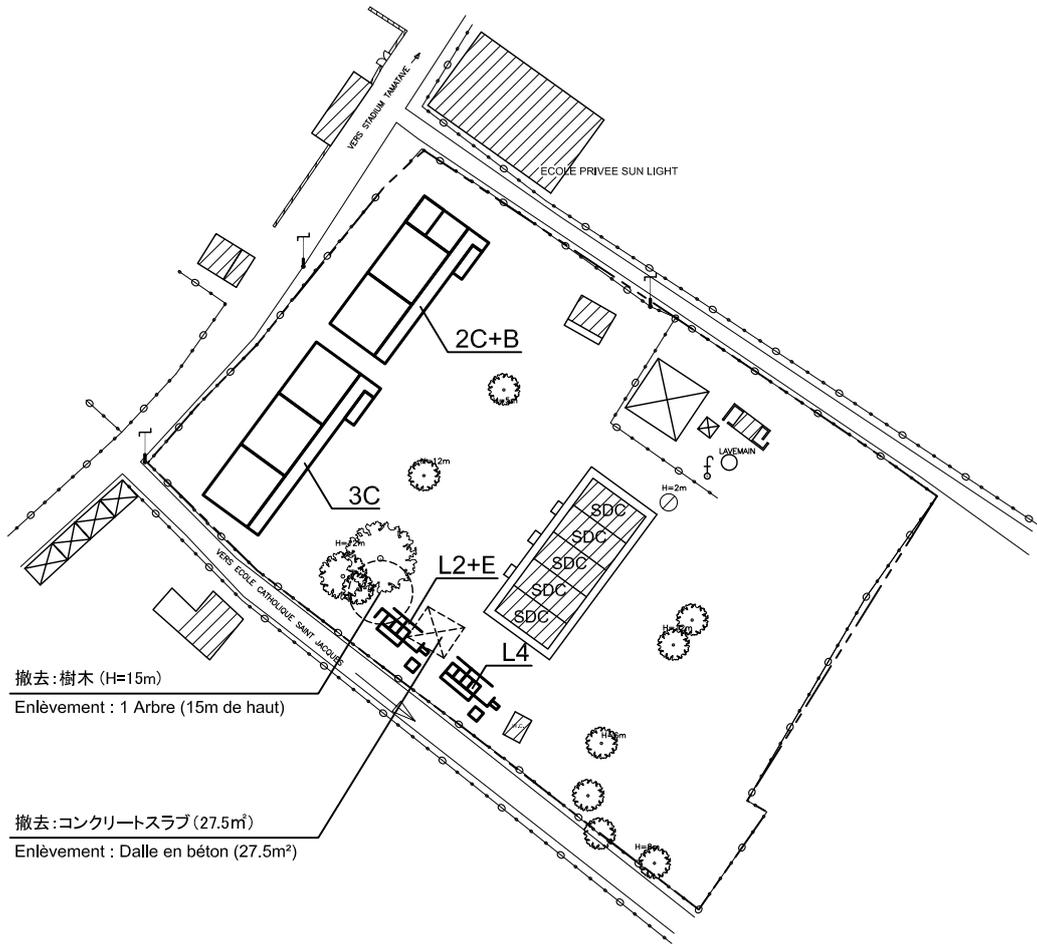
- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau |  | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine |  | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:1000





撤去: 樹木 (H=15m)
Enlèvement : 1 Arbre (15m de haut)

撤去: コンクリートスラブ (27.5m²)
Enlèvement : Dalle en béton (27.5m²)

凡例: LEGENDE

-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設 (木造)
Construction en bois

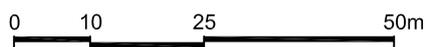
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

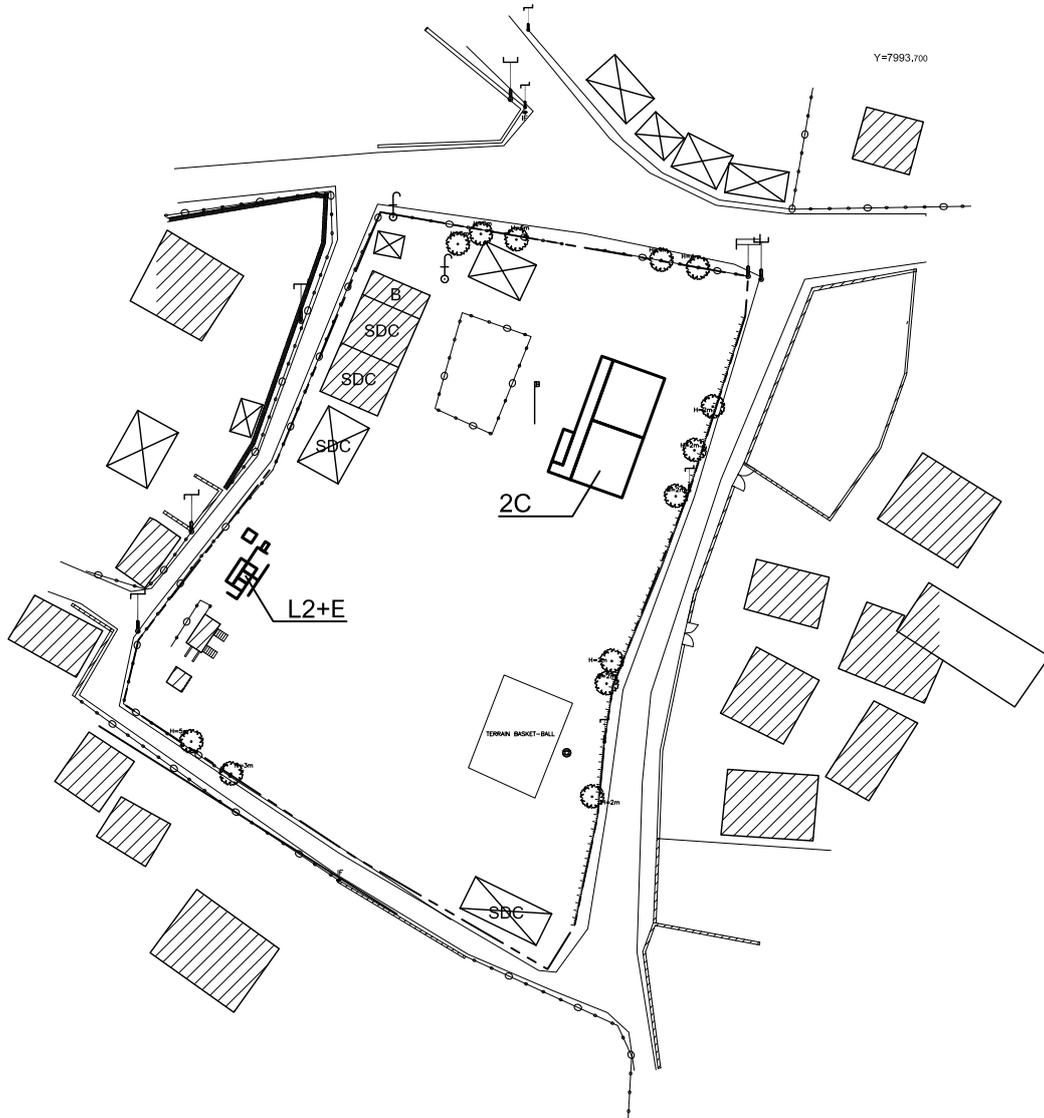
-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:1000





凡例:LEGENDE

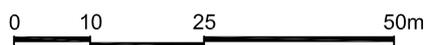
-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

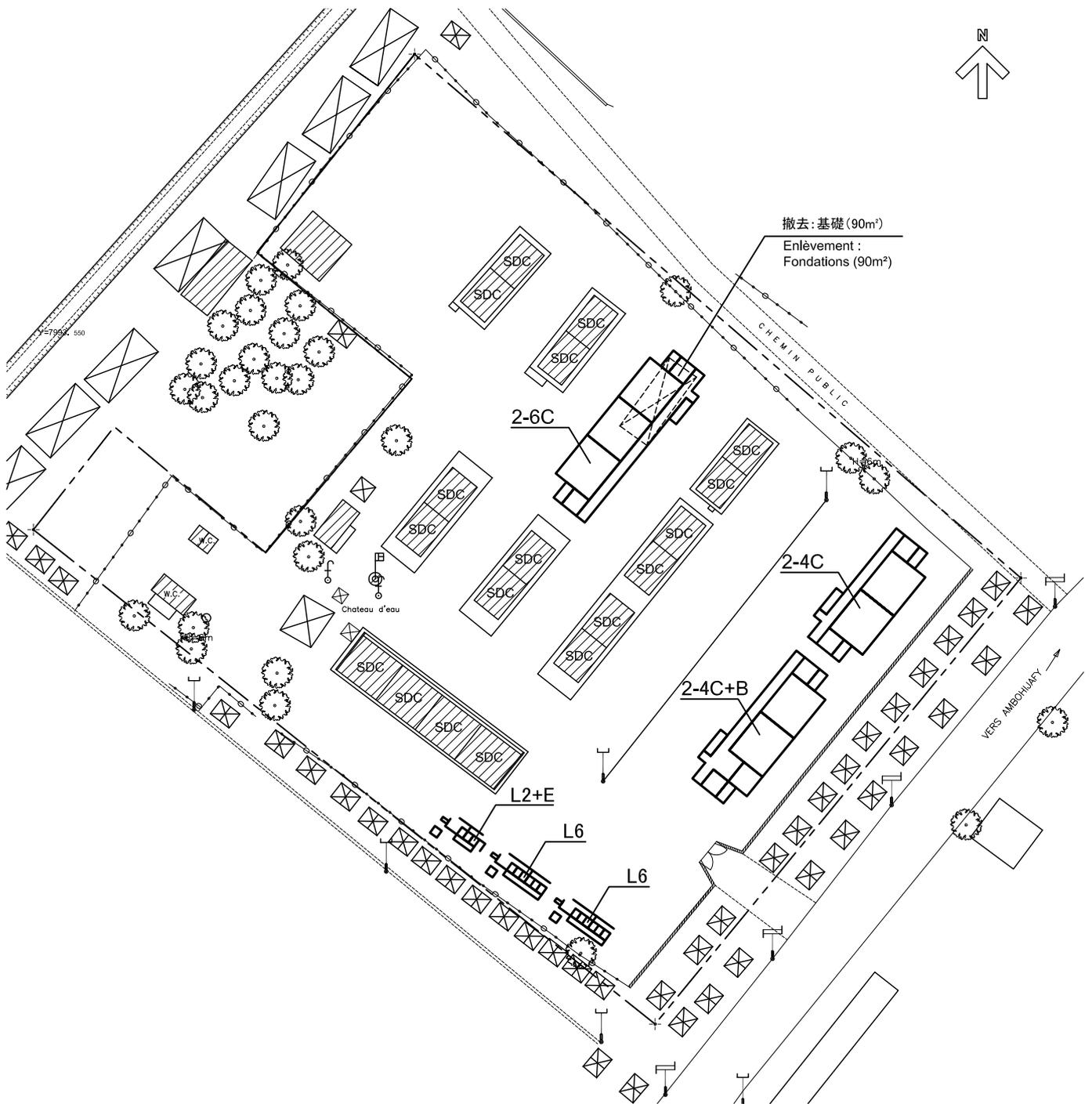
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000

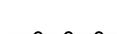




凡例:LEGENDE

-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設 (木造)
Construction en bois

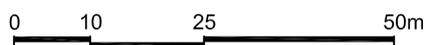
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

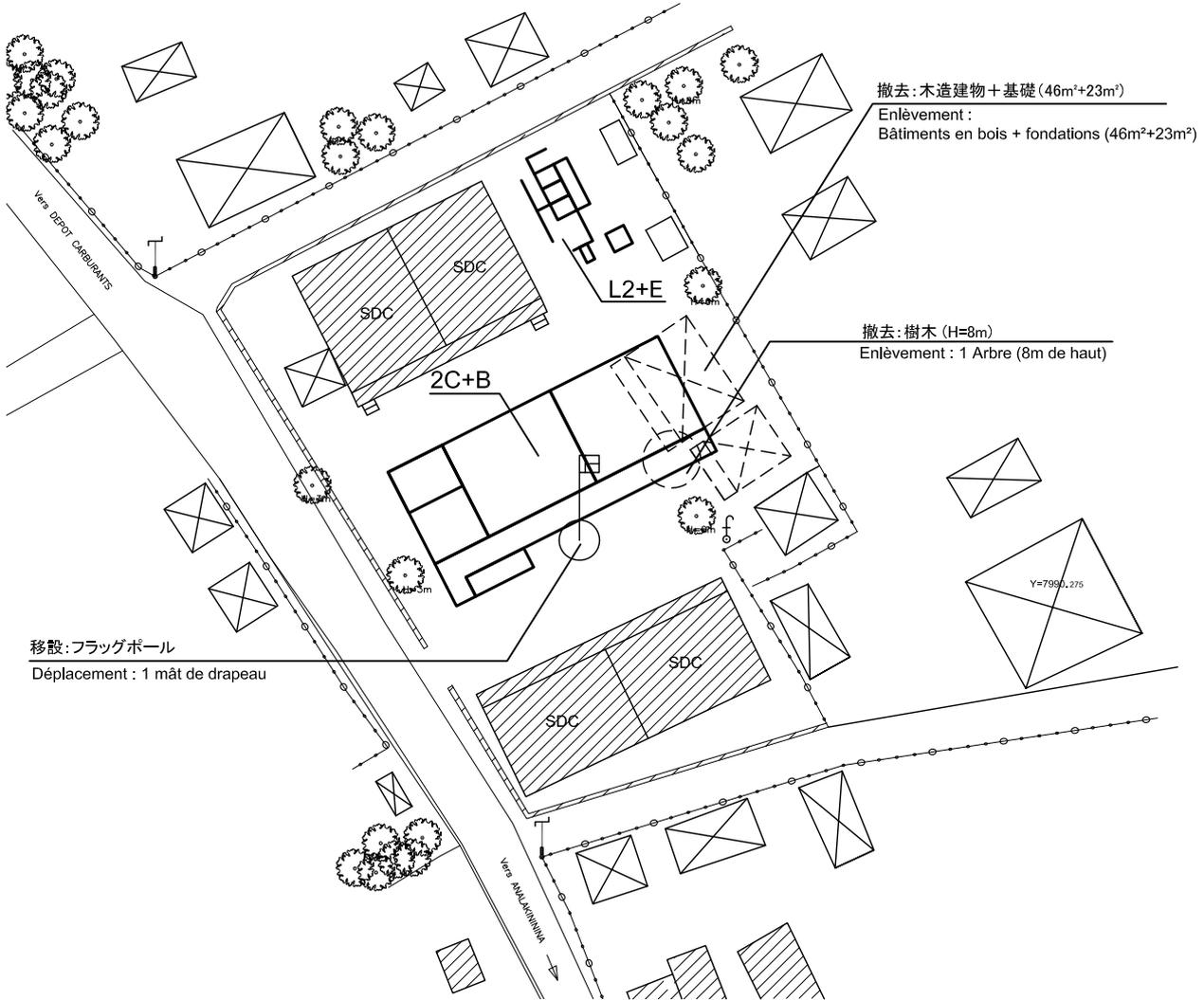
-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:1000





凡例:LEGENDE

- : 既存施設
Construction en dur
- : 既存施設(木造)
Construction en bois

- : フラッグポール
Mât de drapeau
- : 給水設備
Borne fontaine

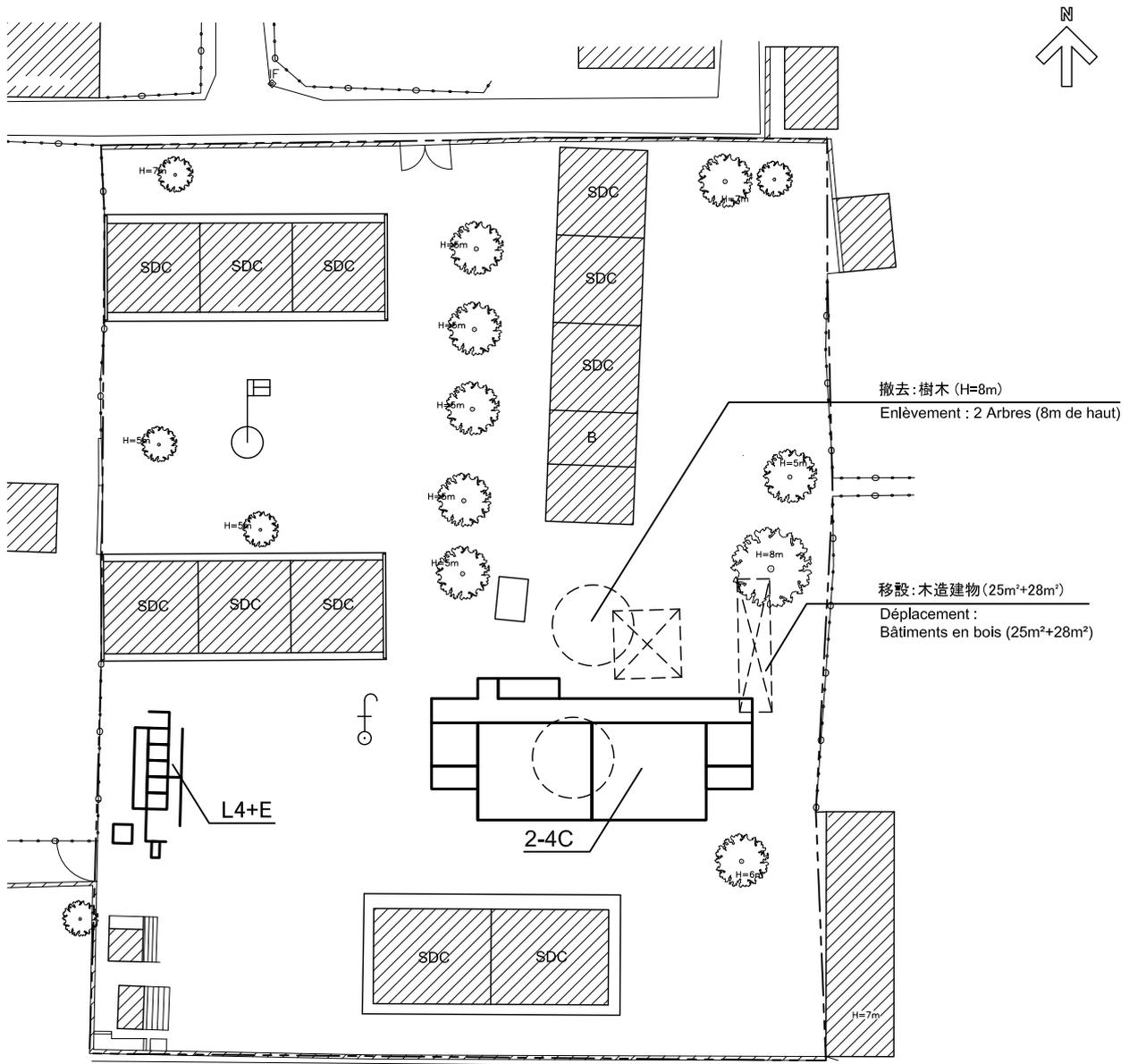
- : 敷地境界線
Limite de la propriété
- : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:500





凡例:LEGENDE

-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

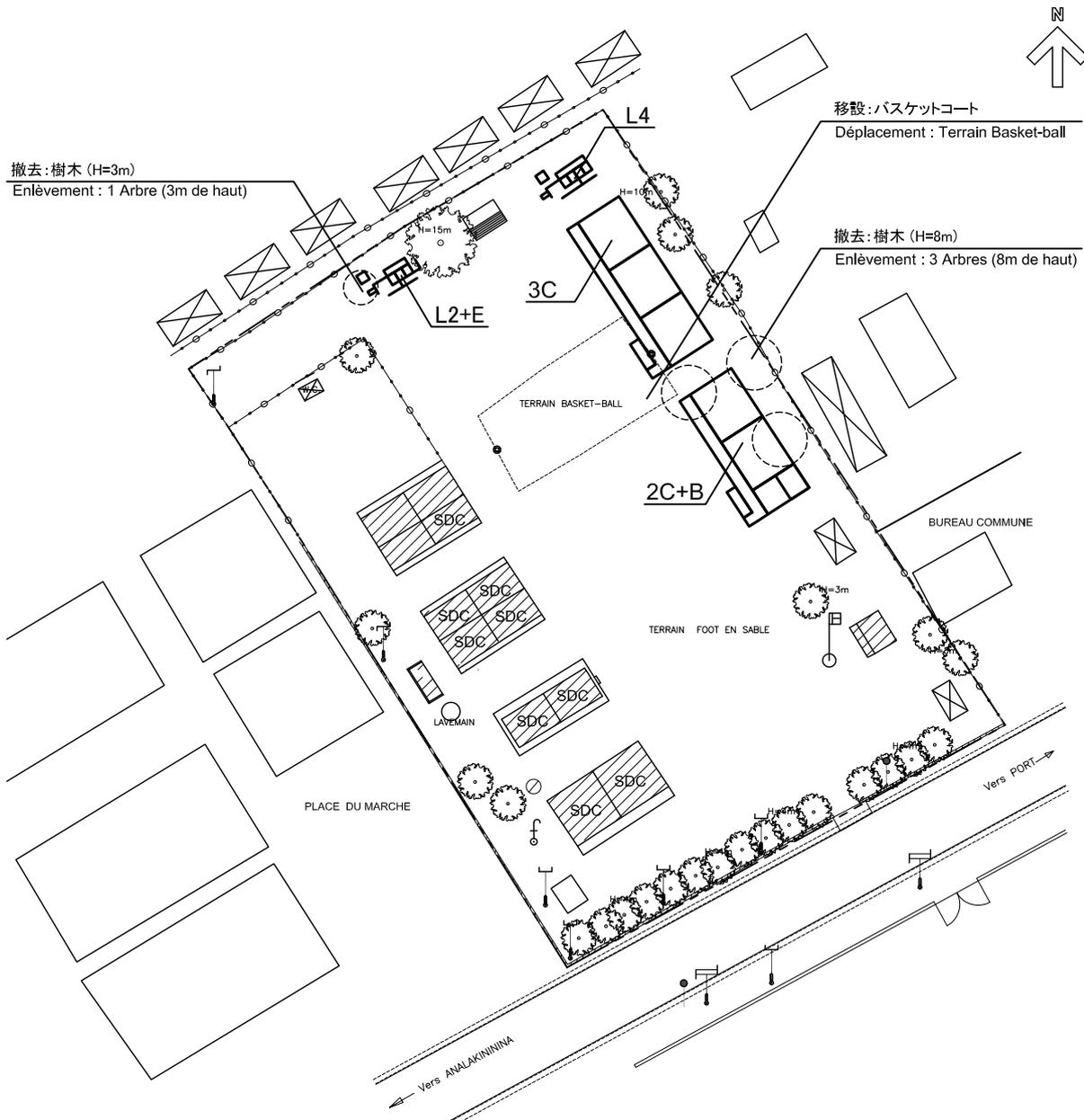
-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:500





凡例: LEGENDE

-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

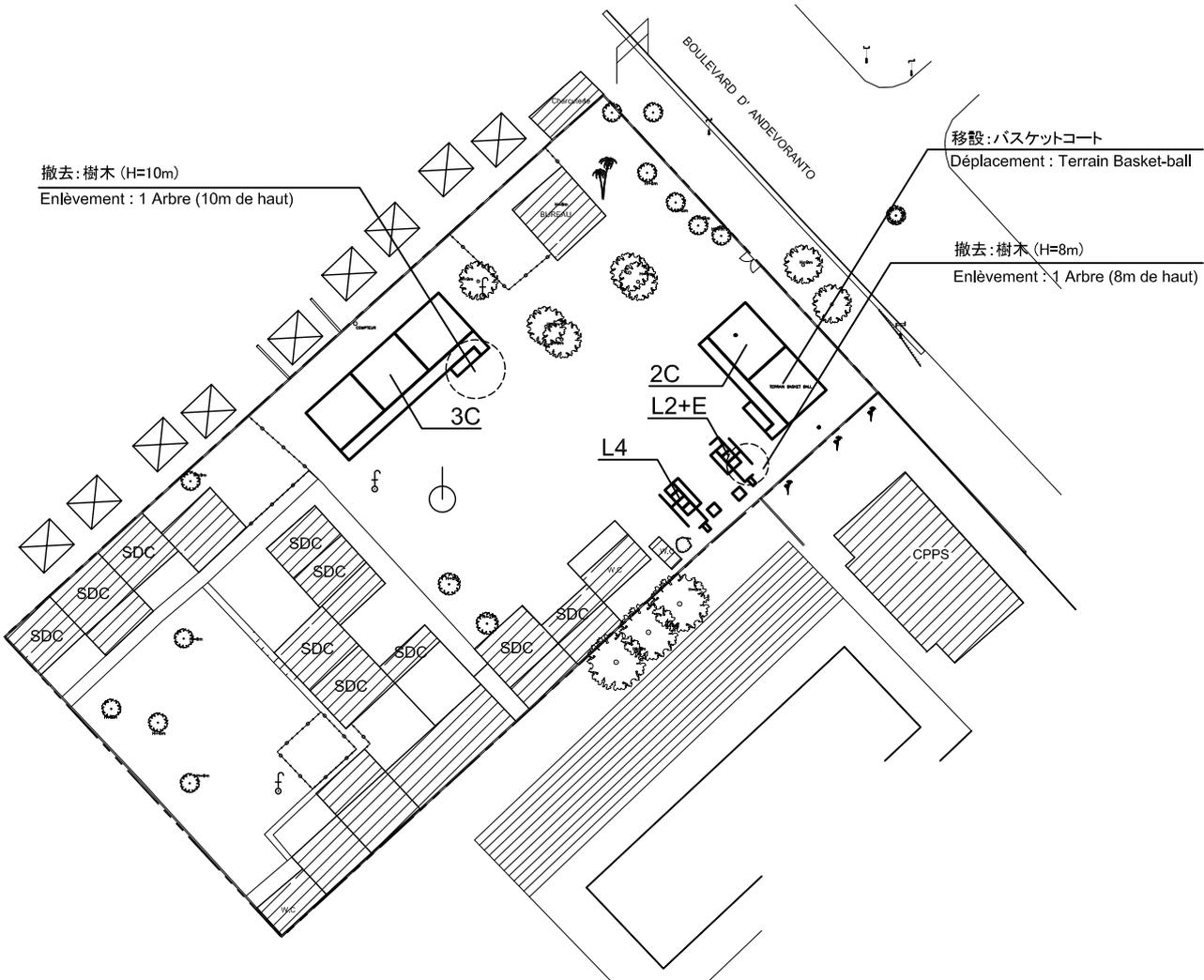
-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:1000

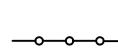




凡例:LEGENDE

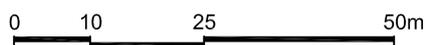
-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

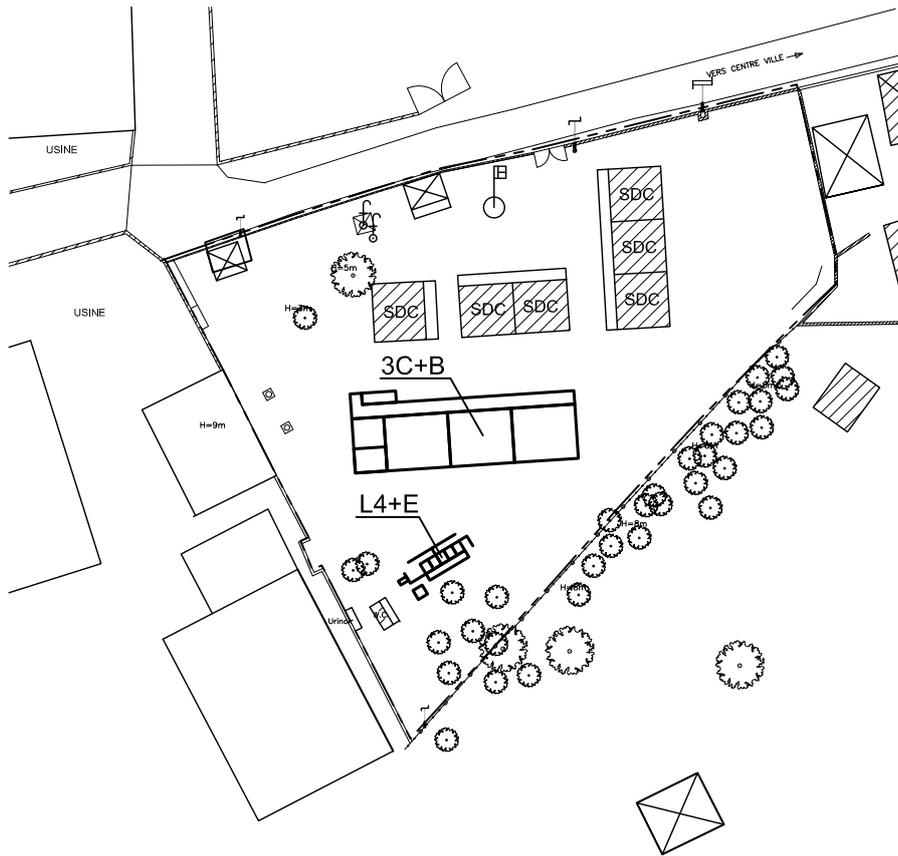
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000

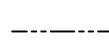
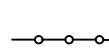




凡例:LEGENDE

-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

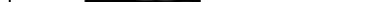
-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

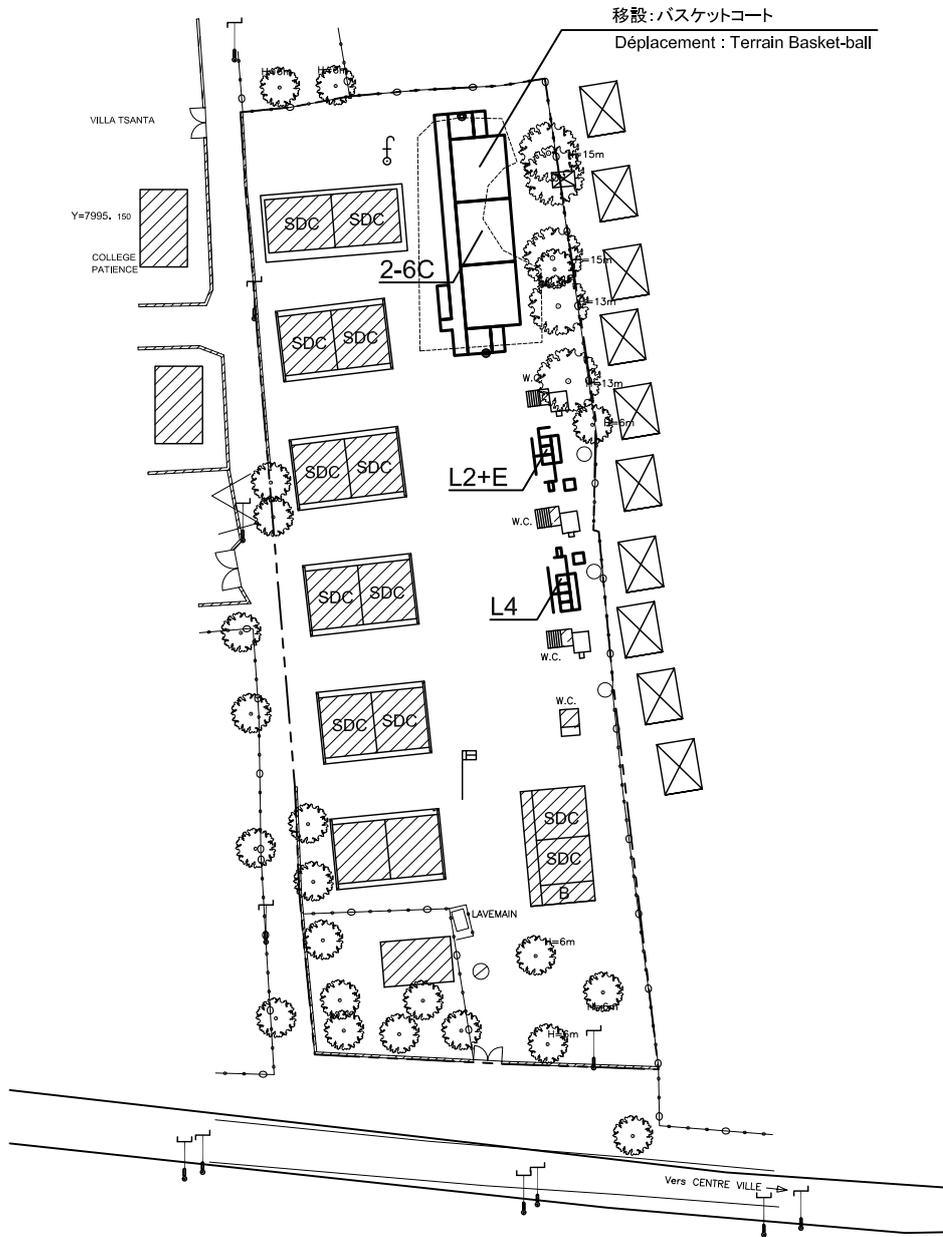
-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet
Scale / Echelle 1:1000

0 10 25 50m





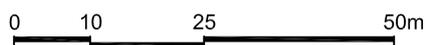
凡例:LEGENDE

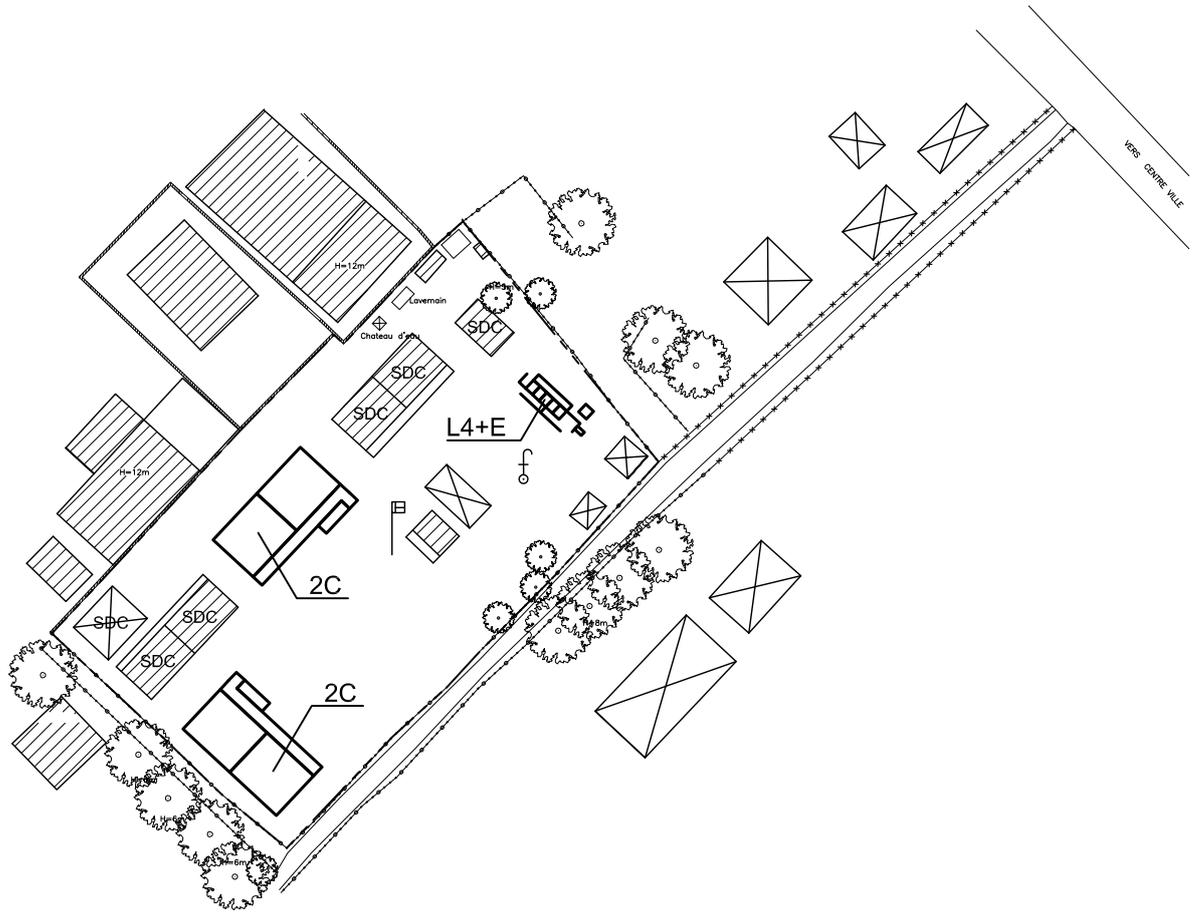
- | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|  | : 既存施設
Construction en dur |  | : フラッグポール
Mât de drapeau |  | : 敷地境界線
Limite de la propriété |
|  | : 既存施設(木造)
Construction en bois |  | : 給水設備
Borne fontaine |  | : 垣根
Clôture en bois ou légère |

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:1000





凡例:LEGENDE

-  : 既存施設
Construction en dur
-  : 既存施設(木造)
Construction en bois

-  : フラッグポール
Mât de drapeau
-  : 給水設備
Borne fontaine

-  : 敷地境界線
Limite de la propriété
-  : 垣根
Clôture en bois ou légère

計画配置図

Plan d'implantation du projet

Scale / Echelle 1:1000

